Dell™ XPS 600

オーナーズマニュアル

Model WHL

www.dell.com | support.dell.com

メモ、注意、警告

メモ：コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

注意：ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

警告：物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示します。

Dell™ n シリーズコンピュータをご購入された場合、このマニュアル内の Microsoft® Windows® オペレーティングシステムに関する記述は適用されません。

Model WHL

2005 年 11 月　　P/N DC602　　Rev. A03

目次

2 パフォーマンスの最適化

3 問題の解決

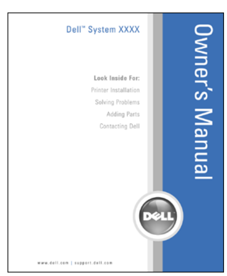
5 部品の取り外しと取り付け

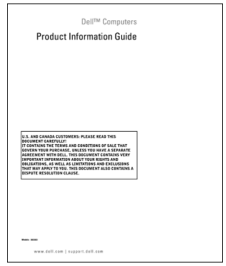
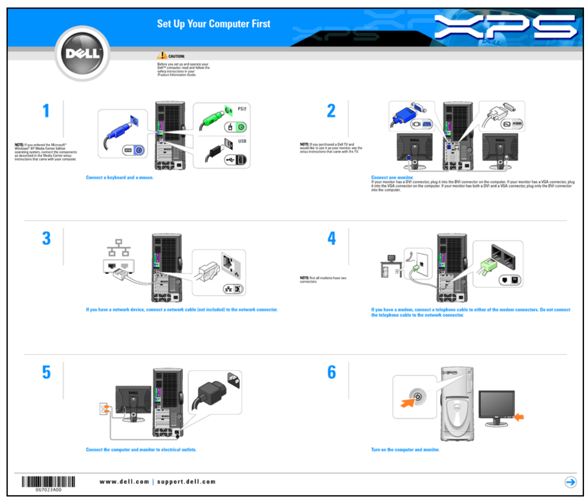
6 付録

情報の検索

メモ：一部の機能やメディアはオプションであり、同梱されていないコンピュータもあります。一部の機能やメディアは、国によってはご利用になれない場合があります。

メモ：追加情報がコンピュータに同梱されている場合があります。

何をお探しですか？	こちらをご覧ください
• コンピュータの診断プログラム • コンピュータのドライバ • デバイスのマニュアル • Desktop System Software（DSS）	**『Drivers and Utilities CD』（『ResourceCD』とも呼ばれます）** マニュアルおよびドライバは、コンピュータにプリインストールされています。この CD は、ドライバを再インストールしたり、Dell 診断プログラムを実行するときに使用します。  CD に収録されている Readme ファイルには、マニュアルの作成後にシステムに追加された変更や、技術者や専門知識をお持ちのユーザーを対象とするテクニカルリファレンスなどが記載されています。 **メモ：**ドライバとマニュアルのアップデートに関しては、**support.jp.dell.com** をご覧ください。 **メモ：**『Drivers and Utilities CD』はオプションなので、同梱されていないコンピュータもあります。
• コンピュータのセットアップ方法 • 基本的なトラブルシューティング情報 • Dell Diagnostics（診断）プログラムの実行方法 • プリンタのセットアップ方法 • コンピュータのセットアップに関する追加情報 • トラブルシューティングおよび問題解決の方法 • 部品の取り外しおよび取り付け方法 • 仕様 • デルへのお問い合わせ方法	**オーナーズマニュアル**  **メモ：**このマニュアルは **support.jp.dell.com** から PDF 形式で入手できます。

何をお探しですか？	こちらをご覧ください
• 保証に関する情報 • 契約条項（アメリカ合衆国、カナダ） • 安全にお使いいただくために • 認可機関の情報 • 快適な使い方 • エンドユーザーライセンス契約	**Dell™『製品情報ガイド』** 
• コンピュータのセットアップ方法	**セットアップ説明図** 

何をお探しですか？	こちらをご覧ください
• サービスタグとエクスプレスサービスコード • Microsoft Windows ライセンスラベル	**サービスタグと Microsoft® Windows® ライセンス** ラベルはコンピュータに貼付されています。 • サービスタグは、**support.jp.dell.com** を使用の際、またはテクニカルサポートへのお問い合わせの際に、コンピュータの識別に使用します。 • テクニカルサポートに連絡したときにエクスプレスサービスコードを入力すると、通話が直接接続されます。 

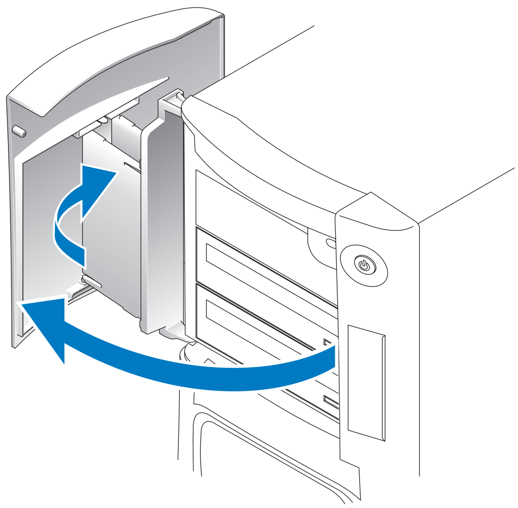
何をお探しですか？	こちらをご覧ください
• 技術情報 — Q & A 検索、トラブル解消ナビ、Diagnostics（診断）プログラム、インストールガイド、お問い合わせの多い質問 • Upgrades（アップグレード）— メモリ、ハードドライブ、またはオペレーティングシステムなどのコンポーネントに関するアップグレード情報 • 各種サービスのご案内 — サービスプラン、登録内容変更申込、リサイクル・買取サービス、引き取り修理状況確認など • サービスおよびサポート — サービスコールの状況とサービス履歴、サービス契約 • 参照資料 — マニュアル、コンピュータの設定に関する詳細情報、製品仕様、ホワイトペーパーなど • ダウンロード — 認定ドライバ、パッチ、ソフトウェアのアップデート • デスクトップシステムソフトウェア（DSS）— コンピュータにオペレーティングシステムを再インストールする場合、DSS ユーティリティも再インストールする必要があります。DSS は、オペレーティングシステムの重要なアップデート、Dell 3.5 インチ USB フロッピードライブ、Intel® Pentium® M プロセッサ、オプティカルドライブ、および USB デバイスに関するサポートを提供します。DSS は、Dell コンピュータが正しく動作するために必要です。このソフトウェアは、お使いのコンピュータとオペレーティングシステムを自動的に判別し、構成に合わせて適切なアップデート分をインストールします。	**デルサポートサイト — support.jp.dell.com** **メモ：**お住まいの地域を選択し、お近くのサポートサイトを表示します。 **メモ：**企業、政府および教育関係のユーザーには、カスタマイズされた Dell Premier サポートウェブサイト **premier.dell.co.jp/premier** もご利用いただけます。
デスクトップシステムソフトウェアをダウンロードするには、次の手順を実行します。 1 **support.jp.dell.com** にアクセスし、お客様の属性（セグメント）をクリックした後、製品サポート、各種ドライバ・ファームウェアダウンロードをクリックします。 2 製品モデルを選択します。 3 お手持ちの OS の種類をクリックします。 4 システム構成ユーティリティまでスクロールし、**Dell Desktop** システムユーティリティをクリックします。	

何をお探しですか？	こちらをご覧ください
• Windows XP の使い方	**Windows ヘルプとサポートセンター** 1 **スタート** ボタンをクリックして、**ヘルプとサポート** をクリックします。 2 問題に関連する用語やフレーズを **検索** ボックスに入力して、矢印アイコンをクリックします。 3 問題に関連するトピックをクリックします。 4 画面の指示に従います。
• オペレーティングシステムの再インストール方法	**オペレーティングシステム CD** オペレーティングシステムは、コンピュータにプリインストールされています。オペレーティングシステムを再インストールする場合は、『オペレーティングシステム CD』を使用します。「Windows XP の再インストール」（73 ページ）を参照してください。  オペレーティングシステムを再インストールした後、『*ResourceCD*』を使用して、コンピュータに付属しているデバイス用のドライバを再インストールします。 **メモ：**CD の色はご注文になったオペレーティングシステムによって異なります。

1

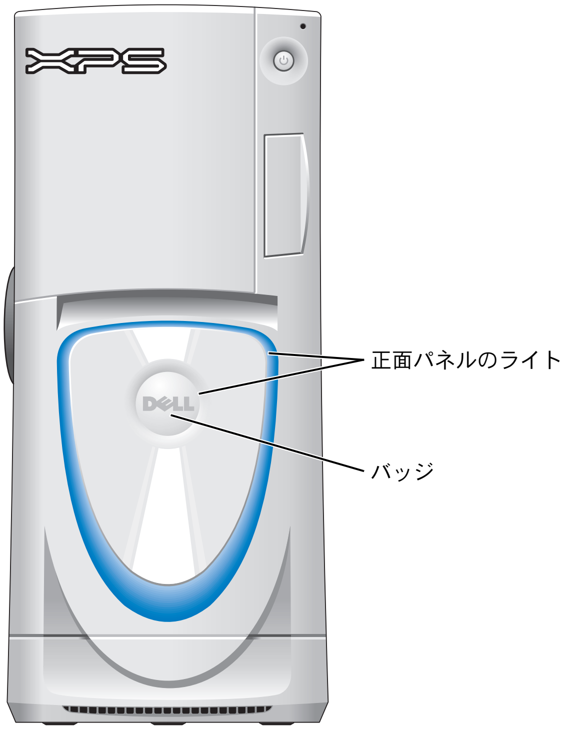
コンピュータのセットアップと使用

ドライブドアの開き方



正面パネルのライト色の変更

この Dell™ XPS 独自の機能を使用すると、コンピュータ正面の Dell のロゴとバッジの周囲に光る正面パネルのライト色を変更したり、正面パネルのライトを完全に消灯したりできます。



いくつかの色から選択できます。

- オフ
- ルビー
- エメラルド
- サファイア（デフォルト）
- アンバー
- アメジスト
- トパーズ
- ダイヤモンド

警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。

メモ：正面パネルのライトは、診断の目的には使用されません。

1 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従ってください。

2 コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。

3 <F2> を押してセットアップユーティリティを起動します（セットアップユーティリティの起動の詳細については、「セットアップユーティリティの起動」（144 ページ）を参照してください）。

4 **Onboard Devices**（オンボードデバイス）オプションを選択します。

5 **Front LED Color**（正面 LED 色）を選択して <Enter> を押します。

6 左右矢印キーを押して、色のオプションを変更します。オプションの変更に従って、正面パネルのライト色が変わります。

7 使用する色を選択して <Enter> を押します。

8 <Esc> を押し、次に **Save and Exit**（保存して終了）を押して、正面パネルのライト色の新しい設定を保存します。

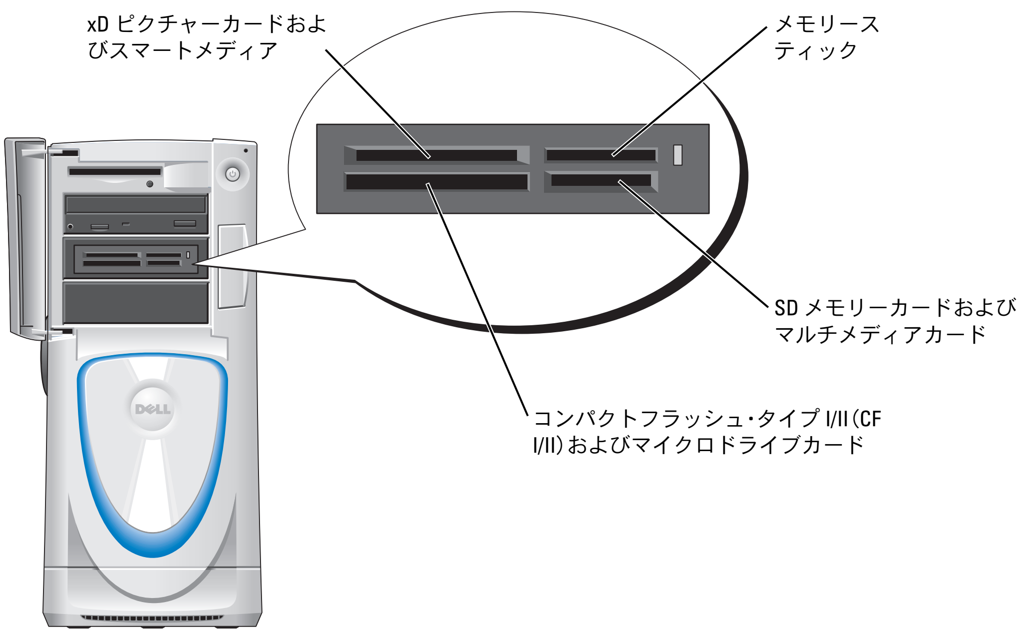
メディアカードリーダーの使用（オプション）

メディアカードリーダーを使用してコンピュータに直接データを転送します。

メディアカードリーダーは以下の種類のメモリに対応しています。

- xD ピクチャーカード
- スマートメディア（SMC）
- コンパクトフラッシュ・タイプ I/II（CF I/II）
- マイクロドライブカード
- SD メモリーカード
- マルチメディアカード（MMC）
- メモリースティック（MS/MS Pro）

メディアカードリーダーの取り付けについては、「メディアカードリーダーの取り付け」（117 ページ）を参照してください。



メディアカードリーダーを使用するには、次の手順を実行します。

1 メディアやカードをチェックして、正しい挿入方向を確認します。

2 メディアやカードを正しいスロットに差し込んで、コネクタに完全に固定します。

スムーズに差し込むことができない場合は、メディアやカードを無理に差し込まずに、カードの向きを確認してやり直してください。

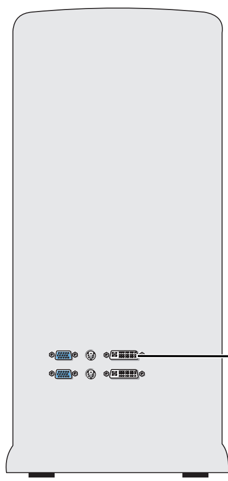
モニターの接続

警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。

メモ：コンピュータ購入時の選択により、ビデオカードには DVI ポートが 2 つある場合と DVI ポートと VGA ポートが 1 つずつある場合があります。

モニター 1 台をデュアル構成の PCI Express グラフィックカードに接続

PCI Express グラフィックカードをデュアル構成で使用する場合は、モニター 1 台しかサポートされません。モニターはプライマリビデオカードに接続してください。そうしないとモニターは機能しません。



2 台のモニターの接続

メモ：本項の説明に従って 2 台のモニターを接続して使用するには、グラフィックカードと構成がデュアルモニターをサポートしている必要があります。

お使いのコンピュータに内蔵のグラフィックカードには、S- ビデオポート 1 つ、および DVI ポート 2 つと DVI-VGA アダプタ 1 つ、または DVI ポートと VGA ポートが 1 つずつ備わっています。

モニターの DVI または VGA コネクタをコンピュータの DVI または（オプションの）VGA ポートに直接取り付けることでモニターを接続する場合は、「2 台のモニターの接続（アダプタを使用しない）」（19 ページ）を参照してください。VGA ポート 1 つではなく、DVI ポート 2 つを備えたグラフィックカードを購入され、VGA モニターを使用する必要がある場合は、「2 台のモニターの接続（アダプタを使用）」（20 ページ）を参照してください。

2 台のモニターの接続（アダプタを使用しない）

メモ：コンピュータ購入時の選択により、ビデオカードには DVI ポートが 2 つある場合と DVI ポートと VGA ポートが 1 つずつある場合があります。

DVI コネクタがある 2 台のモニターをコンピュータの 2 つのオプションの DVI ポートに接続する場合、または DVI コネクタがある 1 台のモニターと 1 台の VGA モニターをコンピュータの DVI ポートとオプションの VGA ポートに接続する場合は、以下の手順に従ってください。

モニターのコネクタが VGA で、コンピュータには 2 つの DVI ポートがある場合は、「2 台のモニターの接続（アダプタを使用）」（20 ページ）の手順に従います。

メモ：PCI Express グラフィックカードをデュアル構成で使用する場合は、モニター 1 台しかサポートされません。

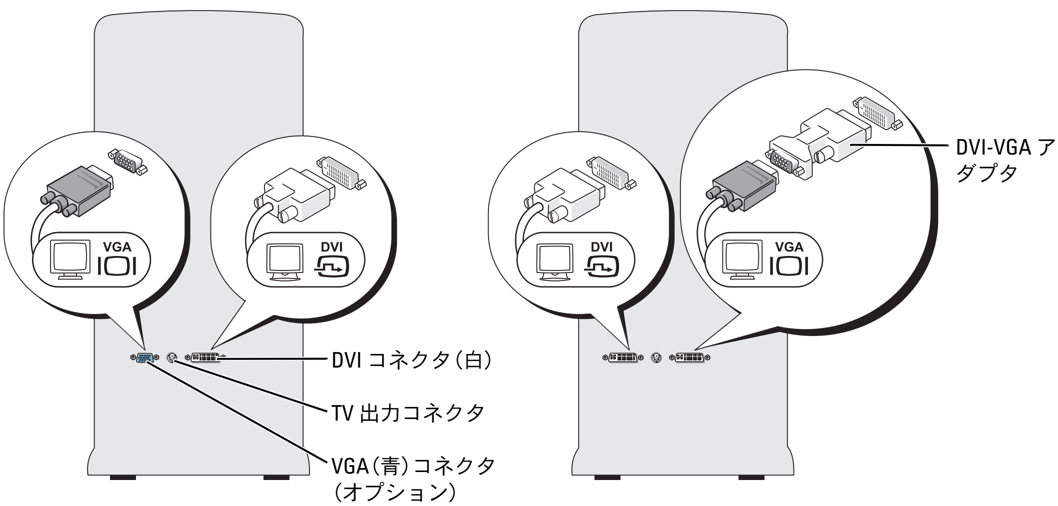
1 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従ってください。

2 各モニターをコンピュータ背面の適切なコネクタに接続します。

モニターに DVI コネクタがある場合は、コンピュータの白の DVI ポートを使用します。

モニターに VGA コネクタがある場合は、コンピュータの（オプションの）青の VGA ポートを使用します。

3 両方のモニターをサポートするようにディスプレイ設定を変更します（「2 台のモニターをサポートするようにディスプレイ設定を変更」（20 ページ）を参照）。



2 台のモニターの接続（アダプタを使用）

VGA ポート 1 つではなく、DVI ポート 2 つを備えたグラフィックカードを購入され、VGA モニターを使用する必要がある場合は、以下の手順に従ってください。

メモ：PCI Express グラフィックカードをデュアル構成で使用する場合は、モニター 1 台しかサポートされません。

1 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従ってください。
2 適切なモニターの DVI コネクタをコンピュータ背面の白の DVI ポートに接続します。

 メモ：お使いのグラフィックスカードが、VGA モニターの DVI ポートへの接続をサポートしている必要があります。

3 DVI-VGA アダプタをもう 1 台のモニターの VGA コネクタに接続し、そのアダプタをコンピュータ背面の白の DVI ポートに接続します。
4 両方のモニターをサポートするようにディスプレイ設定を変更します（「2 台のモニターをサポートするようにディスプレイ設定を変更」（20 ページ）を参照）。

TV の接続

メモ：TV を接続する場合は、その TV の他にモニター（VGA または DVI）を 1 台だけ接続できます。

メモ：TV に付属するマニュアルを参照して、TV の設定と接続が正しくできていることを確認してください。

TV をコンピュータへ接続するには、S ビデオケーブルを購入する必要があります。S ビデオケーブルは、ほとんどの電気店で入手できます。S ビデオケーブルはコンピュータには付属していません。

1 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従ってください。
2 S ビデオケーブルの一方の端を、コンピュータの背面にある TV 出力コネクタに接続します。
3 S ビデオケーブルのもう一方の端を、TV の S ビデオ入力コネクタに接続します。
4 前項 「2 台のモニターの接続（アダプタを使用しない）」（19 ページ）の手順に従って、1 台の VGA または DVI モニターを接続します。

2 台のモニターをサポートするようにディスプレイ設定を変更

1 モニターを接続したら、コンピュータの電源を入れます。

 Microsoft® Windows® のデスクトップがプライマリモニターに表示されます。

2 ディスプレイ設定でクローンモードまたは拡張デスクトップモードを有効にします。

- クローンモードでは、両方のモニターが同じ画像を表示します。
- 拡張デスクトップモードでは、オブジェクトを 1 つの画面から別の画面にドラッグすることができ、表示可能なワークスペースの量を倍増させることができます。

お使いのグラフィックスカードに合わせた画面設定の変更については、ヘルプとサポートセンターのユーザーズガイドを参照してください（**スタート** ボタン、**ヘルプとサポート**、**ユーザーズガイドおよびシステムガイド**、**Device guides**（デバイスガイド）の順にクリックし、グラフィックスカードのガイドをクリックします）。

シリアル ATA ドライブについて

このコンピュータでは、シリアル ATA ハードドライブが 3 台までサポートされます。シリアル ATA ドライブには、シリアル接続技術と、IDE ケーブルよりも細くて長いフレキシブルケーブルを使用してデータを転送することにより、次の利点があります。

- ケーブルの配線経路が改善され、シャーシ内の換気効率が向上します。
- ケーブルコネクタが小さいため、システム基板上やハードドライブ上のスペースを節約できます。これに加え、ケーブルの配線経路の改善により、シャーシ内部のスペースをより効率的に使用できます。

シリアル ATA ドライブの接続については、「ハードドライブ」（107 ページ）を参照してください。

RAID 構成について

注意：RAID アレイに移行する場合は、オペレーティングシステムをハードドライブにロードする前に、そのドライブをシングルドライブの RAID 0 アレイとして設定してください。手順については、「Nvidia MediaShield ROM ユーティリティによるアレイの作成方法」（24 ページ）を参照してください。

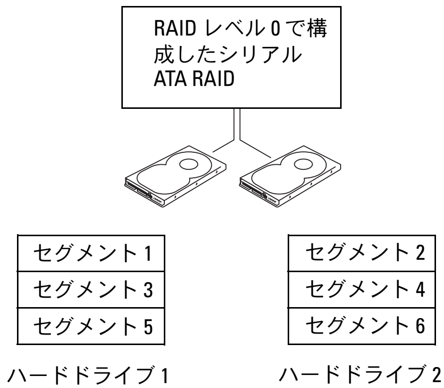
本項では、RAID 構成の概要を説明します。コンピュータのご購入時に RAID 構成を選択している場合があります。デルでは、お使いの Dell™ XPS コンピュータについては、RAID レベル 0 構成または RAID レベル 1 構成をご用意しています。ゲームのように高いパフォーマンスが要求される場合には RAID レベル 0 構成、デジタル写真やオーディオのようにデータの保全性が要求される場合には RAID レベル 1 構成をお勧めします。

メモ：RAID レベルは階層を表すものではありません。RAID レベル 1 構成は、RAID レベル 0 構成より本質的に優れても劣ってもいません。

容量が大きいドライブに未割り当ての（使用できない）領域ができないように、アレイ内のドライブを同じ容量にする必要があります。

RAID レベル 0 構成

RAID レベル 0 構成では､「データストライピング」と呼ばれるストレージ技術を使用して､データアクセス速度を高速化します。データストライピングは、連続するデータセグメント（ストライプ）を複数の物理ドライブに順次書き込むことで、大容量の仮想ドライブとして扱う方法です。データストライピングにより、1 台のドライブでデータを読み込む間に、別のドライブで次のブロックの検索と読み込みができます。

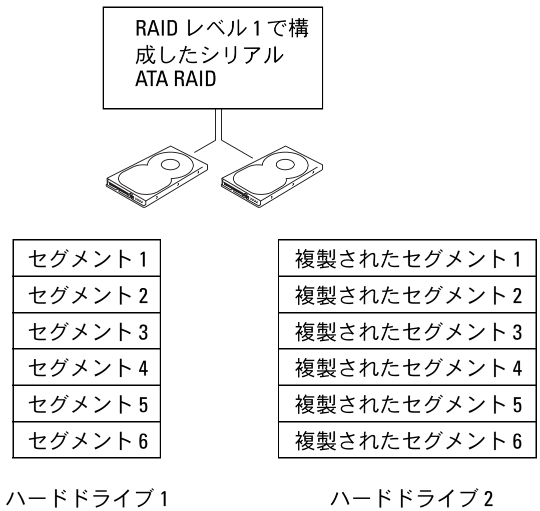


RAID レベル 0 構成のもう 1 つの利点は、各ドライブの全容量を使用できることです。たとえば 120 GB のドライブを 2 台取り付けている場合、データの保存に 240 GB を使用できます。

注意：RAID レベル 0 構成ではデータの冗長性がないため、いずれかのドライブに障害が発生した場合には、その他のドライブ上のデータにもアクセスできなくなります。したがって、RAID レベル 0 構成を使用する場合は、定期的にバックアップを行ってください。

RAID レベル 1 構成

RAID レベル 1 では、「ミラーリング」と呼ばれる、データの冗長性を持たせたストレージ技術を使用します。プライマリドライブにデータが書き込まれると、そのデータは他のドライブ上に複製（ミラーリング）されます。RAID レベル 1 では、データの冗長性の利点を重視しているため、データアクセス速度が犠牲になります。



いずれかのドライブに障害が発生した場合、それ以降の読み書き操作は、正常に動作しているドライブに対して行われます。その正常なドライブのデータを使用して、交換用ドライブを再構築できます。また、両方のドライブにデータが複製されるため、2 台の 120 GB ハードドライブを用いた RAID レベル 1 構成では、データの保存に使用できるのは合計で最大 120 GB となります。

ハードドライブを RAID に設定する

注意：RAID アレイに移行する場合は、オペレーティングシステムをハードドライブにロードする前に、そのドライブをシングルドライブの RAID 0 アレイとして設定してください。手順については、「Nvidia MediaShield ROM ユーティリティによるアレイの作成方法」（24 ページ）を参照してください。

コンピュータの購入時に RAID 構成を選択しなかった場合でも、後でお使いのコンピュータに RAID 構成を行うことができます。RAID 構成を行うには、お使いのコンピュータに少なくとも 2 台のハードドライブが取り付けられている必要があります。ハードドライブの取り付け手順については、「ハードドライブの取り付け」（108 ページ）を参照してください。

RAID ハードドライブボリュームを構成するには 2 つの方法があります。1 つは Nvidia MediaShield ROM ユーティリティを使用する方法で、ハードドライブにオペレーティングシステムをインストールする前に実行します。2 つ目は Nvidia MediaShield を使用する方法で、Nvidia RAID ドライバを使用してオペレーティングシステムをインストールした後で実行します。

どちらの方法でも、本書に記載されている RAID 構成手順を開始する前に、お使いのコンピュータを RAID 使用可能モードに設定する必要があります。

ハードドライブを RAID 使用可能モードに設定する

1 セットアップユーティリティを起動します（「セットアップユーティリティの起動」（144 ページ）を参照）。

2 上下矢印キーを押して **Drives**（ドライブ）をハイライト表示し、<Enter> を押します。

3 上下矢印キーを押して適切な SATA ドライブをハイライト表示し、<Enter> を押します。

4 左右矢印キーを押して **RAID On**（RAID オン）をハイライト表示し、<Enter> を押してから <Esc> を押します。

   メモ：RAID オプションの詳細については、「セットアップオプション」（145 ページ）を参照してください。

5 左右矢印キーを押して **Save/Exit**（保存 / 終了）をハイライト表示し、<Enter> を押してセットアップユーティリティを終了し、起動プロセスに戻ります。各 SATA ハードドライブに対して、必要に応じてこの手順を繰り返します。

Nvidia MediaShield ROM ユーティリティによるアレイの作成方法

注意：以下の手順で RAID 構成を作成すると、お使いのハードドライブ上のデータはすべて消去されます。続行する前に、必要なデータのバックアップを行ってください。

注意：RAID アレイに移行する場合は、オペレーティングシステムをハードドライブにロードする前に、そのドライブをシングルドライブの RAID 0 アレイとして設定してください。手順については、「Nvidia MediaShield ROM ユーティリティによるアレイの作成方法」（24 ページ）を参照してください。

メモ：次の手順は、オペレーティングシステムを再インストールする場合にのみ実行します。既存のストレージ構成を RAID 構成に移行する場合は、次の手順は使用しません。

RAID 構成の作成には任意の容量のドライブを使用できますが、すべてのドライブを同じ容量にするのが理想的です。RAID レベル 0 設定では、小さい方のドライブの容量に、その構成に含まれるドライブの台数（2）を乗じた値が、その構成全体の容量になります。RAID レベル 1 設定では、使用する 2 台のドライブのうち小さい方の容量が、その構成全体の容量になります。

1 ハードドライブの RAID を有効にします（「ハードドライブを RAID 使用可能モードに設定する」（24 ページ）を参照）。

2 RAID BIOS の起動を求めるプロンプトが表示されたら、<Ctrl-n> を押します。

注意：ウィンドウが閉じる前に <Ctrl-n> を押すことができなかった場合はコンピュータを再起動し、プロンプトが再度表示されるまで待ちます。

Define a New Array（新しいアレイの定義）ウィンドウが表示されます。

3 <Tab> を押して **RAID Mode**（RAID モード）フィールドに移動します。

RAID 0 構成を作成するには、矢印キーを使用して **Striping**（ストライピング）を選択します。

RAID 1 構成を作成するには、矢印キーを使用して **Mirroring**（ミラーリング）を選択します。

4 <Tab> を押して **Free Disks**（空きディスク）フィールドに移動します。

5 左右の矢印キーを使用して、RAID アレイに含めるハードドライブを選択し、一覧にあるハードドライブを **Free Disks**（空きディスク）フィールドから **Array Disks**（アレイディスク）フィールドに移動します。

メモ：お使いのコンピュータでは、RAID1 アレイあたり最大 2 台、RAID0 アレイあたり最大 3 台のドライブをサポートしています。

6 ハードドライブをアレイに割り当てたら、<F9> を押します。

注意：次の手順で、選択したドライブ上のデータがすべて消去されます。

7 選択したドライブからすべてのデータを消去するには、<Y> を押します。

Array Detail（アレイの詳細）ウィンドウが表示されます。

8 アレイを起動用に指定するには、矢印キーを使用してアレイを選択し、<B> を押します。

9 セットアップしたアレイの詳細を確認するには、矢印キーを使用して **Array Detail**（アレイの詳細）ウィンドウ内のアレイをハイライト表示し、<Enter> を押します。

アレイを削除するには、矢印キーを使用してアレイに移動し、<D> を押します。

<Enter> を押すと、前の画面に戻ります。

10 RAID BIOS を終了するには、<Ctrl><X> を押します。

Nvidia MediaShield の使い方

Nvidia MediaShield を使用して、RAID 構成を作成、表示、管理することができます。オペレーティングシステムがインストールされたハードドライブがすでに 1 台あり、既存のオペレーティングシステムとデータを失うことなく、2 台目のハードドライブを追加して両方のドライブを RAID ボリュームに再構成したい場合は、モーフィングオプションを使用する必要があります（「シングルドライブの RAID 0 構成からデュアルドライブの RAID 構成へのモーフィング」（27 ページ）を参照）。

シングルドライブのレベル 0 RAID アレイとして設定された既存のシングルドライブコンピュータに 2 台の新しいドライブを追加し、その 2 台を 1 つの RAID アレイとして構成する場合のみ、RAID レベル 0 ボリュームまたは RAID レベル 1 ボリュームを作成してください。

Nvidia MediaShield を使用した RAID 構成の作成には任意の容量のドライブを使用できますが、すべてのドライブを同じ容量にするのが理想的です。RAID レベル 0 設定では、最も小さいドライブの容量に、その構成に含まれるドライブの台数（2）を乗じた値が、その構成全体の容量になります。RAID レベル 1 設定では、使用する 2 台のドライブのうち小さい方の容量が、その構成全体の容量になります。

RAID アレイの作成

注意：以下の手順で RAID 構成を作成すると、お使いのハードドライブ上のデータはすべて消去されます。続行する前に、必要なデータのバックアップを行ってください。

メモ：既存のストレージ構成を RAID レベル 0 構成に移行する場合は、次の手順は使用しません。

1 ハードドライブの RAID を有効にします（「ハードドライブを RAID 使用可能モードに設定する」（24 ページ）を参照）。

2 コンピュータを再起動した後で、Nvidia MediaShield を起動します。

3 **System Tasks**（システムタスク）ペインで **Create Array**（アレイの作成）をクリックします。

   Create Array Wizard （アレイ作成ウィザード）が表示されます。

4 ドロップダウンボックスから、RAID 0 の場合は **Striping**（ストライピング）、RAID 1 の場合は **Mirroring**（ミラーリング）を選択します。

5 **次へ** をクリックします。

6 RAID を構成するドライブをクリックして選択します。

   メモ：お使いのコンピュータでは、RAID1 アレイあたり最大 2 台、RAID0 アレイあたり最大 3 台のドライブをサポートしています。

7 希望のオプションを選択します。

   注意：Clear System Data（システムデータの消去）オプションを選択すると、選択したドライブ上のすべてのデータが削除されます。

8 **次へ** をクリックします。

9 **Finish**（完了）をクリックすると、RAID 構成が作成されます。

アレイおよび取り付けられているその他のハードドライブが NVRAID 管理ユーティリティウィンドウに表示されるはずです。

RAID アレイの削除

メモ：この手順を実行すると、RAID 1 ボリュームが削除されると同時に、その RAID 1 ボリュームはパーティションを持つ 2 つの非 RAID ハードドライブに分割され、既存のデータファイルがある場合はそれらのファイルは元の状態のまま保持されます。しかし、RAID 0 ボリュームを削除する場合は、そのボリューム上のすべてのデータが消去されます。

メモ：コンピュータが現在 RAID から起動している場合は、RAID ボリュームを削除すると起動できなくなります。

1 Nvidia MediaShield を起動します。

2 アレイをクリックして選択します。

3 **System Tasks**（システムタスク）ペインで **Delete Array**（アレイの削除）をクリックします。

Delete Array Wizard（アレイ削除ウィザード）が表示されます。

4 **次へ** をクリックします。

削除のマークを付けたアレイの名前とサイズを示す確認画面が表示されます。

5 **Finish**（完了）をクリックすると、RAID 構成が削除されます。

その他のアレイおよび取り付けられているハードドライブが NVRAID 管理ユーティリティウィンドウに表示されるはずです。

シングルドライブの RAID 0 構成からデュアルドライブの RAID 構成へのモーフィング

新しいハードドライブをコンピュータに追加し、データを失うことなくそのハードドライブと古いハードドライブを RAID 1 レベル構成に組み直したい場合は、以下の手順に従ってください。

1 Nvidia MediaShield を起動します。

メモ：既存のハードドライブ（RAID ボリュームに残しておきたいデータまたはオペレーティングシステムファイルが入っているハードドライブ）をコピー元ドライブとして選択します。

2 アレイをクリックして選択します。

3 **System Tasks**（システムタスク）ペインで **Convert Array**（アレイの変換）をクリックします。

Convert Array Wizard（アレイ変換ウィザード）が表示されます。

4 **次へ** をクリックします。

5 ドロップダウンメニューから **Mirroring**（ミラーリング）または **Striping**（ストライピング）を選択します。

6 **次へ** をクリックします。

注意：次のステップで、ターゲットメンバードライブに保存されているすべてのデータが消去されます。

7 横のチェックボックスをクリックして、新しいハードドライブを選択します。

8 **完了** をクリックします。

劣化した RAID レベル 1 構成の再構築

お使いのコンピュータで RAID レベル 1 ボリュームの劣化が報告された場合には、次の手順を実行することで、コンピュータの冗長ミラーを新しいハードドライブに手動で再構築することができます。

1 Nvidia MediaShield を起動します。

2 管理ユーティリティウィンドウで **Mirroring**（ミラーリング）をクリックします。

3 **System Tasks**（システムタスク）ペインで、**Rebuild Array**（アレイの再構築）を選択します。

Rebuild Array Wizard（アレイ再構築ウィザード）が表示されます。

4 **次へ** をクリックします。

5 再構築するハードドライブをクリックして選択します。

6 **完了** をクリックします。

コンピュータが RAID レベル 1 ボリュームを再構築する間も、コンピュータを使用できます。

新しいコンピュータへの情報の転送

Microsoft® Windows® XP オペレーティングシステムには、データを元の（古い）コンピュータから新しいコンピュータに転送するファイルと設定の転送ウィザードがあります。以下のデータが転送できます。

- E メール
- ツールバーの設定
- ウィンドウのサイズ
- インターネットのブックマーク

新しいコンピュータにネットワークまたはシリアル接続を介してデータを移行するか、書き込み可能 CD またはフロッピーディスクなどのリムーバブルメディアに保存します。

新しいコンピュータでファイルの転送の準備をするには、次の手順を実行します。

1 **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム→ アクセサリ→システムツール** とポイントしてから、**ファイルと設定の転送ウィザード** をクリックします。

2 **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面が表示されたら、**次へ** をクリックします。

3 **これはどちらのコンピュータですか ?** 画面で、**転送先の新しいコンピュータ** をクリックして、**次へ** をクリックします。

4 **Windows XP CD がありますか ?** 画面で、**Windows XP CD からウィザードを使います** をクリックして、**次へ** をクリックします。

5 **今、古いコンピュータに行ってください。** 画面が表示されたら、古いコンピュータまたはソースコンピュータの前に行きます。このときに、**次へ** をクリックしないでください。

古いコンピュータからデータをコピーするには、次の手順を実行します。

1 古いコンピュータで、Windows XP の『オペレーティングシステム CD』を挿入します。

2 **Microsoft Windows XP** 画面で、**追加のタスクを実行する** をクリックします。

3 **実行する操作の選択** 画面で、**ファイルと設定を転送する** をクリックします。

4 **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面で、**次へ** をクリックします。

5 **これはどちらのコンピュータですか ?** 画面で、**転送元の古いコンピュータ** をクリックして、**次へ** をクリックします。

6 **転送方法を選択してください。** 画面で、希望の転送方法をクリックします。

7 **何を転送しますか ?** 画面で、転送するアイテムをクリックして、**次へ** をクリックします。

   情報がコピーされた後、**ファイルと設定の収集フェーズを処理しています ...** 画面が表示されます。

8 **完了** をクリックします。

新しいコンピュータにデータを転送するには、次の手順を実行します。

1 新しいコンピュータの **今、古いコンピュータに行ってください。** 画面で、**次へ** をクリックします。

2 **ファイルと設定はどこにありますか ?** 画面で、設定とファイルを転送する方法を選んで、**次へ** をクリックします。

   ウィザードは収集されたファイルと設定を読み取り、それらを新しいコンピュータに適用します。

   設定とファイルがすべて適用されると、**ファイルと設定の転送ウィザードの完了** 画面が表示されます。

3 **完了** をクリックして、コンピュータを再起動します。

CD および DVD の再生

CD または DVD の再生

注意：CD や DVD のトレイを開けたり閉めたりする際にトレイを押し下げないでください。ドライブを使用していない場合は、トレイを閉めたままにしてください。

注意：CD や DVD を再生している場合は、コンピュータを移動しないでください。

1 ドライブの前面にある取り出しボタンを押します。
2 ラベル面を上にしてディスクをトレイの中央に置きます。



3 取り出しボタンを押すか、トレイを軽く押し込みます。

データを保存するために CD をフォーマットしたり、音楽 CD を作成したり、CD をコピーしたりするには、コンピュータに付属の CD ソフトウェアを参照してください。

メモ：CD を作成する場合は、必ずすべての著作権法に従ってください。

CD プレーヤーには以下の基本的なボタンがあります。

▶	再生
◀◀	現在のトラック内で巻き戻し
❚❚	一時停止
▶▶	現在のトラック内で早送り
■	停止
❙◀◀	前のトラックへ移動
⏏	取り出し
▶▶❙	次のトラックへ移動

DVD プレーヤーには以下の基本的なボタンがあります。

	停止
	現在のチャプターを再スタート
	再生
	早送り
	一時停止
	早戻し
	一時停止モードで 1 フレーム進める
	次のタイトルまたはチャプターへ移動
	現在のタイトルまたはチャプターを連続再生
	前のタイトルまたはチャプターへ移動
	取り出し

CD や DVD の再生の詳細については、CD や DVD プレーヤーの **ヘルプ** をクリックします（ヘルプがある場合）。

音量の調節

メモ：スピーカーの音を消している場合は、CD や DVD を再生しても何も聞こえません。

1 **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム**→ **アクセサリ** →**エンターテイメント** の順にポイントしてから、**ボリュームコントロール** をクリックします。

2 **ボリューム コントロール** ウィンドウで、**ボリューム コントロール** 列のバーをクリックしてドラッグし、上下に移動して音量を調節します。

ボリューム コントロールのオプションの詳細については、**ボリューム コントロール** ウィンドウの **ヘルプ** をクリックしてください。

画面の調整

現在の解像度や色の深度に多くのメモリが使用されているため、DVD の再生が妨げられているというエラーメッセージが表示された場合は、画面のプロパティを調整します。

1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。

2 **作業する分野を選びます** で、**デスクトップの表示とテーマ** をクリックします。

3 **作業を選びます** で、**画面解像度を変更する** をクリックします。

4 **画面のプロパティ** ウィンドウで、**画面の解像度** のバーをクリックしてドラッグし、設定を **800 x 600 ピクセル** に変更します。

5 **画面の色** のドロップダウンメニューをクリックし、**中（16 ビット）**をクリックします。

6 **OK** をクリックします。

CD および DVD のコピー

メモ：CD や DVD を作成する場合は、必ずすべての著作権法に従ってください。

本項は CD-RW、DVD+/-RW、または CD-RW/DVD コンボドライブを持つコンピュータにのみ適用されます。

メモ：デルが提供する CD ドライブまたは DVD ドライブの種類は、国によって異なる場合があります。

以下の説明では CD や DVD の完全なコピーを作成する方法を示しています。コンピュータのオーディオファイルから音楽 CD を作成したり、重要なデータをバックアップするなど、別の目的で Sonic DigitalMedia を使用することもできます。詳細については、Sonic DigitalMedia を開き、ウィンドウの右上角にある疑問符（?）アイコンをクリックしてください。

CD または DVD のコピー方法

メモ：CD-RW/DVD コンボドライブでは、DVD メディアへの書き込みはできません。CD-RW/DVD コンボドライブを使用していて、書き込みの際に問題が発生した場合は、**www.sonicjapan.co.jp** の Sonic サポートウェブサイトで利用可能なソフトウェアパッチを確認してください。

Dell コンピュータに取り付けられている DVD 書き込み可能ドライブでは、DVD+/-R、DVD+/-RW、および DVD+R DL（二層）メディアへの書き込みと読み取りが可能ですが、DVD-RAM または DVD-R DL メディアへの書き込みはできず、読み取りもできない場合があります。

メモ：多くの市販の DVD は著作権で保護されているため、Sonic DigitalMedia を使用してコピーすることはできません。

1 **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム**→ **Sonic** → **DigitalMedia Projects**（DigitalMedia プロジェクト）の順にポイントしてから、**バックアップ** をクリックします。

2 **コピー** タブで、**Disc Copy**（ディスクのバックアップ）をクリックします。

3 CD または DVD をコピーするには、次の手順を実行します。

- CD または DVD ドライブが 1 台の場合は、設定が正しいことを確認して、**Disc Copy**（ディスクのバックアップ）ボタンをクリックします。ソースの CD や DVD が読み取られ、データがコンピュータのハードドライブにある一時フォルダにコピーされます。

  プロンプトが表示されたら、ドライブに空の CD または DVD ディスクを挿入して、**OK** をクリックします。

- CD または DVD ドライブが 2 台ある場合は、ソースの CD や DVD を挿入したドライブを選択して、**Disc Copy**（ディスクのバックアップ）ボタンをクリックします。ソースの CD や DVD のデータが空の CD や DVD にコピーされます。

ソースの CD や DVD のコピーが終了したら、作成した CD や DVD が自動的に取り出されます。

空の CD および DVD の使い方

CD-RW ドライブでは CD 記録メディア（高速 CD-RW を含む）にしか書き込みができませんが、DVD 書き込み可能ドライブでは CD と DVD の両方の記録メディアに書き込みができます。

音楽を録音したり、データファイルを永久保存する場合は、空の CD-R を使用します。作成した CD-R には再度書き込むことができません（詳細については、Sonic のマニュアルを参照してください）。CD に書き込んだり、CD のデータの消去、書換え、更新を行う場合は、空の CD-RW を使用します。

空の DVD+/-R を使用すると、大量の情報を永久保存することができます。ディスク作成プロセスの最終段階でディスクを「ファイナライズ」または「クローズ」した場合は、作成した DVD+/-R ディスクに再度書き込むことができません。そのディスクの情報を後で消去したり、書き換えたり、アップデートしたりする場合は、空の DVD+/-RW を使用してください。

CD 書き込み可能ドライブ

メディアの種類	読み取り	書き込み	書き換え可能
CD-R	可	可	不可
CD-RW	可	可	可

DVD 書き込み可能ドライブ

メディアの種類	読み取り	書き込み	書き換え可能
CD-R	可	可	不可
CD-RW	可	可	可
DVD+R	可	可	不可
DVD-R	可	可	不可
DVD+RW	可	可	可
DVD-RW	可	可	可
DVD+R DL	可	可	不可
DVD-R DL	おそらく可	不可	不可
DVD-RAM	おそらく可	不可	不可

役に立つヒント

- Microsoft® Windows® エクスプローラでファイルを CD-R や CD-RW にドラッグアンドドロップする場合は、まず Sonic DigitalMedia を起動して DigitalMedia プロジェクトを開いてください。
- 通常のステレオで再生する音楽 CD を作成するには、CD-R を使用してください。CD-RW は、ほとんどの家庭用ステレオやカーステレオでは再生できません。
- Sonic DigitalMedia では、オーディオ DVD を作成することはできません。
- 音楽 MP3 ファイルは、MP3 プレーヤー、または MP3 ソフトウェアがインストールされたコンピュータでのみ再生することができます。
- ホームシアターシステム用の市販の DVD プレーヤーでは、利用可能なすべての DVD フォーマットがサポートされていない可能性があります。お使いの DVD プレーヤーでサポートされているフォーマットの一覧については、DVD プレーヤーに付属のマニュアルを参照するか、または製造元にお問い合わせください。
- 空の CD-R や CD-RW を最大容量まで焼かないでください。たとえば、650 MB のファイルを容量が 650 MB の空の CD にコピーしないでください。CD-RW ドライブは、録音を完了させるために 1 ～ 2 MB のブランクスペースを必要とします。
- CD の録音技術に慣れるまで、空の CD-RW を使用して CD への録音を練習してください。間違えた場合は、CD-RW のデータを消去してやり直すことができます。また、音楽ファイルプロジェクトを空の CD-R に永久保存する場合には、空の CD-RW を使用してプロジェクトをテストできます。
- 追加情報については、**www.sonicjapan.co.jp** の Sonic ウェブサイトを参照してください。

ネットワークセットアップウィザード

Microsoft® Windows® XP オペレーティングシステムには、家庭または小企業のコンピュータ間で、ファイル、プリンタ、またはインターネット接続を共有するための手順を案内するネットワークセットアップウィザードがあります。

1 **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ**→ **通信** の順にポイントしてから、**ネットワークセットアップウィザード** をクリックします。
2 ネットワークセットアップウィザードの開始画面で、**次へ** をクリックします。
3 **ネットワーク作成のチェックリスト** をクリックします。

メモ：インターネットに直接接続している という接続方法を選択すると、Windows XP SP1 の内蔵ファイアウォールを使用することができます。

4 チェックリストのすべての項目に入力し、必要な準備を完了します。

ネットワークセットアップウィザードに戻り、画面の指示に従います。

電源の管理

概要

Microsoft® Windows® XP の電源管理機能では、コンピュータに電源が入っていてそのコンピュータを使用していない場合に、コンピュータの消費電力を減らすことができます。モニターやハードドライブのみの電力を減らしたり、スタンバイモードや休止状態モードを使用してコンピュータ全体の電力を減らすことができます。コンピュータが省電力モードから復帰すると、Windows デスクトップはそのモードに入る前の状態に戻ります。

メモ：Windows XP Professional には、Windows XP Home Edition では利用できないセキュリティ機能やネットワーク機能が用意されています。Windows XP Professional コンピュータがネットワークに接続している場合は、セキュリティやネットワークに関する異なるオプションが特定のウィンドウに表示されます。

メモ：スタンバイモードおよび休止状態モードを有効にする手順は、オペレーティングシステムによって異なる場合があります。

スタンバイモード

スタンバイモードでは、タイムアウト後、画面やハードドライブの電源を切って電力を節約します。スタンバイモードから復帰すると、コンピュータはそのモードに入る前の動作状態に戻ります。

非アクティブな状態が一定時間経過すると自動的にスタンバイモードに入るように設定するには、次の手順を実行します。

1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
2 **作業する分野を選びます** で、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。

3 **コントロール パネルを選んで実行します** で、**電源オプション** をクリックします。

非アクティブな状態が一定時間経過するのを待たずに、ただちにスタンバイモードを有効にするには、**スタート** ボタンをクリックし、**終了オプション** をクリックして、**スタンバイ** をクリックします。

スタンバイモードから復帰するには、キーボードのキーを押すか、マウスを動かします。

注意：コンピュータがスタンバイモードの間に電源を停止すると、データを損失するおそれがあります。

休止状態モード

休止状態モードでは、ハードドライブ上の確保された領域にシステムデータをコピーし、コンピュータの電源を完全に切ることで電力を節約します。コンピュータが休止状態モードから復帰すると、デスクトップはそのモードに入る前の状態に戻ります。

休止状態モードを有効にするには、次の手順を実行します。

1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
2 **作業する分野を選びます** で、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
3 **コントロール パネルを選んで実行します** で、**電源オプション** をクリックします。
4 **電源設定** タブ、**詳細設定** タブ、および **休止状態** タブで休止状態の設定を指定します。

休止状態モードから復帰するには 、電源ボタンを押します。コンピュータが休止状態モードから復帰するのに少し時間がかかる場合があります。キーボードのキーを押したり、マウスを動かしたりしても、休止状態モードから復帰しません。これは、コンピュータが休止状態モードに入っている場合は、キーボードやマウスが機能しないためです。

休止状態モードでは、コンピュータメモリの中身を保存するのに十分な容量のあるハードドライブ上に特別なファイルを必要とします。このため、デルでは、コンピュータを出荷する前に、適切なサイズの休止状態モードファイルを作成しています。コンピュータのハードドライブが破損した場合、Windows XP は休止モードファイルを自動的に再作成します。

電源オプションのプロパティ

電源オプションのプロパティ ウィンドウで、スタンバイモード設定、休止状態モード設定、および他の電源設定を指定します。**電源オプションのプロパティ** ウィンドウにアクセスするには、次の手順を実行します。

1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
2 **作業する分野を選びます** で、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
3 **コントロール パネルを選んで実行します** で、**電源オプション** をクリックします。
4 **電源設定** タブ、**詳細設定** タブ、および **休止状態** タブで電源設定を指定します。

電源設定タブ

標準の電源設定はそれぞれスキームと呼ばれます。コンピュータにインストールされた標準の Windows スキームのいずれかを選択する場合は、**電源設定** ドロップダウンメニューからスキームを選択します。各スキームの設定がスキーム名の下のフィールドに表示されます。各スキームには、スタンバイモードや休止状態モードを開始したり、モニターやハードドライブの電源を切るための異なる設定があります。

電源設定 ドロップダウンメニューには以下のスキームが表示されます。

- **常にオン**（デフォルト）— 省電力設定を無効にしてコンピュータを使用する場合。
- **自宅または会社のデスク** — 自宅または会社のコンピュータとしてコンピュータを使用し、最小限の省電力設定を必要とする場合。
- **ポータブル / ラップトップ** — 移動中に使用するポータブルコンピュータの場合。
- **プレゼンテーション** — 中断することなく（省電力設定を使用せず）コンピュータを実行したい場合。
- **最小の電源管理** — 最小限の省電力設定でコンピュータを実行したい場合。
- **バッテリの最大利用** — ポータブルコンピュータを使用しており、バッテリーでの使用時間を長くしたい場合。

スキームのデフォルト設定を変更する場合は、**モニタの電源を切る**、**ハードディスクの電源を切る**、**システム スタンバイ**、または**システム休止状態** フィールドのドロップダウンメニューをクリックして、表示される一覧からタイムアウトを選択します。スキームフィールドのタイムアウトを変更すると、**名前を付けて保存** をクリックして変更したスキームの新しい名前を入力しない限り、そのスキームのデフォルト設定が変更されます。

注意：ハードドライブがモニターより先にタイムアウトするように設定すると、コンピュータがロックアップしたような状態になります。回復するには、キーボードの任意のキーを押すか、マウスをクリックします。この問題を避けるために、ハードドライブの前にモニターがタイムアウトするように設定してください。

詳細設定タブ

詳細設定 タブでは以下を実行することができます。

- すばやくアクセスできるように、電源オプションアイコン  を Windows のタスクバーに表示する。
- コンピュータがスタンバイモードまたは休止状態モードから復帰する前に、Windows のパスワードの入力を求めるように設定する。
- スタンバイモードや休止状態モードを有効にしたり、コンピュータの電源を切るように、電源ボタンを設定する。

これらの機能を有効にするには、対応するドロップダウンメニューでオプションをクリックし、**OK** をクリックします。

休止状態タブ

休止状態 タブでは、休止状態モードを有効にすることができます。**電源設定** タブで指定した休止状態設定を使用する場合は、**休止状態** タブの **休止状態を有効にする** チェックボックスをオンにします。

電力管理オプションの詳細については、以下を確認してください。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**ヘルプとサポート** をクリックします。
2. **ヘルプとサポート** ウィンドウで **パフォーマンスと保守** をクリックします。
3. **パフォーマンスと保守** ウィンドウで、**コンピュータの電力を節約する** をクリックします。

2

パフォーマンスの最適化

ハイパースレッディング

ハイパースレッディングは、Intel® のテクノロジで、1 つの物理プロセッサを 2 つの論理プロセッサとして機能させることでパフォーマンスを全体的に向上し、複数のタスクを同時に処理することを可能にします。Windows XP オペレーティングシステムは、ハイパースレッディングテクノロジを利用するために最適化されているので、Microsoft® Windows® XP Service Pack 1（SP1）以降のオペレーティングシステムを使用することをお勧めします。多くのプログラムは、ハイパースレッディングの恩恵を受けることになりますが、ハイパースレッディング用に最適化されていないプログラムもあります。それらのプログラムは、ソフトウェアの製造元によるアップデートが必要な場合もあります。ソフトウェアの製造元に、アップデートやハイパースレッディングでソフトウェアを使用する方法についてお問い合わせください。

お使いのコンピュータがハイパースレッディングテクノロジを使用しているかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

1 **スタート** ボタンをクリックし、**マイコンピュータ** を右クリックして、**プロパティ** をクリックします。

2 **ハードウェア** をクリックして、**デバイスマネージャ** をクリックします。

3 **デバイスマネージャ** ウィンドウで、**プロセッサ** の横の（+）サインをクリックします。ハイパースレッディングが有効な場合、プロセッサは 2 つ表示されています。

セットアップユーティリティを使って、ハイパースレッディングを有効または無効にすることができます。セットアップユーティリティの使用の詳細については、「セットアップユーティリティ」（143 ページ）を参照してください。ハイパースレッディングの詳細については、デルサポートサイト **support.jp.dell.com** の Knowledge Base を検索してください。

PCI Express カード

PCI Express は、グラフィックカードと PCI カードの次世代テクノロジです。従来の AGP グラフィックカードスロットの代わりに PCI Express x16 スロットが使用されています。PCI Express カードスロットの寸法は PCI カードスロットと異なっており、これらのカード間に互換性はありません（PCI Express カードスロットに PCI カードは取り付けられず、PCI カードスロットに PCI Express カードは取り付けられません）。

PCI Express テクノロジの利点として以下が挙げられます。

- 使用可能な帯域幅の増加 — PCI バスの帯域幅は一度に片方向 133 MB/s であるのに対し、PCI Express バスの帯域幅は、各レーンがそれぞれ同時に片方向 250 MB/s です。
- サービスの優先順位付け — 1 台のコンピュータに複数の PCI カードが取り付けられている場合、すべての PCI カードが 1 つの共通バスを共有しますが、PCI Express カードはそれぞれ専用のチャネルを使用します。テレビ会議やウェブカメラ機能などのアクティビティは、デバイスソフトウェアを通じて自動的に優先順位が付けられ、待ち時間を減らすことができます。

NVIDIA SLI デュアルグラフィックテクノロジ

オプションの 2 枚目の PCI Express グラフィックカードが、NVIDIA SLI（スケーラブルリンクインタフェース）のデュアルグラフィックテクノロジにより、コンピュータのグラフィックパフォーマンスを大幅に高めます。このテクノロジの利点は、ゲームやデザインのアプリケーションに使われる 3 D グラフィックスの描写が向上することです。

各グラフィックカードには GPU（グラフィックスプロセッシングユニット）が備わっています。2 つの GPU が負荷を動的に分担することで、可能な限り最高のパフォーマンスが得られます。SLI ソフトウェアは、所定のアプリケーションに対して最適なレンダリング（処理）モードを選択します。スプリットフレームレンダリングとオルタネートフレームレンダリングが 2 つの基本モードです。スプリットフレームレンダリングでは GPU が作業を分担し、表示される各フレームの部分を各 GPU が処理します。オルタネートフレームレンダリングモードでは、各 GPU が全画面イメージを交代に処理します。

詳細については、グラフィックカードに付属のマニュアルを参照してください。

3

問題の解決

トラブルシューティングのヒント

次のヒントに従ってコンピュータのトラブルシューティングを行ってください。

- 問題が発生し始める前に部品の取り付け / 取り外しを行った場合は、その手順を再度確認して、取り付け / 取り外しが正しく行われたか確認します。
- 周辺機器が機能しない場合は、その機器が適切に接続されているか確認します。
- エラーメッセージが画面に表示される場合は、そのメッセージを正確に書き留めておきます。このメッセージは、テクニカルサポート担当者が問題を分析および解決するのに役立つ場合があります。

エラーメッセージがプログラム上で発生する場合は、プログラムのマニュアルを参照してください。

バッテリーの問題

⚠ **警告：新しいバッテリーは、正しく装着しないと破裂するおそれがあります。バッテリーは、必ず同一または同等の、製造元が推奨するタイプのものと交換してください。使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。**

⚠ **警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。**

バッテリーを交換します — コンピュータの電源を入れた後、時刻と日付の情報を繰り返しリセットする必要がある場合、または起動時に間違った時刻や日付が表示される場合は、バッテリーを交換します（「バッテリーの交換」（135 ページ）を参照）。それでもバッテリーが正常に機能しない場合は、デルにお問い合わせください（「デルの連絡先」（156 ページ）を参照）。

ドライブの問題

⚠ **警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。**

MICROSOFT® WINDOWS® がドライブを認識していることを確認します — **スタート** ボタンをクリックして、**マイ コンピュータ** をクリックします。お使いのフロッピードライブ、CD ドライブ、または DVD ドライブが一覧に表示されない場合は、アンチウイルスソフトウェアでウイルスチェックを行い、ウイルスの検出と除去を行います。ウイルスが原因で Windows がドライブを認識できないことがあります。

ドライブのテストを行います —

- 別のフロッピーディスク、CD、または DVD を挿入して、元のディスクに問題がないことを確認します。
- 起動ディスクを挿入して、コンピュータを再起動します。

ドライブまたはディスクをクリーニングします —「コンピュータのクリーニング」（152 ページ）を参照してください。

ケーブルの接続を確認します

ハードウェアに関するトラブルシューティングを実行します —「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の解決」（72 ページ）を参照してください。

DELL DIAGNOSTICS（診断）プログラムを実行します —「Dell Diagnostics（診断）プログラム」（63 ページ）を参照してください。

CD および DVD ドライブの問題

メモ：高速 CD または DVD ドライブの振動は正常です。この振動によってノイズが生じることがありますが、ドライブの欠陥や CD または DVD の欠陥を示すものではありません。

メモ：国や地域によってディスクフォーマットが異なるため、すべての DVD がお使いの DVD ドライブで再生できるわけではありません。

WINDOWS の音量を調整します —

- 画面右下にあるスピーカーのアイコンをクリックします。
- スライドバーをクリックし、上にドラッグして、音量が上がることを確認します。
- サウンドがミュートに設定されていないか確認し、設定されている場合はチェックマークの付いたボックスをクリックします。

スピーカーおよびサブウーハーを確認します —「サウンドとスピーカーの問題」（54 ページ）を参照してください。

CD/DVD-RW ドライブに書き込みができない場合

他のプログラムを閉じます — CD/DVD-RW ドライブは、データを書き込むときに一定したデータの流れを必要とします。データの流れが中断されるとエラーが発生します。CD/DVD-RW ディスクへの書き込みを開始する前に、すべてのプログラムを終了してみます。

CD/DVD-RW ディスクへの書き込みを開始する前に、WINDOWS のスタンバイモードを無効にします — 省電力モードについては、「スタンバイモード」（35 ページ）を参照するか、Windows のヘルプでスタンバイというキーワードで検索して該当するトピックを参照してください。Windows のヘルプの使用方法の詳細については、「Windows ヘルプとサポートセンター」（13 ページ）を参照してください。

ハードドライブの問題

チェックディスクユーティリティを実行します —

1 **スタート** ボタンをクリックして、**マイ コンピュータ** をクリックします。
2 **ローカル ディスク（C:）**を右クリックします。
3 **プロパティ** をクリックします。
4 **ツール** タブをクリックします。
5 **エラーチェック** の項目で、**チェックする** をクリックします。
6 **不良なセクタをスキャンし、回復する** をクリックします。
7 **開始** をクリックします。

電子メール、モデム、およびインターネットの問題

警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。

メモ：モデムはアナログ電話ジャックにのみ接続してください。デジタル電話回線 （ISDN）に接続した場合、モデムは動作しません。

MICROSOFT OUTLOOK® EXPRESS のセキュリティ設定を確認します — 電子メールの添付ファイルを開くことができない場合は、次の操作を行ってください。

1 Outlook Express で、**ツール** をクリックし、**オプション** をクリックします。次に、**セキュリティ** をクリックします。
2 **添付ファイルを許可しない** をクリックしてチェックマークを外します。

電話回線ケーブルの接続を確認します —
電話プラグを確認します —
モデムを壁の電話ジャックに直接接続します —
別の電話回線ケーブルを使用します —

- 電話回線ケーブルがモデムのジャックに接続されているか確認します（ジャックには緑色のラベルが付いているか、その隣にコネクタ形のアイコンが付いています）。
- モデムに電話回線ケーブルコネクタを挿入したときにカチッという音がするか確認します。
- モデムから電話回線ケーブルを外し、それを電話に接続します。電話の発信音を聞きます。
- 留守番電話、ファックス、サージプロテクタ、スプリッタなどの、電話回線を共有する他の電話機器がある場合は、それらの機器を経由せずに、モデムを壁の電話ジャックに直接接続します。3 m 以上の電話回線ケーブルを使用している場合は、より短いものを使用してみます。

MODEM HELPER 診断プログラムを実行します — **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** をポイントして、**Modem Helper** をクリックします。画面の指示に従って、モデムの問題を特定して解決します（Modem Helper は一部のコンピュータでは使用できません）。

モデムが WINDOWS と通信しているか確認します —

1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
2 **プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
3 **電話とモデムのオプション** をクリックします。
4 **モデム** タブをクリックします。
5 モデムの COM ポートをクリックします。
6 **プロパティ** をクリックし、**診断** タブをクリックし、**モデムの照会** をクリックして、モデムが Windows と通信しているか確認します。
   すべてコマンドに対して応答があった場合、モデムは正常に動作しています。

インターネットに接続しているか確認します — インターネットサービスプロバイダと契約していることを確認します。Outlook Express 電子メールプログラムを開き、**ファイル** をクリックします。**オフライン作業** の隣にチェックマークが付いている場合は、そのチェックマークをクリックして外してから、インターネットに接続します。詳細については、ご利用のインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

エラーメッセージ

⚠ **警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。**

メッセージが一覧にない場合、オペレーティングシステム、またはメッセージが表示された際に実行していたプログラムのマニュアルを参照してください。

ファイル名には次の文字は使用できません :\ / : * ? " < > | — これらの記号をファイル名に使用しないでください。

必要な .DLL ファイルが見つかりません — 開こうとしているプログラムに必須のファイルが見つかりません。次の操作を行い、プログラムを削除して再インストールします。

1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロール パネル** をクリックします。次に、**プログラムの追加と削除** をクリックします。
2 削除するプログラムを選択します。
3 **プログラムの変更と削除** アイコンをクリックします。
4 インストール手順については、プログラムのマニュアルを参照してください。

< ドライブ文字 >: \ にアクセスできません。デバイスの準備ができていません。 — ドライブがディスクを読めません。ディスクをドライブに挿入して、再度試してみます。

起動可能なメディアを挿入 — 起動ディスクまたは起動 CD を挿入します。

非システムディスクエラー — フロッピーディスクをドライブから取り出し、コンピュータを再起動します。

メモリまたはリソースが不足しています。開いているプログラムを閉じ、再試行してください。 — すべてのウィンドウを閉じ、使用するプログラムを開きます。場合によっては、コンピュータを再起動してコンピュータリソースを復元する必要があります。その場合、最初に使用したいプログラムを実行します。

オペレーティングシステムが見つかりません。 — デルにお問い合わせください（「デルの連絡先」（156 ページ）を参照）。

IEEE 1394 デバイスの問題

⚠ **警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。**

デバイスおよびコンピュータのコネクタに IEEE 1394 デバイスのケーブルが適切に挿入されていることを確認します

セットアップユーティリティで IEEE 1394 デバイスが有効になっていることを確認します — 「セットアップオプション」（145 ページ）を参照してください。

IEEE 1394 デバイスが WINDOWS によって認識されているか確認します —

1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。

2 **プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
お使いの IEEE 1394 デバイスが一覧に表示されている場合は、Windows がそのデバイスを認識します。

DELL IEEE 1394 デバイスに問題が発生している場合 — デルにお問い合わせください（「デルの連絡先」（156 ページ）を参照してください）。

デル製ではない IEEE 1394 デバイスに問題が発生している場合 — IEEE 1394 デバイスの製造元にお問い合わせください。

キーボードの問題

⚠ **警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。**

キーボードケーブルを確認します —

- キーボードケーブルがコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。
- コンピュータをシャットダウンし（「コンピュータの電源を切る」（77 ページ）を参照）、コンピュータに付属のセットアップ図に示されているようにキーボードケーブルを接続しなおしてから、コンピュータを再起動します。
- ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか、またはケーブルが損傷を受けていないか、擦り切れていないか確認します。曲がったピンをまっすぐにします。
- キーボード延長ケーブルを取り外し、キーボードを直接コンピュータに接続します。

キーボードを確認します — 正常に機能している別のキーボードをコンピュータに接続して、使用してみます。

ハードウェアに関するトラブルシューティングを実行します — 「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の解決」（72 ページ）を参照してください。

コンピュータのロックアップおよびソフトウェアの問題

警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。

コンピュータが起動しない場合

診断ライトを確認します —「診断ライト」（59 ページ）を参照してください。

電源ケーブルがコンピュータとコンセントにしっかりと接続されているか確認します。

コンピュータの反応が停止した場合

注意：オペレーティングシステムのシャットダウンが実行できない場合、データを損失するおそれがあります。

コンピュータの電源を切ります — キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを 8 ～ 10 秒以上押し続けます。その後、コンピュータを再起動します。

プログラムが応答しなくなった場合

プログラムを終了します —

1. <Ctrl><Shift><Esc> を同時に押します。
2. **アプリケーション** をクリックします。
3. 応答しなくなったプログラムをクリックします。
4. **タスクの終了** をクリックします。

プログラムが繰り返しクラッシュする場合

メモ：通常、ソフトウェアのインストール手順は、そのマニュアルまたはフロッピーディスクか CD に収録されています。

ソフトウェアのマニュアルを確認します — 必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

プログラムが以前のバージョンの Windows オペレーティングシステム用に設計されている場合

プログラム互換性ウィザードを実行します —

プログラム互換性ウィザードは、Windows XP 以外のオペレーティングシステムの環境に似た環境で動作するようにプログラムを設定します。

1 **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム**→**アクセサリ** の順にポイントしてから、**プログラム互換性ウィザード** をクリックします。
2 プログラム互換性ウィザードの開始画面で、**次へ** をクリックします。
3 画面の指示に従います。

画面が青色（ブルースクリーン）になった場合

コンピュータの電源を切ります — キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを 8 〜 10 秒以上押し続けます。その後、コンピュータを再起動します。

その他のソフトウェアの問題

トラブルシューティングについては、ソフトウェアのマニュアルを確認するか、ソフトウェアの製造元に問い合わせます —

- プログラムがお使いのコンピュータにインストールされているオペレーティングシステムに対応しているか確認します。
- お使いのコンピュータがソフトウェアの実行に必要な最小ハードウェア要件を満たしていることを確認します。詳細については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。
- プログラムが正しくインストールおよび設定されていることを確認します。
- デバイスドライバがプログラムとコンフリクトしていないことを確認します。
- 必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

すぐにお使いのファイルのバックアップを作成します

アンチウイルスプログラムを使って、ハードドライブ、フロッピーディスク、または CD を調べます

開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了して、スタートメニューからコンピュータをシャットダウンします

メモリの問題

⚠ **警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。**

メモリ不足を示すメッセージが表示される場合 —

- 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、使用していない実行中のプログラムをすべて終了して、問題が解決するか調べます。
- メモリの最小要件については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。必要に応じて、増設メモリを取り付けます（「最小メモリ」（139 ページ）を参照）。
- メモリモジュールを抜き差しして（「メモリ」（87 ページ）を参照）、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。
- Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します（「Dell Diagnostics（診断）プログラム」（63 ページ）を参照）。

その他のメモリの問題が発生する場合 —

- メモリモジュールを抜き差しして（「メモリ」（87 ページ）を参照）、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。
- メモリの取り付けガイドラインに従っているか確認します（「メモリの取り付け」（88 ページ）を参照）。
- お使いのコンピュータは DDR2 メモリに対応しています。お使いのコンピュータに対応するメモリの詳細については、「メモリ」（139 ページ）を参照してください。
- Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します（「Dell Diagnostics（診断）プログラム」（63 ページ）を参照）。

マウスの問題

⚠ **警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。**

マウスケーブルを確認します —

1. ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか、またはケーブルが損傷を受けていないか、擦り切れていないか確認します。曲がったピンをまっすぐにします。
2. マウス延長ケーブルを使用している場合は取り外し、マウスを直接コンピュータに接続します。
3. コンピュータをシャットダウンし（「コンピュータの電源を切る」（77 ページ）を参照）、コンピュータに付属のセットアップ図に示されているようにマウスケーブルを接続しなおしてから、コンピュータを再起動します。

コンピュータを再起動します —

1 <Ctrl><Esc> を同時に押して、**スタート** メニューを表示します。
2 u と入力してからキーボードの矢印キーを押し、**シャットダウン** または **電源を切る** をハイライト表示して、<Enter> を押します。
3 コンピュータの電源を切った後、コンピュータに付属のセットアップ図 に示されているように、マウスケーブルを接続しなおします。
4 コンピュータを起動します。

マウスを確認します — 正常に機能している別のマウスをコンピュータに接続して、使用してみます。

マウスの設定を確認します —

1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロール パネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
2 **マウス** をクリックします。
3 設定を調整してみます。

マウスドライバを再インストールします —「ドライバの再インストール」（68 ページ）を参照してください。

ハードウェアに関するトラブルシューティングを実行します — 「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の解決」（72 ページ）を参照してください。

ネットワークの問題

⚠ **警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。**

ネットワークケーブルコネクタを確認します — ネットワークケーブルが、コンピュータ背面のネットワークコネクタとネットワークジャックの両方にしっかりと挿入されているか確認します。

コンピュータ背面のネットワークインジケータを確認します — リンク保全ライトが消灯している場合は、ネットワーク通信が行われていません。この場合は、ネットワークケーブルを交換します。ネットワークインジケータの説明については、「コネクタ」（141 ページ）を参照してください。

コンピュータを再起動して、ネットワークに再度ログオンします

ネットワークの設定を確認します — ネットワーク管理者またはネットワーク構築者に連絡して、ネットワークの設定が正しいか、またはネットワークが正常に機能しているか確認します。

ハードウェアに関するトラブルシューティングを実行します —「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の解決」(72 ページ) を参照してください。

電源の問題

⚠ **警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。**

電源ライトが緑色で、コンピュータが応答しない場合 —「診断ライト」(59 ページ) を参照してください。

電源ライトが緑色に点滅している場合 — コンピュータはスタンバイモードに入っています。キーボードのキーを押すか、マウスを動かすか、電源ボタンを押して、通常の動作状態に戻します。

電源ライトが消灯している場合 — コンピュータの電源が切れているか、電力が供給されていません。

- 電源ケーブルをコンピュータ背面の電源コネクタとコンセントの両方にしっかりと装着しなおします。
- コンピュータが電源タップに接続されている場合、電源タップがコンセントに接続され電源タップがオンになっていることを確認します。また、電源保護装置、電源タップ、電源延長ケーブルなどを使用している場合は、それらを取り外してコンピュータの電源が適切に入るか確認します。
- 電気スタンドなどの電化製品でコンセントに問題がないことを確認します。
- 主電源ケーブルおよび正面パネルケーブルがシステム基板にしっかりと接続されているか確認します (「システム基板のコンポーネント」(86 ページ) を参照)。

電源ライトが橙色に点滅している場合 — コンピュータに電源は供給されていますが、コンピュータ内部で電源の問題が発生している可能性があります。

- コンピュータを使用している地域の AC 電源の電圧と一致するように、電圧選択スイッチを設定しているか確認します (該当する場合のみ)。

電源ライトが橙色に点灯している場合 — デバイスが誤動作しているか、正しく取り付けられていない可能性があります。

- プロセッサ電源ケーブルがシステム基板の電源コネクタ（POWER12V）にしっかりと接続されているか確認します（「システム基板のコンポーネント」（86 ページ）を参照）。
- メモリモジュールを取り外してから装着しなおします（「メモリ」（87 ページ）を参照）。
- すべてのカードを取り外してから装着しなおします（「PCI カードおよび PCI Express カードの取り外し」（99 ページ）を参照）。
- グラフィックカードを取り付けている場合は取り外してから装着しなおします（「PCI カードおよび PCI Express カードの取り外し」（99 ページ）を参照）。

電波障害を除去します — 電波障害の原因には、以下のものが考えられます。

- 電源、キーボード、およびマウス延長ケーブルが使用されている
- 電源タップにあまりに多くのデバイスが接続されている
- 同じコンセントに複数の電源タップが接続されている

プリンタの問題

⚠ **警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。**

メモ：プリンタのテクニカルサポートが必要な場合、プリンタの製造元にお問い合わせください。

プリンタのマニュアルを確認します — セットアップとトラブルシューティングについては、プリンタのマニュアルを参照してください。

プリンタの電源がオンになっていることを確認します

プリンタケーブルの接続を確認します —

- ケーブルの接続については、プリンタのマニュアルを参照してください。
- プリンタケーブルがプリンタとコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。

コンセントを確認します — 電気スタンドなどの電化製品でコンセントに問題がないことを確認します。

プリンタが WINDOWS によって認識されていることを確認します —

1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロール パネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
2 **インストールされているプリンタまたは FAX プリンタを表示する** をクリックします。
お使いのプリンタが一覧に表示されている場合、プリンタアイコンを右クリックします。
3 **プロパティ** をクリックし、**ポート** タブをクリックします。パラレルプリンタの場合は、**印刷先のポート** が **LPT1（プリンタポート）**に設定されていることを確認します。USB プリンタの場合は、**印刷先のポート** が **USB** に設定されていることを確認します。

プリンタドライバを再インストールします — 手順については、プリンタのマニュアルを参照してください。

スキャナーの問題

⚠ **警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。**

メモ：スキャナーのテクニカルサポートが必要な場合は、スキャナーの製造元にお問い合わせください。

スキャナーのマニュアルを確認します — セットアップとトラブルシューティングについては、スキャナーのマニュアルを参照してください。

スキャナーをアンロックします — スキャナーにロックタブまたはボタンがある場合は、スキャナーがアンロックされていることを確認します。

コンピュータを再起動し、スキャナーを再度試してみます

ケーブルの接続を確認します —

- ケーブルの接続については、スキャナーのマニュアルを参照してください。
- スキャナーケーブルがスキャナーとコンピュータにしっかりと接続されていることを確認します。

スキャナーが MICROSOFT WINDOWS によって認識されていることを確認します —

1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロール パネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
2 **スキャナとカメラ** をクリックします。
   お使いのスキャナーが一覧に表示されている場合、Windows がそのスキャナーを認識しています。

スキャナードライバを再インストールします — 手順については、スキャナーのマニュアルを参照してください。

サウンドとスピーカーの問題

警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。

スピーカーから音がしない場合

メモ：MP3 プレーヤーの音量調節は、Windows の音量調節より優先されることがあります。MP3 の音楽を聴いている場合、プレーヤーの音量が十分か確認してください。

スピーカーケーブルの接続を確認します — スピーカーに付属のセットアップ図に示されているように、スピーカーが接続されていることを確認します。サウンドカードをご購入された場合、スピーカーがカードに接続されていることを確認します。

サブウーハーおよびスピーカーの電源が入っているか確認します — スピーカーに付属のセットアップ図を参照してください。スピーカーにボリュームコントロールが付いている場合は、音量、低音、または高音を調整して音のひずみを解消します。

WINDOWS の音量を調整します — 画面右下にあるスピーカーのアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないことを確認します。

ヘッドフォンをヘッドフォンコネクタから取り外します — コンピュータの正面パネルにあるヘッドホンコネクタにヘッドホンを接続すると、自動的にスピーカーからの音声は聞こえなくなります。

コンセントを確認します — 電気スタンドなどの電化製品でコンセントに問題がないことを確認します。

電気的な妨害を除去します — コンピュータの近くで使用している扇風機、蛍光灯、ハロゲンランプ、またはその他の機器の電源を切り、干渉を調べます。

スピーカーの診断プログラムを実行します

サウンドドライバを再インストールします —「ドライバ」(67 ページ)を参照してください。

ハードウェアに関するトラブルシューティングを実行します —「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の解決」(72 ページ)を参照してください。

ヘッドフォンから音がしない場合

ヘッドフォンケーブルの接続を確認します — ヘッドフォンケーブルがヘッドフォンコネクタにしっかりと接続されていることを確認します(「正面(ドアを開けた状態)」(80 ページ)を参照)。

WINDOWS の音量を調整します — 画面右下にあるスピーカーのアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないことを確認します。

ビデオとモニターの問題

警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。

画面に何も表示されない場合

メモ：トラブルシューティングについては、モニターのマニュアルを参照してください。

モニターのケーブル接続を確認します —

- オプションの 2 枚目の PCI-Express グラフィックカードをお持ちの場合は、モニターケーブルが正しいカードに接続されていることを確認します。
- オプションの DVI アダプタをお持ちの場合は、グラフィックカードに正しく接続されていることを確認します。
- モニターケーブルが、コンピュータに付属のセットアップ図に示されているように接続されていることを確認します。
- 延長ケーブルを使用していて、その延長ケーブルを取り外すことによって問題が解決する場合は、ケーブルの不良です。
- コンピュータおよびモニターの電源ケーブルを交換して、電源ケーブルに問題がないか確認します。
- コネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか確認します（モニターのケーブルコネクタは、通常いくつかのピンが欠けています）。

モニターの電源ライトを確認します — 電源ライトが消灯している場合、ボタンをしっかり押して、モニターに電源が入っていることを確認します。電源ライトが点灯または点滅している場合、モニターに電力が供給されています。電源ライトが点滅する場合、キーボードのキーを押すかマウスを動かします。

コンセントを確認します — 電気スタンドなどの電化製品でコンセントに問題がないことを確認します。

診断ライトを確認します —「診断ライト」（59 ページ）を参照してください。

画面が見づらい場合

モニターの設定を確認します — モニターのコントラストと輝度の調整、消磁、セルフテストを実行する手順については、モニターのマニュアルを参照してください。

サブウーハーをモニターから離します — スピーカーシステムにサブウーハーが含まれている場合は、サブウーハーがモニターから 60 cm 以上離れていることを確認します。

外部電源をモニターから離します — 扇風機、蛍光灯、ハロゲンライト、およびその他の電化製品によって画面が「ぶれる」ことがあります。近くのデバイスの電源を切って干渉を調べます。

モニターの向きを変えて画面への太陽光の映りこみやを電磁障害を除去します

WINDOWS のディスプレイ設定を調整します —

1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロール パネル** をクリックして、**デスクトップの表示とテーマ** をクリックします。
2 **画面** をクリックし、**設定** タブをクリックします。
3 **画面の解像度** および **画面の色** を別の設定にしてみます。

3 D イメージの品質が良くない場合

グラフィックカードの電源ケーブルの接続を確認します — 各グラフィックカードの電源ケーブルがカードに正しく接続されていることを確認します。

モニターの設定を確認します — モニターのコントラストと輝度の調整、消磁、セルフテストを実行する手順については、モニターのマニュアルを参照してください。

4

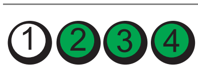
アドバンストラブルシューティング

診断ライト

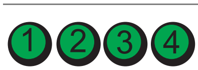
⚠ **警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。**

問題のトラブルシューティングを容易にするため、コンピュータの背面パネルに「1」、「2」、「3」、および「4」とラベルのついた 4 つのライトがあります（「正面（ドアを開けた状態）」（80 ページ）を参照）。コンピュータの起動プロセスが正常に開始すると、これらのライトが点滅します。コンピュータの起動後、4 つのライトすべてが緑色に点灯します。コンピュータが誤作動している場合は、ライトの色と組み合わせ順で問題を識別できます。

ライトパターン	**問題の説明**	**推奨される処置**
	コンピュータが通常の「オフ」の状態、または BIOS 前に障害が発生した可能性があります。 システムがオペレーティングシステムから正常に起動した後は、この診断ライトは点灯しません。	電源コンセントにコンピュータを接続します。「電源の問題」（51 ページ）も参照してください。
	プロセッサに障害が発生した可能性があります。	プロセッサを取り付けなおして（「プロセッサ」（124 ページ）を参照）、コンピュータを再起動します。

ライトパターン	問題の説明	推奨される処置
	メモリモジュールが検出されましたが、メモリ障害が発生しました。	• 取り付けているメモリモジュールが 2 つ以上の場合、モジュールを取り外してモジュールの 1 つを取り付けなおし（「メモリの取り付け」（88 ページ）を参照）、コンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動する場合、別のモジュールを取り付けなおします。障害のあるモジュールが見つかるまで、またはエラーなしですべてのモジュールを取り付けなおすまで続けます。 • 同じ種類で動作確認済みのメモリがある場合は、そのメモリをコンピュータに取り付けます（「メモリの取り付け」（88 ページ）を参照）。 • 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（「デルの連絡先」（153 ページ）を参照）。
	グラフィックカードに障害が発生している可能性があります。	• コンピュータにグラフィックカードを取り付けている場合は、そのカードをいったん取り外し（「PCI カードおよび PCI Express カードの取り外し」（99 ページ）を参照）、取り付けなおしてからコンピュータを再起動します。 • 問題が解決しない場合は、動作確認済みの別のグラフィックカードを取り付け、コンピュータを再起動します。 • 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（「デルの連絡先」（153 ページ）を参照）。
	フロッピードライブまたはハードドライブに障害が起こっている可能性があります。	すべての電源ケーブルおよびデータケーブルを接続しなおし、コンピュータを再起動します。
	USB に問題が発生した可能性があります。	すべての USB デバイスを取り付けなおし、ケーブル接続を確認して、コンピュータを再起動します。

ライトパターン	問題の説明	推奨される処置
	メモリモジュールが検出されません。	• 取り付けているメモリモジュールが 2 つ以上の場合、モジュールを取り外してモジュールの 1 つを取り付けなおし（「メモリの取り付け」（88 ページ）を参照）、コンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動する場合、別のモジュールを取り付けなおします。障害のあるモジュールが見つかるまで、またはエラーなしですべてのモジュールを取り付けなおすまで続けます。 • 同じ種類で動作確認済みのメモリがある場合は、そのメモリをコンピュータに取り付けます（「メモリの取り付け」（88 ページ）を参照）。 • 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（「デルの連絡先」（153 ページ）を参照）。
	メモリモジュールは検出されましたが、メモリ構成または互換性エラーが存在します。	• 特別なメモリモジュール / メモリコネクタ設置要件がないことを確認します（「メモリ」（87 ページ）を参照）。 • 取り付けるメモリモジュールにコンピュータとの互換性があることを確認します（「メモリ」（87 ページ）を参照してください）。 • 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（「デルの連絡先」（153 ページ）を参照）。

ライトパターン	問題の説明	推奨される処置
	拡張カードに問題が発生した可能性があります。	1 グラフィックカード以外のカードを 1 つ取り外し（「PCI カードおよび PCI Express カードの取り外し」（99 ページ）を参照）、コンピュータを再起動して、コンフリクトが起きているかどうかを調べます。 2 問題が解決しない場合は、取り外したカードを取り付け、別のカードを取り外して、コンピュータを再起動します。 3 それぞれのカードについて、この手順を繰り返します。コンピュータが正常に起動する場合は、コンピュータから取り外した最後のカードのリソースコンフリクトのトラブルシューティングを行います（「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の解決」（72 ページ）を参照）。 4 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（「デルの連絡先」（153 ページ）を参照）。
	別の障害が発生しました。	• ハードドライブ、CD ドライブ、および DVD ドライブのケーブルがシステム基板に正しく接続されているかどうかを確認します（「システム基板のコンポーネント」（86 ページ）を参照）。 • デバイス（フロッピードライブやハードドライブなど）のエラーメッセージが画面に表示されている場合は、そのデバイスが正常に機能しているかどうかを確認します。 • オペレーティングシステムがデバイス（フロッピードライブやハードドライブなど）からの起動を試みています。セットアップユーティリティを使って、コンピュータに取り付けられているデバイスの起動順序が適切かどうかを確認してください（「セットアップユーティリティ」（143 ページ）を参照）。 • 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（「デルの連絡先」（153 ページ）を参照）。
	POST 後、コンピュータは通常の動作状態にあります。	なし。

Dell Diagnostics（診断）プログラム

警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。

Dell Diagnostics（診断）プログラムを使用する場合

コンピュータに問題が発生した場合は、デルテクニカルサポートにお問い合わせになる前に、「問題の解決」（41 ページ）のチェック事項を実行してから、Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行してください。

注意：Dell Diagnostics（診断）プログラムは Dell™ コンピュータでのみ機能します。

Dell Diagnostics（診断）プログラムは、ハードドライブから（「Dell Diagnostics（診断）プログラム」（63 ページ）を参照）、または『Dell ResourceCD』から起動します。

ハードドライブからの Dell Diagnostics（診断）プログラムの起動

1 コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。

2 DELL™ ロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

メモ：Diagnostics（診断）ユーティリティパーティションが検出されなかったというメッセージが表示された場合は、『ResourceCD』から Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します（「『ResourceCD』からの Dell Diagnostics（診断）プログラムの起動」（64 ページ）を参照）。

キーを押すタイミングが遅れて、オペレーティングシステムのロゴが表示されてしまったら、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるまでそのまま待機します。デスクトップが表示されたら、コンピュータをシャットダウンして（「コンピュータの電源を切る」（77 ページ）を参照）、操作をやり直してください。

3 起動デバイスの一覧が表示されたら、**Boot to Utility Partition（ユーティリティパーティションから起動）**をハイライト表示して、<Enter> を押します。

4 Dell Diagnostics（診断）プログラムの **Main Menu**（メインメニュー）が表示されたら、実行するテストを選びます（「Dell Diagnostics（診断）プログラムの Main Menu（メインメニュー）」（65 ページ）を参照）。

『ResourceCD』からの Dell Diagnostics（診断）プログラムの起動

1 『ResourceCD』をドライブに挿入します。

2 コンピュータをシャットダウンして、再起動します（「コンピュータの電源を切る」（77 ページ）を参照）。

DELL ロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

キーを押すタイミングが合わず、Windows ロゴが表示されてしまったら、Windows デスクトップが表示されるまで待ちます。デスクトップが表示されたら、コンピュータをシャットダウンして（「コンピュータの電源を切る」（77 ページ）を参照）、操作をやり直してください。

メモ：次の手順では、起動順序を 1 回だけ変更します。次回の起動時には、コンピュータはセットアップユーティリティで指定したデバイスから起動します。

3 起動デバイスの一覧が表示されたら、**IDE CD-ROM Device**（IDE CD-ROM デバイス）をハイライト表示して、<Enter> を押します。

4 CD の起動メニューから **IDE CD-ROM Device**（IDE CD-ROM デバイス）オプションを選びます。

5 表示されたメニューから **Boot from CD-ROM**（CD-ROM から起動）オプションを選びます。

6 `1` と入力して、ResourceCD メニューを起動します。

7 `2` と入力して、Dell Diagnostics（診断）プログラムを起動します。

8 番号の付いた一覧から **Run the 32 Bit Dell Diagnostics**（32 ビットのデル診断を実行）を選びます。複数のバージョンが表示されている場合、お使いのコンピュータに適切なバージョンを選びます。

9 Dell Diagnostics（診断）プログラムの **Main Menu**（メインメニュー）が表示されたら、実行するテストを選びます（「Dell Diagnostics（診断）プログラムの Main Menu（メインメニュー）」（65 ページ）を参照）。

Dell Diagnostics（診断）プログラムの Main Menu（メインメニュー）

1 Dell Diagnostics（診断）プログラムがロードされ **Main Menu**（メインメニュー）画面が表示されたら、希望のオプションのボタンをクリックします。

オプション	機能
Express Test（エクスプレステスト）	デバイスのクイックテストを実行します。通常、このテストは 10 ～ 20 分かかり、お客様の操作は必要ありません。最初に **Express Test**（エクスプレステスト）を実行すると、問題をさらにすばやく特定することができます。
Extended Test（拡張テスト）	デバイスの全体チェックを実行します。このテストは通常 1 時間以上かかり、時々表示される質問に回答が必要です。
Custom Test（カスタムテスト）	特定のデバイスをテストします。実行するテストをカスタマイズできます。
Symptom Tree（症状ツリー）	最も一般的な症状を一覧表示し、問題の症状に基づいたテストを選択できます。

2 テスト中に問題を検出すると、エラーコードと問題の説明を示すメッセージが表示されます。エラーコードと問題の説明を記録し、画面の指示に従います。

エラーを解決できない場合は、デルにお問い合わせください（「デルの連絡先」（153 ページ）を参照）。

メモ：お使いのコンピュータのサービスタグは、各テスト画面の上部にあります。デルにお問い合わせになると、テクニカルサポート担当者がお客様のサービスタグをお尋ねします。

3 **Custom Test**（カスタムテスト）または **Symptom Tree**（症状ツリー）オプションからテストを実行する場合は、該当するタブをクリックします（詳細については、以下の表を参照してください）。

タブ	**機能**
結果	テストの結果、および発生したすべてのエラーの状態を表示します。
Errors (エラー)	発生したエラーの状態、エラーコード、および問題の説明を表示します。
Help （ヘルプ）	テストについて説明します。また、テストを実行するための要件を示す場合もあります。
Configuration （構成）	選択したデバイスのハードウェア構成を表示します。 Dell Diagnostics（診断）プログラムは、セットアップユーティリティ、メモリ、および様々な内部テストからすべてのデバイスの設定情報を入手して、画面の左側ペインのデバイス一覧に表示します。デバイス一覧には、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネント名、またはコンピュータに接続されたすべてのデバイス名が表示されるとは限りません。
Parameters （パラメータ）	テストの設定を変更して、テストをカスタマイズすることができます。

4 『ResourceCD』から Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行している場合は、テストが終了したら CD を取り出します。

5 テスト画面を閉じて、**Main Menu**（メインメニュー）画面に戻ります。Dell Diagnostics（診断）プログラムを終了して、コンピュータを再起動するには、**Main Menu**（メインメニュー）画面を閉じます。

ドライバ

ドライバとは？

ドライバは、プリンタ、マウス、またはキーボードなどのデバイスを制御するプログラムです。すべてのデバイスにドライバプログラムが必要です。

ドライバは、デバイスとそのデバイスを使用するプログラム間の通訳のような役目をします。各デバイスは、そのデバイスのドライバだけが認識する専用のコマンドセットを持っています。

お使いのコンピュータには、出荷時に必要なドライバがプリインストールされているので、新たにインストールしたり設定する必要はありません。

注意：『Dell Dimension ResourceCD』には、お使いのコンピュータに搭載されていないオペレーティングシステムのドライバも収録されている場合があります。インストールするソフトウェアがお使いのオペレーティングシステムに対応していることを確認してください。

キーボードドライバなど、ドライバの多くは Microsoft® Windows® オペレーティングシステムに付属しています。以下の場合にドライバをインストールする必要があります。

- オペレーティングシステムのアップグレード
- オペレーティングシステムの再インストール
- 新しいデバイスの接続または取り付け

ドライバの確認

デバイスで問題が発生した場合、ドライバが問題の原因でないかどうかを識別して、必要に応じてドライバをアップデートします。

Windows XP

1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
2 **作業する分野を選びます** で、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
3 **システム** をクリックします。
4 **システムのプロパティ** ウィンドウで、**ハードウェア** タブをクリックします。
5 **デバイスマネージャ** をクリックします。
6 一覧をスクロールダウンし、デバイスアイコン上の感嘆符（[**!**]の付いた黄色の円）の付いたデバイスを探します。

   デバイス名の横に感嘆符がある場合、ドライバの再インストールまたは新しいドライバのインストールが必要な場合があります（「ドライバ」（67 ページ）を参照）。

ドライバの再インストール

注意：デルサポートサイト **support.jp.dell.com** およびコンピュータに付属の『Dell Dimension ResourceCD』では、Dell™ コンピュータ用に承認されているドライバを提供しています。その他の媒体からドライバをインストールする場合、お使いのコンピュータが適切に動作しないおそれがあります。

Windows XP デバイスドライバのロールバックの使い方

ドライバをインストールまたはアップデートした後でコンピュータに問題が発生した場合は、Windows XP デバイスドライバのロールバックを使ってドライバを以前のバージョンに戻します。

1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
2 **作業する分野を選びます** で、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
3 **システム** をクリックします。
4 **システムのプロパティ** ウィンドウで、**ハードウェア** タブをクリックします。
5 **デバイスマネージャ** をクリックします。
6 新しいドライバをインストールしたデバイスを右クリックして、**プロパティ** をクリックします。
7 **ドライバ** タブをクリックします。
8 **ドライバのロールバック** をクリックします。

デバイスドライバのロールバックを使っても問題が解決しない場合は、システムの復元を使って、新しいドライバがインストールされる前の動作状態にオペレーティングシステムを戻します。

『ResourceCD』の使い方

デバイスドライバのロールバックまたはシステム復元 で問題を解決できない場合は、『ResourceCD』からドライバを再インストールします。

1 Windows デスクトップが表示されたら、ResourceCD をドライブに挿入します。

   『ResourceCD』を初めてお使いになる場合は、手順 2 に進みます。それ以外の場合は、手順 5 に進みます。

2 『ResourceCD』インストールプログラムが起動したら、画面の指示に従います。
3 **InstallShield ウィザードの完了** ウィンドウが表示されたら、『ResourceCD』を取り出し、**完了** をクリックしてコンピュータを再起動します。
4 Windows デスクトップが表示されたら、ResourceCD をもう一度挿入します。
5 **Dell システムをお買い上げくださり、ありがとうございます** 画面で、**次へ** をクリックします。

メモ：ResourceCD では、出荷時にお使いのコンピュータに取り付けられていたハードウェアのドライバのみが表示されます。追加のハードウェアを取り付けてある場合、新しいハードウェアのドライバは『ResourceCD』によって表示されないことがあります。ドライバが表示されていない場合は、『ResourceCD』を終了します。ドライバの情報については、デバイスに付属するマニュアルを参照してください。

コンピュータ上のハードウェアを『ResourceCD』が検出中であるというメッセージが表示されます。

コンピュータで使用されているドライバが、自動的に **My Drivers — The ResourceCD has identified these components in your system（マイドライバ — ResourceCD はシステム上でこれらのコンポーネントを検出しました）**ウィンドウに表示されます。

6 再インストールするドライバをクリックし、画面の指示に従います。

特定のドライバが一覧に表示されていない場合は、オペレーティングシステムはそのドライバを必要としません。

ドライバの手動再インストール

1 前項で説明されているように、ハードドライブにドライバファイルをコピーした後で、**スタート** ボタンをクリックし、**マイコンピュータ** を右クリックします。
2 **プロパティ** をクリックします。
3 **ハードウェア** タブをクリックして、**デバイスマネージャ** をクリックします。
4 ドライバをインストールするデバイスのタイプをダブルクリックします。
5 ドライバをインストールするデバイスの名前をダブルクリックします。
6 **ドライバ** タブをクリックし、**ドライバの更新** をクリックします。
7 **一覧または特定の場所からインストールする（詳細）**をクリックし、**次へ** をクリックします。
8 **参照** をクリックし、ドライバファイルを前回解凍した場所を探して選択します。
9 該当するドライバの名前が表示されたら、**次へ** をクリックします。
10 **完了** をクリックして、コンピュータを再起動します。

Microsoft® Windows® XP システムの復元の使い方

ハードウェア、ソフトウェア、またはその他のシステム設定を変更したために、コンピュータが正常に動作しなくなってしまった場合は、Microsoft® Windows® XP オペレーティングシステムのシステムの復元を使用して、コンピュータを以前の動作状態に復元することができます（データファイルへの影響はありません）。システムの復元の使い方については、Windows ヘルプとサポートセンターを参照してください。ヘルプにアクセスするには、「Windows ヘルプとサポートセンター」（12 ページ）を参照してください。

注意：データファイルのバックアップを定期的に作成してください。システムの復元は、データファイルの変更を監視したり、データファイルを復元することはできません。

復元ポイントの作成

1. **スタート** ボタンをクリックして、**ヘルプとサポート** をクリックします。
2. **システムの復元** をクリックします。
3. 画面の指示に従います。

コンピュータを以前の動作状態に復元する

デバイスドライバのインストール後に問題が発生した場合は、デバイスドライバのロールバック（「Windows XP デバイスドライバのロールバックの使い方」（68 ページ）を参照）を使って問題を解決します。それでも問題を解決できない場合に、システムの復元を使用します。

注意：コンピュータを以前の動作状態に復元する前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。システムの復元が完了するまで、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除しないでください。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム**→ **アクセサリ**→ **システムツール** の順にポイントしてから、**システムの復元** をクリックします。
2. **コンピュータを以前の状態に復元する** が選択されていることを確認して、**次へ** をクリックします。
3. コンピュータを以前の状態に復元する時点の日付をクリックします。

   復元ポイントの選択 画面に、復元ポイントが選べるカレンダーが表示されます。復元ポイントが利用できる日付は太字で表示されます。
4. 復元ポイントを選んで、**次へ** をクリックします。

   日付に復元ポイントが 1 つしか表示されない場合、その復元ポイントが自動的に選ばれます。複数の復元ポイントが利用できる場合は、希望する復元ポイントをクリックします。

5 **次へ** をクリックします。

システムの復元がデータの収集を完了した後、**復元は完了しました** 画面が表示され、コンピュータは再起動します。

6 コンピュータが再起動したら、**OK** をクリックします。

復元ポイントを変更するには、別の復元ポイントを使って手順を繰り返すか、または復元を取り消すことができます。

以前のシステムの復元の取り消し

注意：以前のシステムの復元を取り消す前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。システムの復元が完了するまで、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除しないでください。

1 **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム**→ **アクセサリ**→ **システムツール** の順にポイントしてから、**システムの復元** をクリックします。

2 **以前の復元を取り消す** をクリックして、**次へ** をクリックします。

3 **次へ** をクリックします。

システムの復元 画面が表示されて、コンピュータが再起動します。

4 コンピュータが再起動したら、**OK** をクリックします。

システムの復元を有効にする

空き容量が 200 MB 未満のハードディスクに Windows XP を再インストールした場合、システムの復元は自動的に無効に設定されています。システムの復元が有効になっているかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

1 **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。

2 **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。

3 **システム** をクリックします。

4 **システムの復元** タブをクリックします。

5 **すべてのドライブでシステムの復元を無効にする** のチェックマークが外されていることを確認します。

ソフトウェアとハードウェアの非互換性の解決

オペレーティングシステムのセットアップ中にデバイスが検知されないか、検知されたが正しく設定されていない場合は、ハードウェアに関するトラブルシューティングを使って非互換性を解決できます。

ハードウェアに関するトラブルシューティングを使って非互換性を解決するには、以下の手順を実行します。

1 **スタート** ボタンをクリックして、**ヘルプとサポート** をクリックします。
2 **検索** 領域で、ハードウェアに関するトラブルシューティング と入力し、矢印をクリックして検索を開始します。
3 **検索結果** 一覧で、**ハードウェアに関するトラブルシューティング** をクリックします。
4 **ハードウェアに関するトラブルシューティング** 一覧で、**コンピュータにあるハードウェアの競合を解決する必要があります** をクリックして、**次へ** をクリックします。

Microsoft® Windows® XP の再インストール

注意：Windows XP を再インストールするには、Windows XP Service Pack 1（SP1）以降を使用する必要があります。

注意：オペレーティングシステムのインストール後にアレイ内の特定のハードドライブを使う必要が生じることを想定している場合は、オペレーティングシステムのインストール時にシングルドライブの RAID 0 アレイを作成する必要があります。手順については、「Nvidia MediaShield ROM ユーティリティによるアレイの作成方法」（24 ページ）を参照してください。

作業を開始する前に

新しくインストールしたドライバの問題を解消するために Windows XP オペレーティングシステムを再インストールする場合は、Windows XP のデバイスドライバのロールバックを試してみます（「Windows XP デバイスドライバのロールバックの使い方」（68 ページ）を参照）。デバイスドライバのロールバックを実行しても問題が解決されない場合は、システムの復元を使って（「Microsoft® Windows® XP システムの復元の使い方」（70 ページ）を参照）、オペレーティングシステムを新しいデバイスドライバがインストールされる前の動作状態に戻します。

注意：この手順を実行する前に、お使いのプライマリハードドライブのすべてのデータファイルをバックアップします。通常のハードドライブ構成では、プライマリハードドライブはコンピュータによって 1 番目のドライブとして認識されます。

Windows XP を再インストールするには、以下のアイテムが必要です。

- Dell™『オペレーティングシステム CD』
- Dell『ResourceCD』

メモ：『ResourceCD』には、コンピュータの製造工程でプリインストールされたドライバが収録されています。『ResourceCD』を使用して必要なドライバをロードします。

Windows XP の再インストール

Windows XP を再インストールするには、次項にあるすべての手順を記載されている順番に実行します。

再インストール処理を完了するには、1 ～ 2 時間かかることがあります。オペレーティングシステムを再インストールした後、デバイスドライバ、アンチウイルスプログラム、およびその他のソフトウェアを再インストールする必要があります。

注意：『オペレーティングシステム CD』には、Windows XP の再インストール用のオプションが収録されています。オプションはファイルを上書きして、ハードドライブにインストールされているプログラムに影響を与える可能性があります。このような理由から、デルのテクニカルサポート担当者の指示がない限り Windows XP を再インストールしないでください。

注意：Windows XP とのコンフリクトを防ぐため、システムにインストールされているアンチウイルスソフトを無効にしてから Windows XP を再インストールしてください。手順については、ソフトウェアに付属しているマニュアルを参照してください。

オペレーティングシステム CD からの起動

1. 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。
2. 『オペレーティングシステム CD』を挿入します。`Install Windows XP`（Windows XP のインストール）というメッセージが表示された場合は、**Exit**（終了）をクリックします。
3. コンピュータを再起動します。
4. DELL™ ロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。

   オペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Windows のデスクトップが表示されるのを待って、コンピュータをシャットダウンして、再度試みます。
5. 矢印キーを押して **CD-ROM** を選んでから、<Enter> を押します。
6. `Press any key to boot from CD` というメッセージが表示されたら、いずれかのキーを押します。

Windows XP のセットアップ

1. **セットアップの開始** 画面が表示されたら、<Enter> を押して Windows XP のセットアップを開始します。
2. **Microsoft Windows ライセンス契約** 画面の内容を読み、キーボードの <F8> を押して、使用許諾契約書に同意します。
3. お使いのコンピュータに Windows XP がインストールされていて、現在の Windows XP データを復元したい場合は、`r` と入力して修復オプションを選び、CD を取り出します。
4. 新たに Windows XP をインストールする場合は、<Esc> を押して、オプションを選択します。

5 <Enter> を押してハイライト表示されたパーティション（推奨）を選び、画面の指示に従います。

Windows XP セットアップ 画面が表示され、オペレーティングシステムは、ファイルのコピーおよびデバイスのインストールを開始します。コンピュータは自動的に数回再起動します。

メモ：ハードドライブの容量やコンピュータの速度によって、セットアップに要する時間は変わります。

注意：次のメッセージが表示された場合、どのキーも押さないでください。
`Press any key to boot from the CD.`

6 **地域と言語のオプション** 画面が表示されたら、お住まいの地域の設定を選び、**次へ** をクリックします。

7 **ソフトウェアの個人用設定** 画面で、お名前と会社名（オプション）を入力して、**次へ** をクリックします。

8 *Windows XP Home Edition を再インストールしている場合*、**コンピュータ名は何ですか？** ウィンドウで、コンピュータ名を入力（または記載の名前を承認）して、**次へ** をクリックします。

Windows XP Professional を再インストールしている場合、**コンピュータ名と Administrator** ウィンドウでコンピュータ名（または記載の名前を承認）およびパスワードを入力して、**次へ** をクリックします。

9 **モデムのダイヤル情報** 画面が表示された場合、必要な情報を入力して、**次へ** をクリックします。

10 **日付と時刻の設定** ウィンドウに日付と時間を入力して、**次へ** をクリックします。

11 **ネットワークの設定** 画面が表示された場合は、**標準設定** をクリックして、**次へ** をクリックします。

12 Windows XP Professional を再インストールしている場合は、ネットワーク設定に関する情報を求められることがあります。該当するものを選びます。設定がわからない場合、デフォルトの選択肢を選びます。

Windows XP は、オペレーティングシステムのコンポーネントをインストールして、コンピュータを設定します。コンピュータは自動的に再起動します。

注意：次のメッセージが表示された場合、どのキーも押さないでください。
`Press any key to boot from the CD.`

13 **Microsoft Windows へようこそ** 画面が表示されたら、**次へ** をクリックします。

14 インターネットに接続する方法を指定してください というメッセージが表示されたら、**省略** をクリックします。

15 **Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか ?** の画面が表示されたら、**いいえ、今回はユーザー登録しません** を選び、**次へ** をクリックします。

16 **このコンピュータを使うユーザーを指定してください** の画面が表示されたら、5 名までユーザーを入力できます。

17 **次へ** をクリックします。

18 **完了** をクリックしてセットアップを完了し、CD を取り出します。

19 『ResourceCD』から適切なドライバを再インストールします（「ドライバの再インストール」（68 ページ）を参照）。

20 アンチウイルスソフトウェアを再インストールします。

21 すべてのプログラムを再インストールします。

メモ：Microsoft Office または Microsoft Works Suite プログラムを再インストールしてアクティブにするには、Microsoft Office または Microsoft Works Suite CD スリーブの背面にあるプロダクトキー番号が必要です。

5

部品の取り外しと取り付け

作業を開始する前に

ここでは、お使いのコンピュータの部品の取り外しと取り付けの手順について説明します。特に指示がない限り、それぞれの手順では以下の条件を満たしていることを前提とします。

- 「「コンピュータの電源を切る」（77 ページ）」および「「コンピュータ内部の作業を始める前に」（78 ページ）」の手順をすでに完了していること。
- Dell™ の『製品情報ガイド』の安全に関する情報をすでに読んでいること。
- 取り外しの手順を逆の順序で実行することで部品の取り付けができること。

推奨する工具とツール

本書で説明する操作には、以下のようなツールが必要です。

- 小型のマイナスドライバ
- プラスドライバ
- **support.jp.dell.com** で入手可能な BIOS アップデート

コンピュータの電源を切る

注意：データの損失を防ぐため、開いているすべてのファイルを保存してから閉じ、実行中のすべてのプログラムを終了してから、コンピュータの電源を切ります。

1 オペレーティングシステムをシャットダウンするには、次の手順を実行します。

  a 開いているすべてのファイルを保存してから閉じ、実行中のすべてのプログラムを終了します。次に、**スタート** ボタンをクリックして、**終了オプション** をクリックします。

  b **コンピュータの電源を切る** ウィンドウで、**電源を切る** をクリックします。
  オペレーティングシステムのシャットダウン処理が完了すると、コンピュータの電源が切れます。

2 コンピュータおよび取り付けられているデバイスの電源が切れていることを確認します。オペレーティングシステムをシャットダウンした際に、コンピュータおよび取り付けられているデバイスの電源が自動的に切れなかった場合は、電源ボタンを 4 秒以上押し続けます。

コンピュータ内部の作業を始める前に

身体の安全を守り、コンピュータを損傷から保護するために、次の安全に関する注意事項に従ってください。

警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。

警告：部品やカードは丁寧に取り扱ってください。カード上の部品や接続部分には触れないでください。カードを持つ際は縁を持つか、金属製の取り付けブラケットの部分を持ってください。プロセッサチップなどの部品を持つ際は、ピンではなく縁を持ってください。

注意：コンピュータの修理は、認可されたサービス技術者のみが行ってください。デルで認められていない修理による損傷は、保証の対象となりません。

注意：ケーブルを外す際は、ケーブルそのものを引っ張らずに、コネクタやストレインリリーフループをつかんで抜いてください。ケーブルによっては、ロックタブ付きのコネクタがあるケーブルもあります。このタイプのケーブルを取り外すときは、ロックタブを押し入れてからケーブルを抜きます。コネクタを外すときは、コネクタピンを曲げないようにまっすぐに引き抜きます。また、ケーブルを接続するときは、両方のコネクタがまっすぐに向き合っていることを確認してください。

注意：コンピュータの損傷を防ぐため、コンピュータ内部の作業を始める前に、次の手順を実行します。

1 コンピュータの電源を切ります（「コンピュータの電源を切る」（77 ページ）を参照）。

注意：ネットワークケーブルを取り外すには、まずコンピュータからケーブルを外し、次に、ネットワークポートまたはデバイスから外します。

2 電話回線や通信回線をコンピュータから取り外します。

3 コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、電源ボタンを押してシステム基板の静電気を逃がします。

警告：感電防止のため、カバーを開く前に必ず、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

4 コンピュータカバーを開きます（「コンピュータカバーを開く」（84 ページ）を参照）。

注意：コンピュータ内部に触れる前に、コンピュータ背面の金属部など塗装されていない金属面に触れて、身体の静電気を逃がしてください。作業中も、定期的に塗装されていない金属面に触れて、内蔵コンポーネントを損傷するおそれのある静電気を逃がしてください。

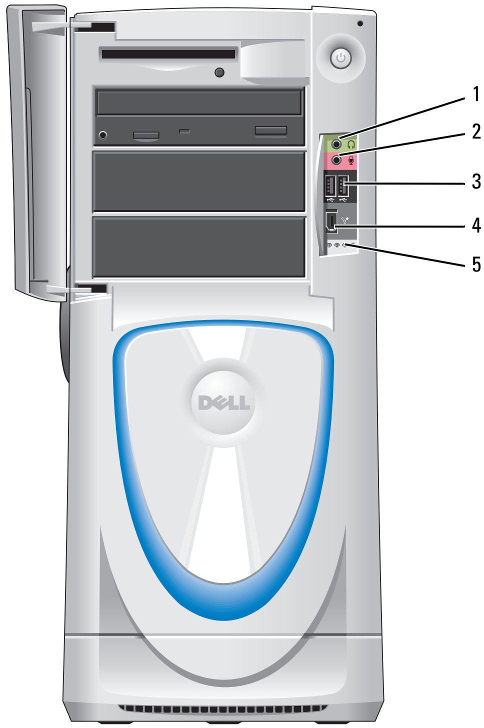
コンピュータの正面および背面

正面



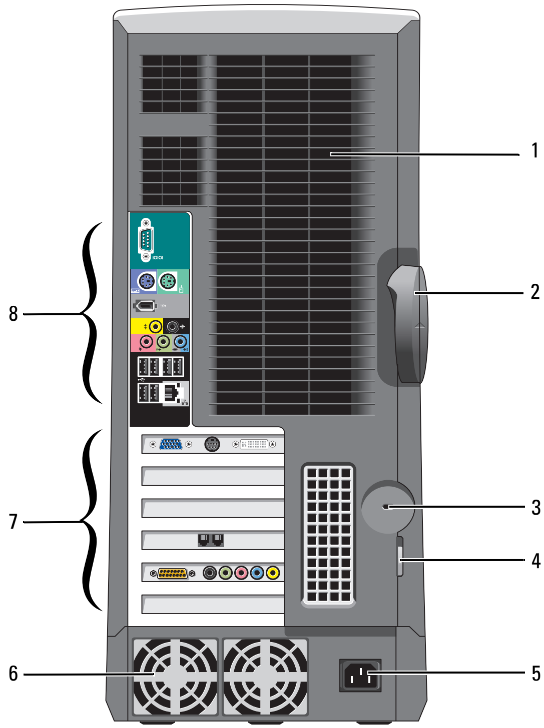
1	ハードドライブ動作ライト	ハードドライブライトは、コンピュータがハードドライブからデータを読み書きしている際に点灯します。このライトは、CD プレーヤーなどのデバイスが動作しているときにも点灯します。
2	電源ボタン	このボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。 **注意：**データの損失を防ぐため、電源ボタンを使ってコンピュータの電源を切らないでください。電源ボタンを押さずに、オペレーティングシステムのシャットダウンを実行してください。
3	ドライブドア	フロッピードライブと CD/DVD ドライブにアクセスするには、ドライブドアを開けます。 **メモ：**ドライブドアは取り外し可能で、取り外したり、誤ってヒンジから外してしまっても元に戻ります。ドアを再度取り付ける方法については、「ドライブドアの取り付け」（134 ページ）を参照してください。
4	正面パネルドア	正面パネルコネクタを使用するには、正面パネルドアを開けます。

正面（ドアを開けた状態）

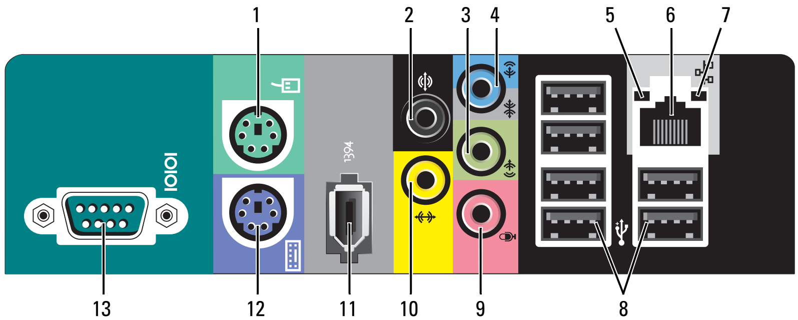


1	ヘッドフォンコネクタ	ヘッドフォンコネクタを使用して、ヘッドフォンやほとんどの種類のスピーカーを接続できます。
2	マイクコネクタ	マイクコネクタにパーソナルコンピュータ用マイクを接続し、音声や音楽をサウンドまたはテレフォニープログラムに入力します。
3	USB 2.0 コネクタ（2）	ジョイスティックやカメラなど、時々接続するデバイスには、正面 USB コネクタを使用します。 プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイス、または正面コネクタに接続すると正常に動作しない場合がある起動可能な USB デバイスには、背面の USB コネクタを使用することをお勧めします。
4	IEEE 1394 コネクタ	デジタルビデオカメラなど、高速シリアルマルチメディアデバイスを接続します。
5	診断ライト（4）	診断ライトを使用すると、診断コードを基にコンピュータの問題を解決するのに役立ちます。詳細については、「診断ライト」（59 ページ）を参照してください。

コンピュータの背面



1	プロセッサファン（2）	最適な冷却を行うため、2 基のプロセッサファンが取り付けられています。通気孔をふさがないようにしてください。
2	カバーラッチリリース	コンピュータカバーを開けるには、カバーラッチリリースを上にしてコンピュータを横に倒し、ラッチを左方向に押します。「コンピュータカバーを開く」（84 ページ）を参照してください。
3	セキュリティケーブルスロット	セキュリティケーブルをスロットに接続すると、コンピュータの盗難防止に役立ちます。
4	パドロックリング	パドロックを差し込んで、コンピュータカバーをロックします。
5	電源コネクタ	電源ケーブルを差し込みます。
6	電源装置ファン	最適な冷却を行うため、2 基の電源装置ファンが取り付けられています。通気孔をふさがないようにしてください。
7	カードスロット（6）	オプションのビデオ、オーディオ、モデム、またはその他の PCI カード（3 スロット）、および PCI Express カード（x16 スロット× 2、x1 スロット× 1）のコネクタが接続できます。 **メモ：**PCI Express x16 カードスロットのそれぞれにグラフィックカードがデュアルグラフィック構成で取り付けられている場合、PCI Express x1 カードスロットは使用できません。
8	背面パネルコネクタ	USB、オーディオ、およびその他のデバイスのプラグを対応するコネクタに差し込みます。



1	マウスコネクタ	標準マウスをお使いの場合は、緑色のマウスコネクタに差し込みます。コンピュータおよび取り付けられているすべてのデバイスの電源を切ってから、マウスをコンピュータに接続します。USB マウスをお使いの場合は、USB コネクタに差し込みます。
2	サラウンドコネクタ	黒のサラウンドコネクタを使用して、マルチチャネル対応スピーカーを接続します。
3	ライン出力コネクタ	緑色のライン出力コネクタ（内蔵サウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使って、ヘッドフォンおよび内蔵アンプの付いたほとんどのスピーカーを接続できます。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合は、カードのコネクタを使用します。
4	ライン入力コネクタ / サイドサラウンド	青色と銀色のコネクタは、カセットプレーヤー、CD プレーヤー、または VCR（ビデオカセットレコーダー）などの録音 / 再生デバイスを接続するか、または 7.1 スピーカー付きのコンピュータにエンハンストサラウンドオーディオを提供します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合は、カードのコネクタを使用します。
5	リンク保全ライト	• 緑色 — 10 Mbps のネットワークとコンピュータが正しく接続されていることを示します。 • 橙色 — 100 Mbps のネットワークとコンピュータが正しく接続されていることを示します。 • 黄色 — 1000 Mbps のネットワークとコンピュータが正しくネットワーク接続されていることを示します。 • 消灯 — ネットワークとの物理的な接続が検知されていません。

6	ネットワークアダプタコネクタ	コンピュータをネットワークやブロードバンドデバイスに接続するには、ネットワークケーブルの一方の端をネットワークジャックやブロードバンドデバイスに接続します。ネットワークケーブルのもう一方の端は、コンピュータの背面にあるネットワークアダプタコネクタに接続します。カチッという音がすれば、ネットワークケーブルはしっかり接続されています。 **メモ：**ネットワークコネクタにモデムケーブルを接続しないでください。 ネットワークコネクタカードが搭載されたコンピュータの場合は、カードのコネクタを使用します。
7	ネットワーク動作ライト	黄色のライトは、コンピュータがネットワークデータを送信、または受信している際に点滅します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。
8	USB 2.0 コネクタ（6）	プリンタやキーボードなど、通常接続したままのデバイスには背面 USB コネクタを使用します。 ジョイスティックやカメラなど、時々接続するデバイスには、正面 USB コネクタを使用することをお勧めします。
9	マイクコネクタ	桃色のコネクタにパーソナルコンピュータ用マイクを接続し、音声や音楽をサウンドまたはテレフォニープログラムに入力します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合は、カードのマイクコネクタを使用します。
10	センター / サブウーハーコネクタ	黄色のコネクタを使って、スピーカーを LFE（低周波効果）オーディオチャネルに接続します。
11	IEEE 1394 コネクタ	デジタルビデオカメラなど、高速シリアルマルチメディアデバイスを接続します。
12	キーボードコネクタ	標準キーボードをお使いの場合は、紫色のキーボードコネクタにキーボードケーブルを差し込みます。USB キーボードをお使いの場合は、USB コネクタに差し込みます。
13	シリアルコネクタ	ハンドヘルドデバイスなどのシリアルデバイスをシリアルポートに接続します。

コンピュータカバーを開く

⚠ **警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。**

⚠ **警告：コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を逃がすことができます。**

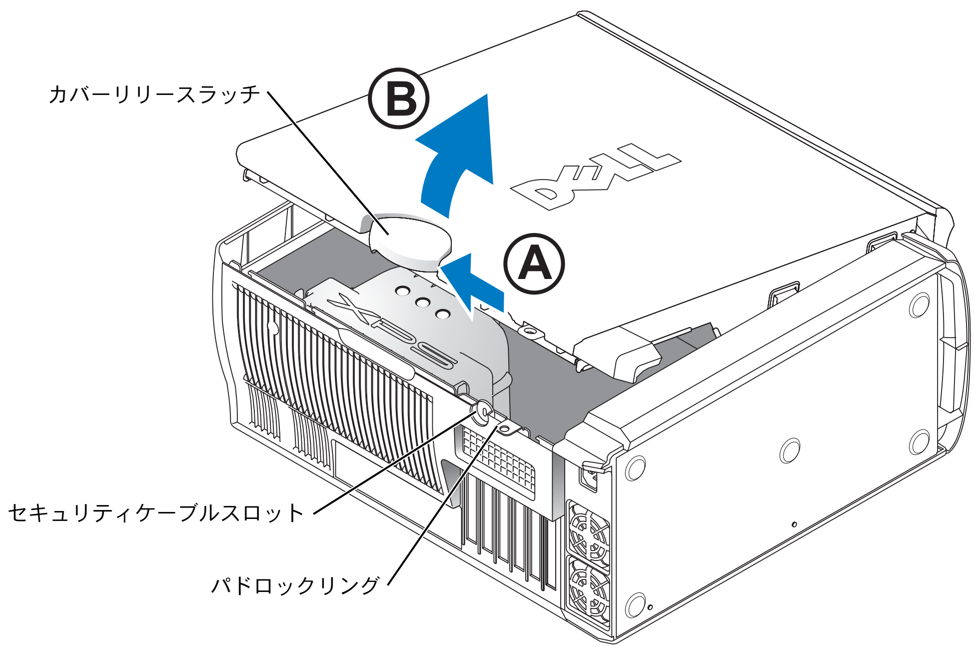
1 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従ってください。

2 コンピュータ底部の矢印が上を向くようにコンピュータを横に倒します。

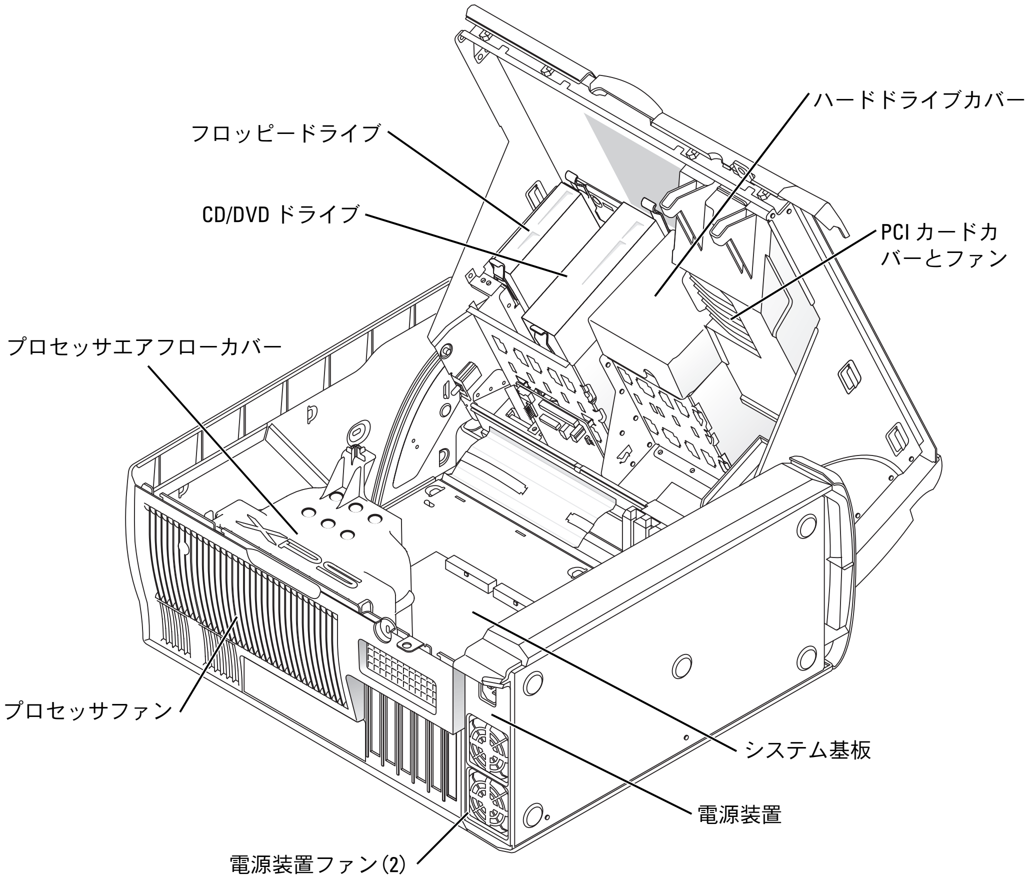
注意：開いたカバーがぶつからないように、作業台上に十分なスペース（最低 30 cm）があることを確認します。

3 コンピュータの上部方向にカバーリリースラッチをスライドさせます。

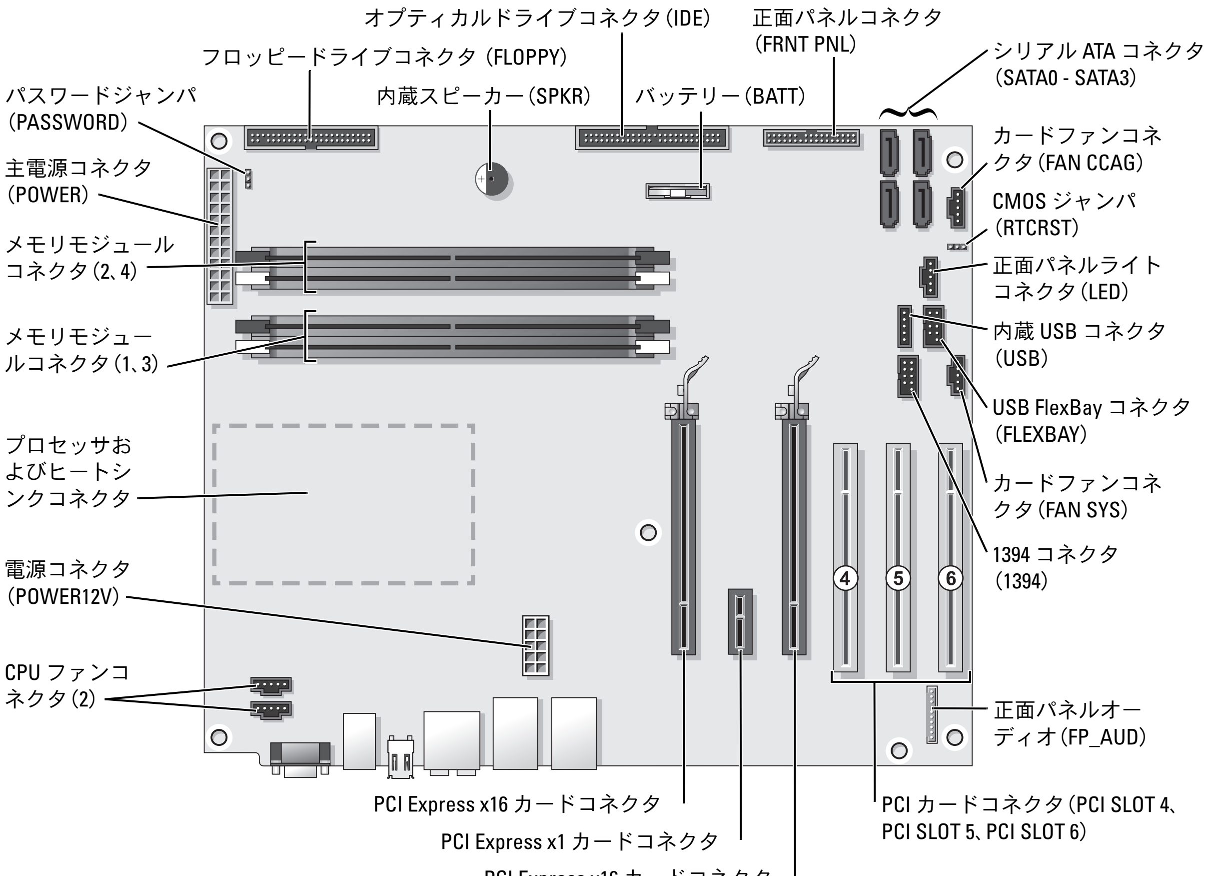
4 カバーを持ち上げて、コンピュータ正面の方向に回転させます。



コンピュータの内部


フロッピードライブ
ハードドライブカバー
CD/DVD ドライブ
PCI カードカバーとファン
プロセッサエアフローカバー
プロセッサファン
システム基板
電源装置
電源装置ファン(2)

システム基板のコンポーネント



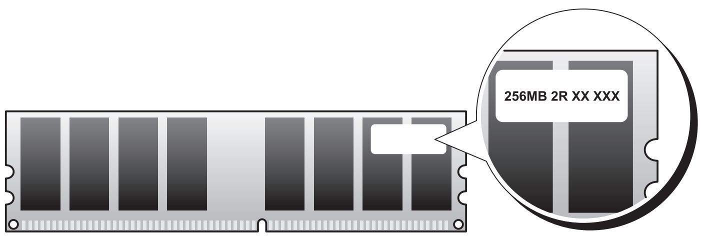
メモリ

システム基板にメモリモジュールを取り付けることで、コンピュータメモリを増やすことができます。

お使いのコンピュータは DDR2 メモリに対応しています。お使いのコンピュータに対応するメモリの詳細については、「メモリ」（139 ページ）を参照してください。

DDR2 メモリの概要

- DDR2 メモリモジュールは、必ず同じメモリサイズおよび速度のものを 2 枚 1 組のペアで取り付ける必要があります。DDR2 メモリモジュールを同じメモリサイズのペアで取り付けていない場合、コンピュータは動作しますが、パフォーマンスがやや低下します。モジュールの右上隅または左上隅のラベルで、モジュールの容量を確認してください。



メモ：必ずシステム基板に示される順序で DDR2 メモリモジュールを取り付けてください。

推奨されるメモリ構成は次のとおりです。

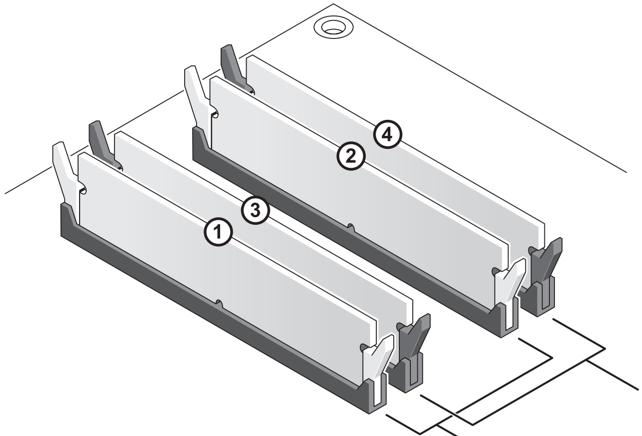
– DIMM コネクタ 1 と 2 に同じメモリモジュールのペアを装着

または

– DIMM コネクタ 1 と 2 に同じメモリモジュールの 1 組のペア、および DIMM コネクタ 3 と 4 にもう 1 組のペアを装着

注意：ECC メモリモジュールは取り付けないでください。

- PC2-4300（DDR2 533 MHz）と PC2-5300 (DDR2 667 MHz）のメモリモジュールのペアを組み合わせて装着した場合、装着したモジュールのうちの遅い方のスピードで動作します。
- 別のコネクタにメモリモジュールを装着する前に、プロセッサに最も近いコネクタの DIMM コネクタ 1 に単一のメモリモジュールを装着していることを確認してください。



注意：新しく装着するモジュールをデルからお買い上げになった場合でも、メモリのアップグレード中にコンピュータから取り外した元のメモリは、新しいメモリとは別に保管してください。できれば、新しいメモリモジュールと元のメモリモジュールはペアにしないでください。ペアにすると、コンピュータが正しく起動しないことがあります。元のメモリモジュールは、DIMM コネクタ 1 と 2、または DIMM コネクタ 3 と 4 のいずれかにペアで装着する必要があります。

メモ：デルからご購入されたメモリは、お使いのコンピュータの保証の対象になっています。

メモリアドレッシングとメモリ構成

Microsoft® Windows® XP など、32 ビットのオペレーティングシステムを使用する場合、お使いのコンピュータは最大 2 GB のメモリをサポートします。64 ビットのオペレーティングシステムを使用する場合、お使いのコンピュータは最大 8 GB のメモリ（4 つのスロットすべてに 2 GB の DIMM を装着）をサポートします。

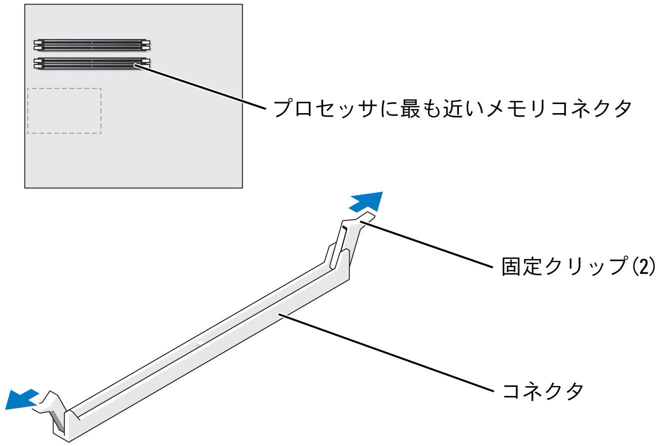
メモリの取り付け

警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。

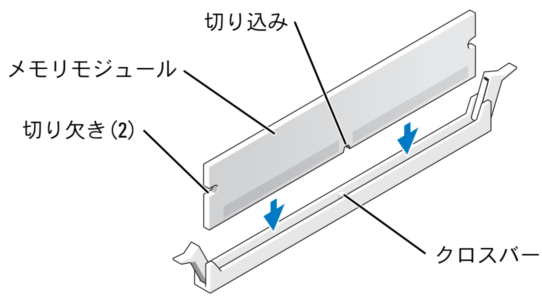
注意：コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を逃がすことができます。

1 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従ってください。
2 コンピュータ内でシステム基板が下になるように、コンピュータを横に倒します。

3 メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを押して開きます。



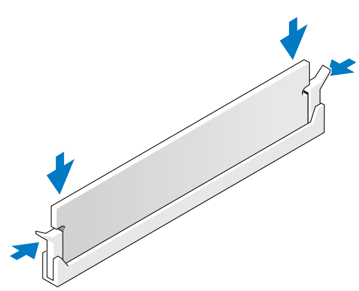
4 メモリモジュールの底部にある切り込みと、コネクタのクロスバーを合わせせます。



注意：メモリモジュールの損傷を防ぐため、モジュールの両端に均等に力をかけてコネクタにまっすぐ差し込んでください。

5 メモリモジュールを、カチッと所定の位置に収まるまでしっかりと押し込みます。

モジュールを正しく挿入すると、固定クリップはモジュール両端の切り欠きにカチッと収まります。



6 コンピュータカバーを閉じます。

注意：ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークポートまたはデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

7 コンピュータおよびデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

8 メモリサイズが変更されたことを示すメッセージが表示されたら、<F1> を押して続行します。

9 コンピュータにログオンします。

10 Windows デスクトップの **マイコンピュータ** アイコンを右クリックし、**プロパティ** をクリックします。

11 **全般** タブをクリックします。

12 メモリが正しく取り付けられていることを確認するには、記載されているメモリ容量（RAM）を確認します。

メモリの取り外し

警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。

注意：コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を逃がすことができます。

1 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従ってください。

2 メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを押して開きます。

3 モジュールをつかんで引き上げます。

モジュールが取り外しにくい場合、モジュールを前後に慎重に動かして緩め、コネクタから取り外します。

カード

⚠ **警告：『製品情報ガイド』の「安全にお使いいただくために」の注意事項に従い、この項の手順を開始してください。**

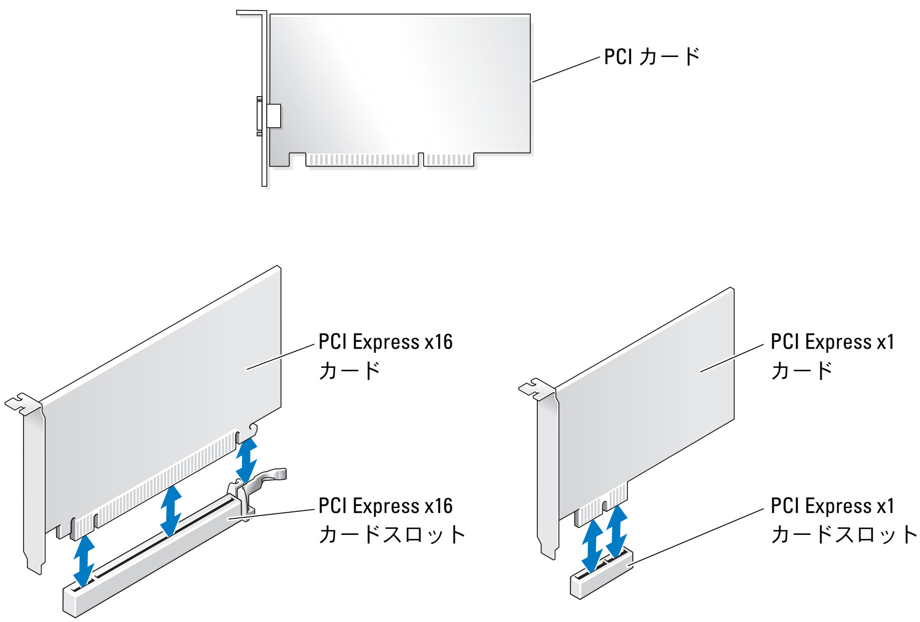
注意：コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を逃がすことができます。

この Dell™ コンピュータには、PCI カードおよび PCI Express カード用の以下のスロットが用意されています。

- PCI カードスロット× 3
- PCI Express x16 カードスロット× 2（デュアルグラフィック構成で使用可能）

メモ：PCI Express x16 カードスロットのそれぞれにグラフィックカードがデュアルグラフィック構成で取り付けられている場合、PCI Express x1 カードスロットは使用できません。

- PCI Express x1 カードスロット× 1

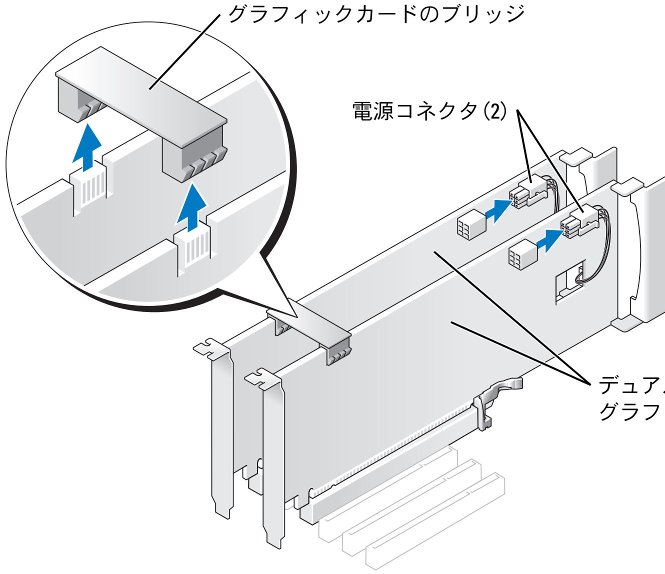


デュアル構成から PCI Express グラフィックカードを取り外す

メモ：本項は、PCI Express グラフィックカードのデュアル構成のみに適用されます。その他のタイプの PCI または PCI Express カードの取り外しについては、「PCI カードおよび PCI Express カードの取り外し」（99 ページ）を参照してください。

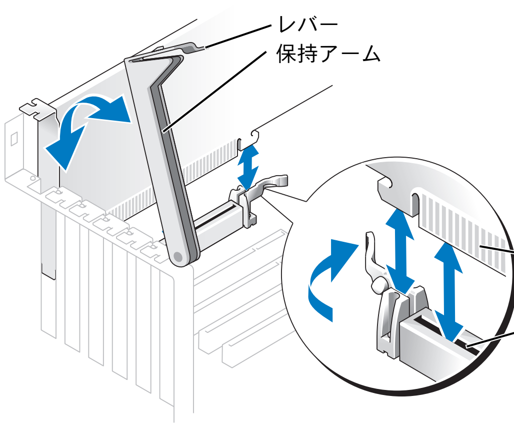
1 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従います。

2 片方の手で両方のグラフィックカードを軽く固定し、もう片方の手でグラフィックカードのブリッジを引き上げて、コンピュータから取り外します。ブリッジは取っておきます。

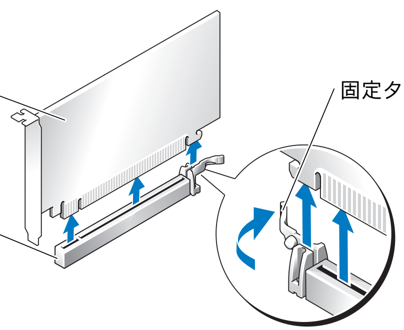


3　カードに接続されている電源ケーブルを取り外します。

4　カード保持アームのレバーを押して、保持アームを持ち上げます。



5　固定タブがあればそれを引っ張り、カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。



6　カードを取り付ける場合は、「デュアル構成に PCI Express グラフィックカードを取り付ける」（94 ページ）を参照してください。

カードを取り外したままにする場合は、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

メモ：コンピュータの FCC 認証を満たすには、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

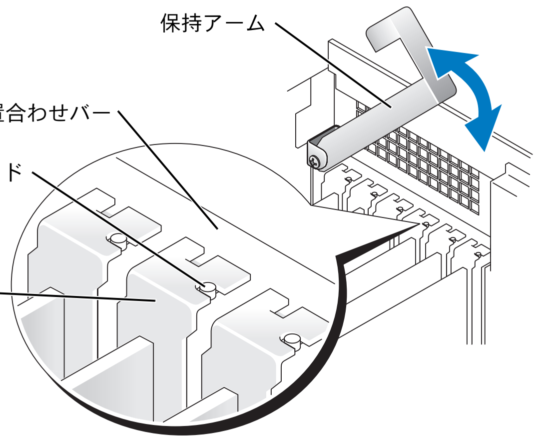
メモ：シングルカード構成では、グラフィックカードのブリッジは不要です。

7　保持アームを下ろす前に、次のことを確認します。

- すべてのカードとフィラーブラケットの上端が、位置合わせバーと揃っている。
- カードまたはフィラーブラケット上端の切り込みが、位置合わせガイドとかみ合っている。

注意：カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。カードの上を通してケーブルを配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなかったり、装置が損傷する原因になります。

8 保持アームを所定の位置に押し込み、カードをコンピュータに固定します。



注意：ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークポートまたはデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

9 コンピュータカバーを取り付け、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

デュアル構成に PCI Express グラフィックカードを取り付ける

メモ：本項は、PCI Express グラフィックカードのデュアル構成のみに適用されます。その他のタイプの PCI または PCI Express カードの取り付けについては、「PCI カードおよび PCI Express カードの取り付け」（101 ページ）を参照してください。

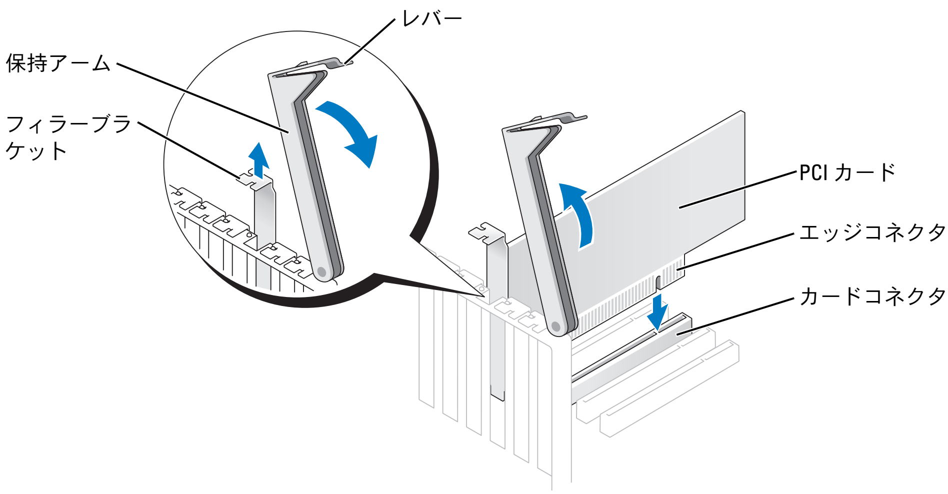
PCI Express x16 カードスロットのそれぞれにグラフィックカードがデュアルグラフィック構成で取り付けられている場合、PCI Express x1 カードスロットは使用できません。シングルグラフィック構成からデュアルグラフィック構成にアップグレードする場合は、PCI Express x1 カードスロットに取り付けられているカードをすべて取り外す必要があります。PCI Express x1 カードスロットの位置については、「システム基板のコンポーネント」（86 ページ）を参照してください。PCI Express カードを取り外すには、「PCI カードおよび PCI Express カードの取り外し」（99 ページ）を参照してください。

注意：NVIDIA SLI（スケーラブルリンクインタフェース）デュアルグラフィックテクノロジを利用するためにシステムをアップグレードする手順の詳細については、デルサポートサイト **support.jp.dell.com** を参照してください。

NVIDIA SLI（スケーラブルリンクインタフェース）デュアルグラフィックテクノロジの詳細については、「NVIDIA SLI デュアルグラフィックテクノロジ」（40 ページ）を参照してください。

1 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従ってください。

2 カード保持アームのレバーを押して、保持アームを持ち上げます。



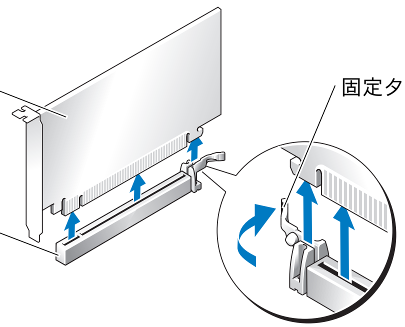
3 デュアルグラフィック構成にアップグレードする場合は、フィラーブラケットを取り外して、カードスロット開口部を作ります。

4 デュアルグラフィック構成にアップグレードする場合、PCI Express x1 カードスロットにカードが取り付けられていれば、それを取り外します。「PCI カードおよび PCI Express カードの取り外し」（99 ページ）を参照してください。

5 取り付けるカードを準備します。

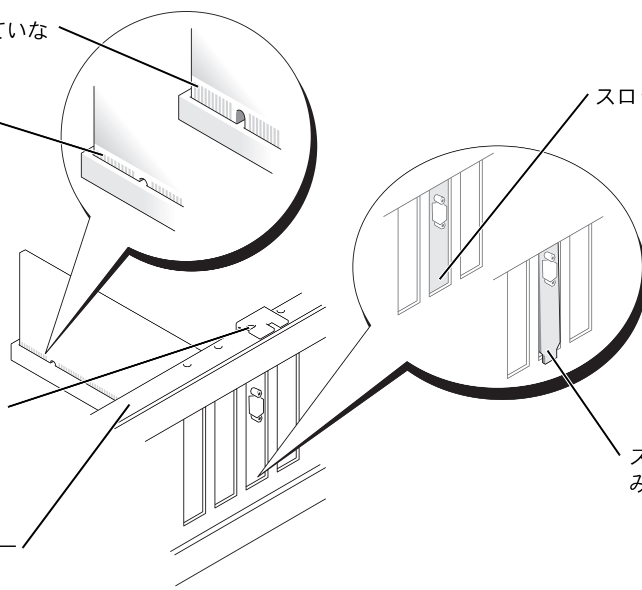
カードの構成、内部接続、またはお使いのコンピュータに合わせてカスタマイズする方法については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

6 カードの位置が、スロットと揃い、固定タブがある場合は固定スロットと揃うようにします。



注意：必ず固定タブを外して、カードを固定してください。カードを正しく取り付けないと、システム基板が損傷することがあります。

7 固定タブがある場合は固定タブをゆっくりと引き、カードをコネクタに差し込みます。しっかりと押し込んで、カードがスロットに完全に装着されていることを確認します。

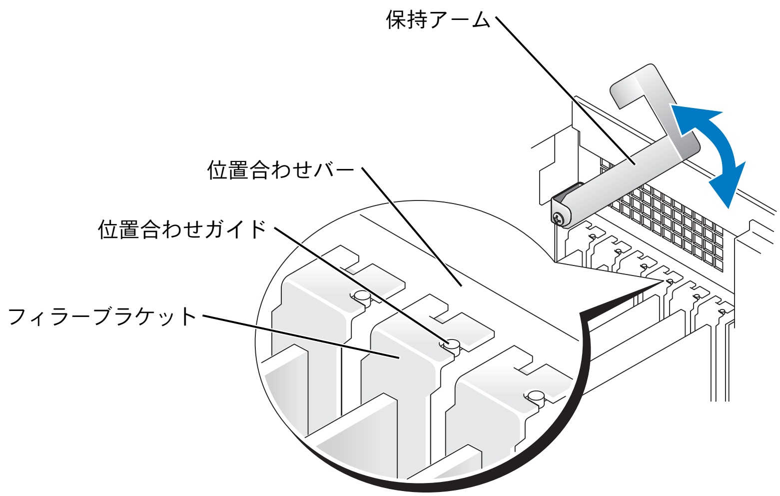


8 保持アームを下ろす前に、次のことを確認します。

- すべてのカードとフィラーブラケットの上端が、位置合わせバーと揃っている。
- カードまたはフィラーブラケット上端の切り込みが、位置合わせガイドとかみ合っている。

注意：カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。カードの上を通してケーブルを配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなかったり、装置が損傷する原因になります。

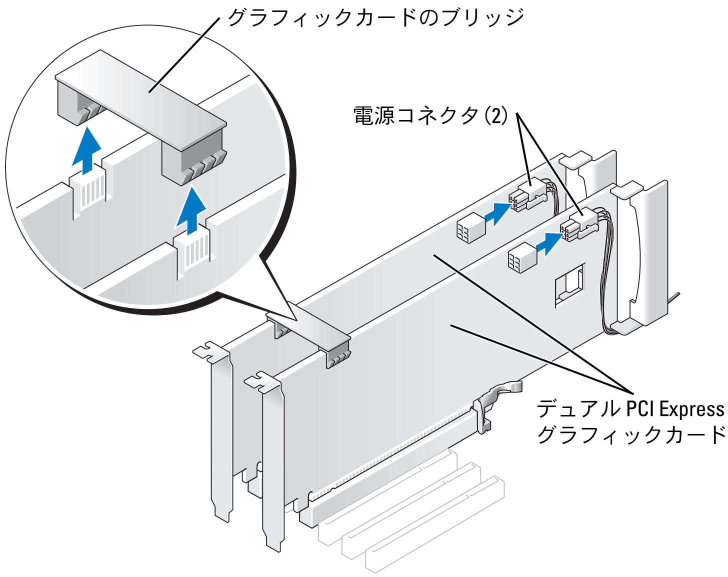
9 保持アームを所定の位置に押し込み、カードをコンピュータに固定します。



注意：グラフィックカードの電源ケーブルが正しく取り付けられていないと、グラフィックパフォーマンスの低下を招くことがあります。

10 電源ケーブルをカードの電源コネクタに接続します。

カードのケーブル接続の詳細については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。



11 グラフィックカードのブリッジを元のように取り付け、コネクタタブを完全に覆うようにしっかりと押し込みます。

注意：ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークポートまたはデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

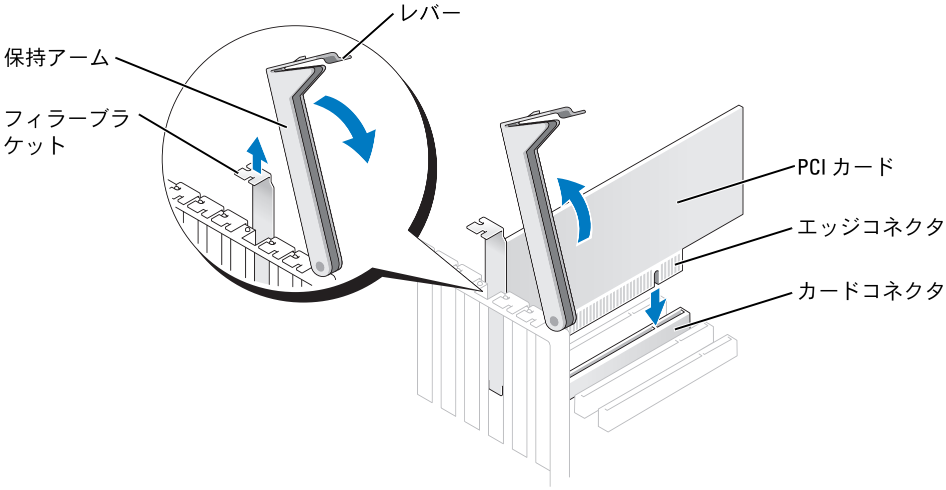
12 コンピュータカバーを取り付け、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

PCI カードおよび PCI Express カードの取り外し

注意：オプションのデュアルグラフィック構成の場合は、「デュアル構成から PCI Express グラフィックカードを取り外す」（92 ページ）を参照してグラフィックカードの取り外しまたは取り付けを行ってください。

1 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従ってください。

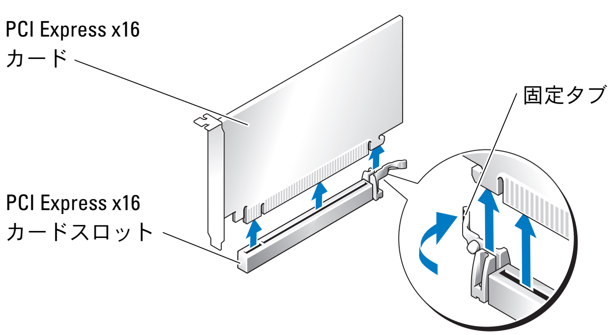
2 カード保持アームのレバーを押して、保持アームを持ち上げます。



3 カードを取り外します。

a 必要に応じて、カードに接続されたケーブルを取り外します。

b 固定タブがあればそれを引っ張り、カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。



4 カードを取り付ける場合は、「PCI カードおよび PCI Express カードの取り付け」（101 ページ）を参照してください。

カードを取り外したままにする場合は、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

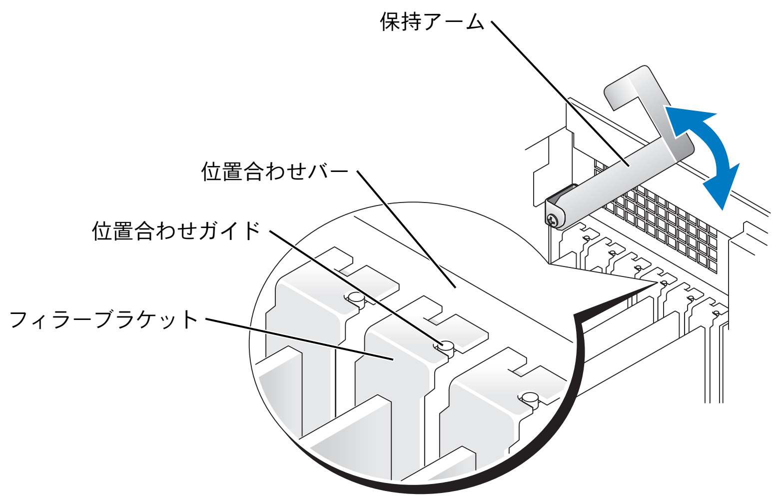
メモ：コンピュータの FCC 認証を満たすには、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

5 保持アームを下ろす前に、次のことを確認します。

- すべてのカードとフィラーブラケットの上端が、位置合わせバーと揃っている。
- カードまたはフィラーブラケット上端の切り込みが、位置合わせガイドとかみ合っている。

注意：カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。カードの上を通してケーブルを配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなかったり、装置が損傷する原因になります。

6 保持アームを所定の位置に押し込み、カードをコンピュータに固定します。



注意：ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークポートまたはデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

7 コンピュータカバーを取り付け、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

8 サウンドカードまたはネットワークアダプタを取り外した場合は、「ネットワークアダプタおよびサウンドカードの設定」（103 ページ）を参照してください。

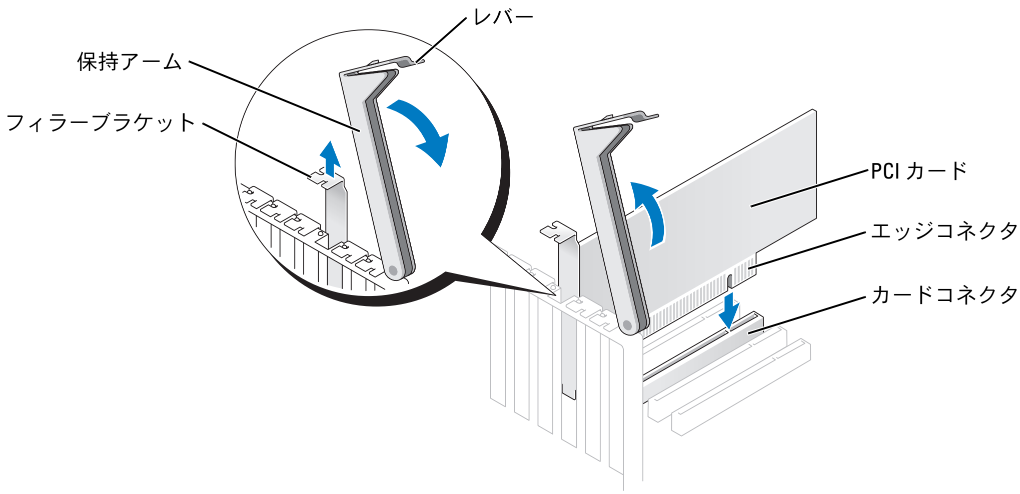
9 取り外したカード用のドライバをアンインストールします。

PCI カードおよび PCI Express カードの取り付け

注意：オプションのデュアルグラフィック構成にアップグレード済みまたはアップグレード予定の場合は、「デュアル構成に PCI Express グラフィックカードを取り付ける」（94 ページ）を参照してグラフィックカードを取り付けてください。

1 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従ってください。

2 カード保持アームのレバーを押して、保持アームを持ち上げます。



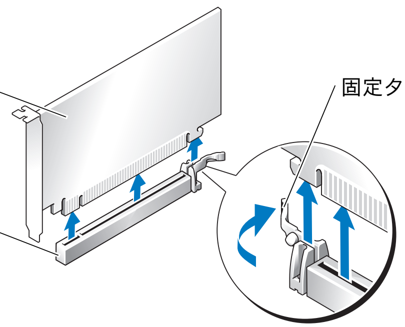
3 新しいカードを取り付ける場合は、フィラーブラケットを取り外して、カードスロット開口部を作ります。

4 取り付けるカードを準備します。

カードの構成、内部接続、またはお使いのコンピュータに合わせてカスタマイズする方法については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

警告：ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電を防ぐため、カードを取り付ける前に必ず、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

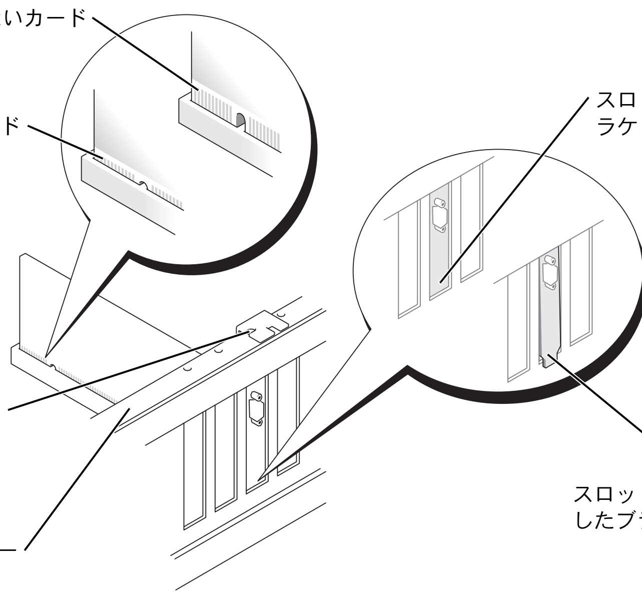
5 カードの位置が、スロットと揃い、固定タブがある場合は固定スロットと揃うようにします。



注意：必ず固定タブを外して、カードを固定してください。カードを正しく取り付けないと、システム基板が損傷することがあります。

6 固定タブがある場合は固定タブをゆっくりと引き、カードをコネクタに差し込みます。しっかりと押し込んで、カードがスロットに完全に装着されていることを確認します。

カードがフルレングスの場合には、カードの端をカードガイドブラケットに差し込み、システム基板のカード用コネクタに向ってカードを押し下げます。カードをシステム基板上のカードコネクタにしっかりと挿入します。



7 保持アームを下ろす前に、次のことを確認します。

- すべてのカードとフィラーブラケットの上端が、位置合わせバーと揃っている。
- カードまたはフィラーブラケット上端の切り込みが、位置合わせガイドとかみ合っている。

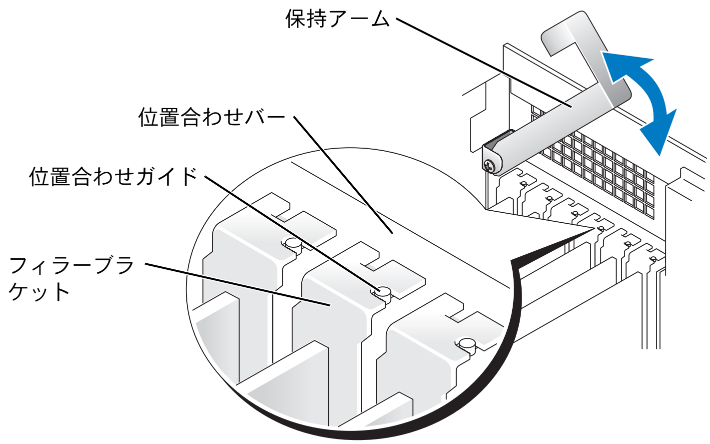
注意：カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。カードの上を通してケーブルを配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなかったり、装置が損傷する原因になります。

8 保持アームを所定の位置に押し込み、カードをコンピュータに固定します。

9 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

カードのケーブル接続については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

注意：ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークポートまたはデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。



10 コンピュータカバーを取り付け、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

11 サウンドカードまたはネットワークアダプタを取り付けた場合は、「ネットワークアダプタおよびサウンドカードの設定」（103 ページ）を参照してください。

12 カードのマニュアルの説明に従って、カードに必要なすべてのドライバをインストールします。

ネットワークアダプタおよびサウンドカードの設定

サウンドカードを取り付けた場合は、次の手順を実行します。

1 セットアップユーティリティ を起動し、**Integrated Audio Controller**（内蔵オーディオコントローラ）を選んで、設定を **Off** に変更します。

2 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスは、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタには接続しないでください。

サウンドカードを取り外した場合は、次の手順を実行します。

1. セットアップユーティリティ を起動し、**Integrated Audio Controller**（内蔵オーディオコントローラ）を選んで、設定を **On** に変更します。
2. 外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのオーディオコネクタに接続します。

アドインネットワークアダプタを取り付けたため、内蔵ネットワークアダプタを無効にする場合は、次の手順を実行します。

1. セットアップ ユーティリティ を起動し、**Integrated NIC Controller**（内蔵 NIC コントローラ）を選んで、設定を **Off** に変更します。
2. ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルは、背面パネルの内蔵コネクタには接続しないでください。

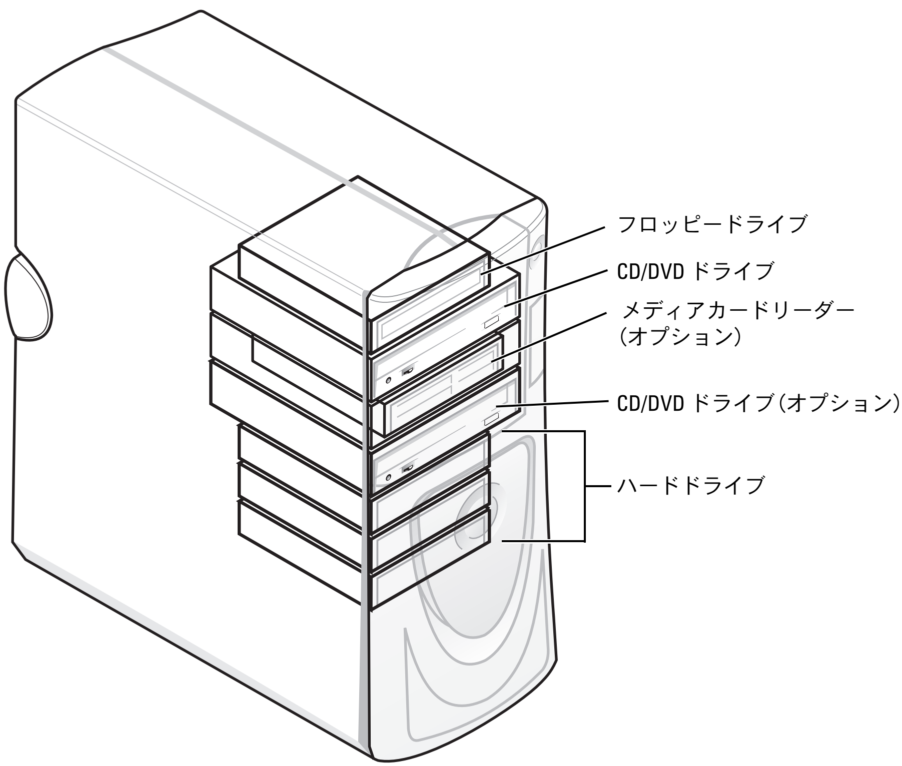
アドインネットワークコネクタを取り外した場合は、次の手順を実行します。

1. セットアップユーティリティ を起動し、**Integrated NIC Controller**（内蔵 NIC コントローラ）を選んで、設定を **On** に変更します。
2. ネットワークケーブルをコンピュータ背面パネルの内蔵コネクタに接続します。

ドライブ

このコンピュータでは、次のデバイスの組み合わせをサポートしています。:

- 最大 3 台のハードドライブ
- オプションのフロッピードライブ
- 最大 2 台の CD または DVD ドライブ
- オプションのメディアカードリーダー



一般的な取り付けガイドライン

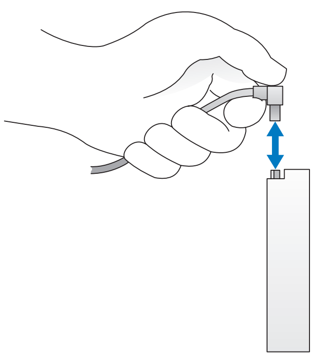
シリアル ATA ハードドライブをシステム基板上の SATA0 - SATA3 コネクタに接続します。CD/DVD ドライブを IDE コネクタに接続します。

1 本の IDE インタフェースケーブルに 2 台の IDE デバイスを接続し、それらを「cable select」に設定する場合、インタフェースケーブルの最後のコネクタに接続されたデバイスがプライマリデバイスまたはブートデバイス（ドライブ 0）、インタフェースケーブルの中央のコネクタに接続されたデバイスがセカンダリデバイス（ドライブ 1）となります。デバイスの「cable select」設定の詳細については、アップグレードキットに含まれているドライブのマニュアルを参照してください。

ドライブケーブルの接続

ドライブを取り付ける場合は、2 本のケーブル（DC 電源ケーブルとデータケーブル）をドライブの背面およびシステム基板に接続します。一部のドライブはオーディオコネクタも備えています。オーディオコネクタの一方の端をドライブコネクタに接続し、もう一方の端をシステム基板に接続します。

ドライブインタフェースコネクタ



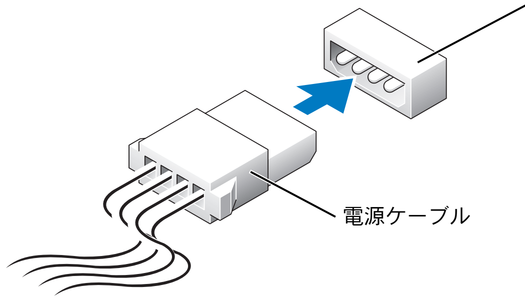
ほとんどのインタフェースコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタに切り込みや欠けたピンがあり、もう一方のコネクタにあるつめや塞がれたピン穴と一致するようになっています。

IDE ケーブルを接続する場合は、色帯を 1 番ピンのコネクタに合わせます。IDE ケーブルを取り外す場合は、色付きのプルタブをつかみ、引き抜いてコネクタから外します。

シリアル ATA ケーブルの抜き差しを行う場合は、ケーブルの両端にあるコネクタ部分を持ちます。

メモ：システム基板のシリアル ATA コネクタにはカバーが付いている場合があります。

電源ケーブルコネクタ



ハードドライブ

⚠ **警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。**

注意：ドライブの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

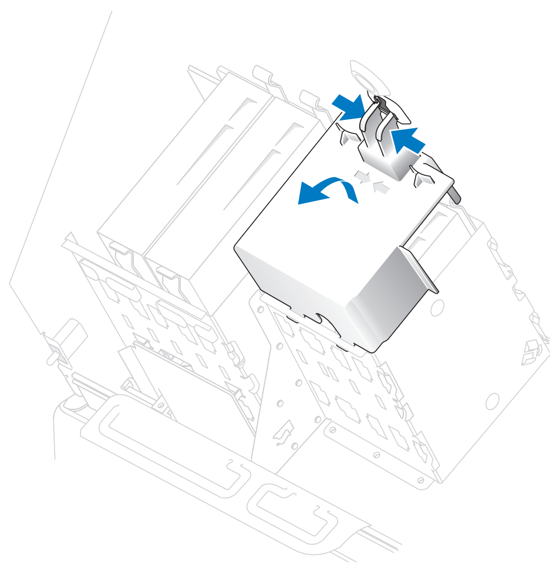
1 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合は、ハードドライブを取り外す前にファイルのバックアップを取ります。

2 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従ってください。

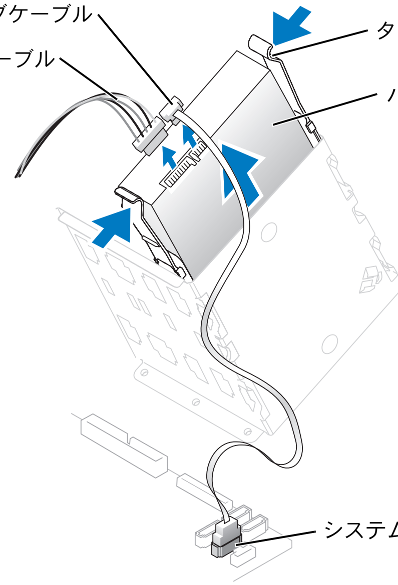
ハードドライブの取り外し

1 カバー上部のタブを内側に押し、カバーを後方に傾けます。

2 カバーを持ち上げてハードドライブから外します。



3 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブとシステム基板から取り外します。



4 ドライブの側面にあるタブを内側に押し、ドライブを上方向にスライドさせて取り外します。

ハードドライブの取り付け

1 新しいハードドライブを梱包から取り出し、取り付けの準備をします。

2 ドライブのマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っていることを確認します。

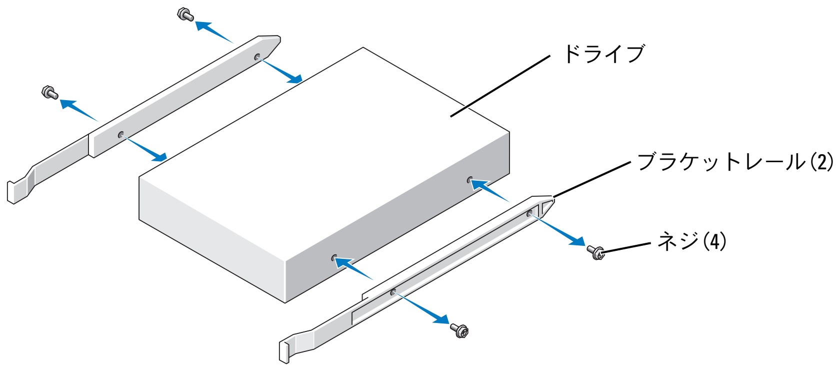
3 2 台目のハードドライブを追加する場合は、ブラケットレールを慎重に持ち上げてハードドライブベイから取り外します。

4 ドライブを交換する際に、新しいドライブにブラケットレールが付いていない場合は、これまで使用していたドライブからレールを取り外します。レールはドライブの両側にそれぞれ 2 本のネジで固定されています。

5 ブラケットレールを新しいドライブに取り付けます。新しいドライブのネジ穴にブラケットレールのネジ穴を合わせ、4 本のネジ（各レールに 2 本）すべてを差し込んで、しっかりと締めます。

6 レールのタブがハードドライブの背面になるようにします。

注意：下段のハードドライブベイにドライブを取り付ける前に、ハードドライブベイの内側から緑色のドライブレールを取り外してください。



7 2 台目の IDE ハードドライブを増設する場合は、1 台目のハードドライブを上段のベイから取り外して、下段のベイに取り付けます。

a 1 台目のハードドライブの背面から、電源ケーブルとハードドライブケーブルを取り外します。

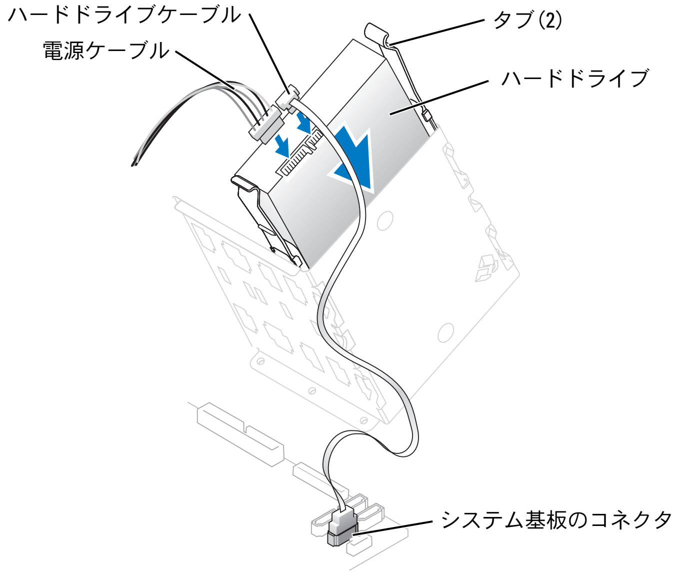
b 2 個のレールタブを両側から押しながら、1 台目のハードドライブを上段のベイから引き出します。

c 1 台目のハードドライブを、カチッと所定の位置に収まるまで静かにスライドさせて下段のベイに取り付けます。

d 1 台目のハードドライブの背面に、電源ケーブルとハードドライブケーブルを再び取り付けます。

8 タブがカチッと所定の位置に収まるまでハードドライブをスライドさせ、しっかりとコンピュータに取り付けます。

メモ：下段のベイにハードドライブを取り付ける場合は、電源コネクタが左側（上段のハードドライブと逆側）に来るようにドライブをベイに取り付けます。



9 電源ケーブルをドライブに接続します。

10 ハードドライブケーブルをドライブとシステム基板に接続します（「システム基板のコンポーネント」（86 ページ）を参照）。

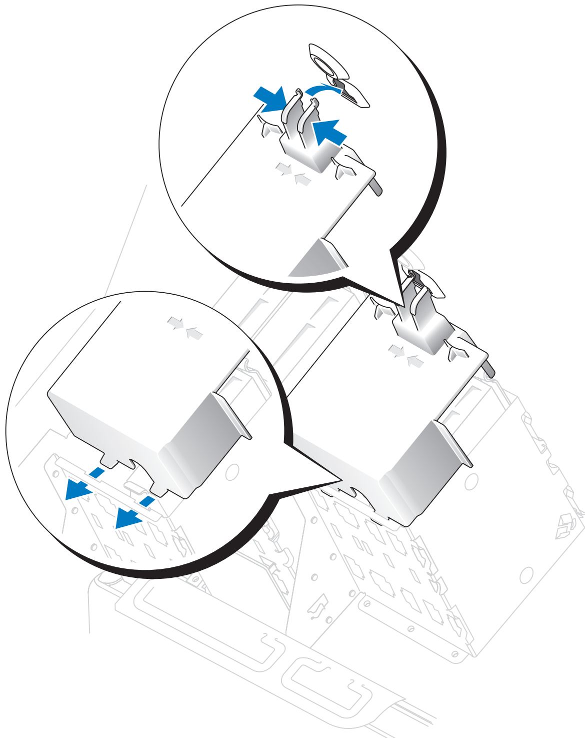
11 すべてのコネクタにケーブルが正しく接続され、ドライブがしっかりと固定されていることを確認します。

注意：ハードドライブカバーを取り付けるときは、すべてのケーブルが正しく配線されていることを確認します。

12 カバー底部のタブをドライブケージのスロットに合わせてから、カバーを被せます。

13 カバー上部のタブを内側に押し、シャーシ上の対応するスロットに挿入します。

14 カバーを軽く押し、カバーがしっかりと取り付けられていることを確認します。



15 コンピュータカバーを閉じます(「コンピュータカバーを閉じる」(137 ページ)を参照)。

注意：ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークポートまたはデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

16 コンピュータおよびデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

17 取り付けたドライブがプライマリドライブの場合、起動フロッピーディスクをドライブ A に挿入します。

18 コンピュータの電源を入れます。

19 セットアップユーティリティを起動し(「セットアップユーティリティの起動」(144 ページ)を参照)、該当する **Drive**(ドライブ)オプションを更新します。

20 セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。

21 次の手順に進む前に、ドライブにパーティションを作成して、論理フォーマットを実行します。

手順については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

22 Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、ハードドライブをテストします（「Dell Diagnostics（診断）プログラム」（63 ページ）を参照）。

23 取り付けたドライブがプライマリドライブの場合は、そのハードドライブにオペレーティングシステムをインストールします。

フロッピードライブ

⚠ **警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。**

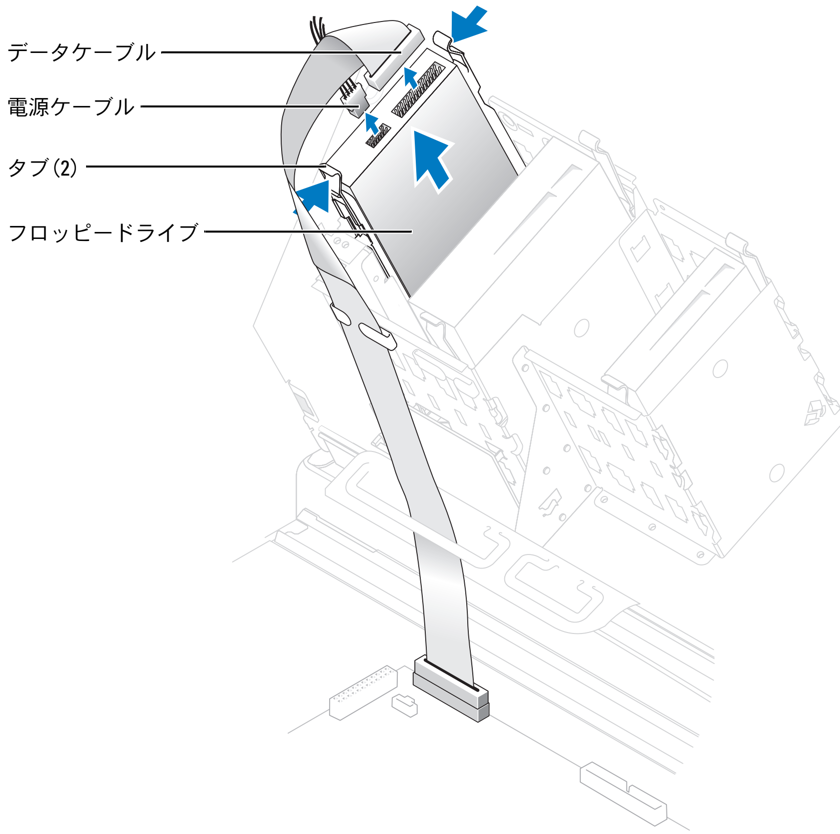
⚠ **警告：感電防止のため、カバーを開く前に必ず、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。**

フロッピードライブの取り外し

1 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従ってください。

2 フロッピードライブの背面から、電源ケーブルとデータケーブルを取り外します。

3 データケーブルのもう一方の端をシステム基板から取り外します。

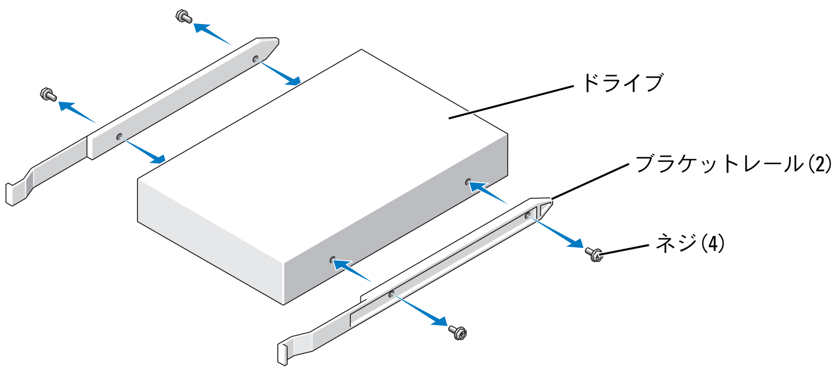


4 ドライブの側面にある 2 個のタブを内側に押しながらドライブを上方向にスライドさせて、フロッピードライブベイから取り外します。

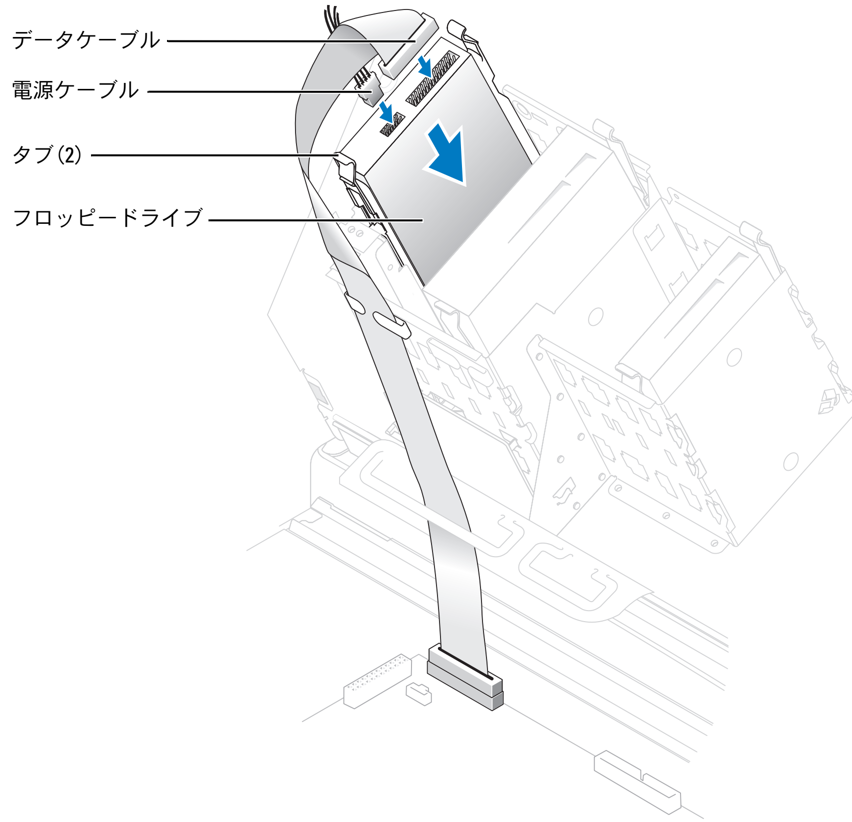
フロッピードライブの取り付け

1 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従ってください。

2 ドライブを交換する場合に、新しいドライブにブラケットレールが付いていない場合は、これまで使用していたドライブからレールを取り外します。レールはドライブの両側にそれぞれ 2 本のネジで固定されています。ブラケットレールを新しいドライブに取り付けます。新しいドライブのネジ穴にブラケットレールのネジ穴を合わせ、4 本のネジ（各レールに 2 本）すべてを差し込んで、しっかりと締めます。



3 タブがカチッと所定の位置に収まるまで静かにドライブをスライドさせて取り付けます。



4 電源ケーブルとデータケーブルをフロッピードライブに接続します。

5 システム基板上の DSKT コネクタに、フロッピードライブケーブルのもう一方の端を接続します（「システム基板のコンポーネント」（86 ページ）を参照）。

6 すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通気孔の妨げにならないようにケーブルをまとめておきます。

7 コンピュータカバーを閉じます（「コンピュータカバーを閉じる」（137 ページ）を参照）。

注意：ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークポートまたはデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

8 コンピュータおよびデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

9 セットアップユーティリティを起動し（「セットアップユーティリティ」（143 ページ）を参照）、該当する **Diskette Drive**（ディスケットドライブ）オプションを更新します。

10 Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作することを確認します（「Dell Diagnostics（診断）プログラム」（63 ページ）を参照）。

メディアカードリーダー

メディアカードリーダーの使用法については、「メディアカードリーダーの使用（オプション）」（17 ページ）を参照してください。

メディアカードリーダーの取り外し

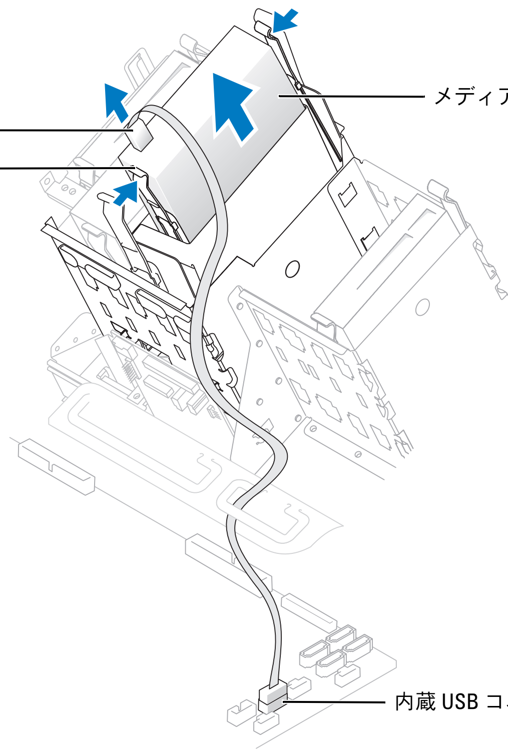
警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。

注意：コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を逃がすことができます。

1 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従ってください。

2 コンピュータ内でシステム基板が下になるように、コンピュータを横に倒します。

3 コンピュータカバーを開きます（「コンピュータカバーを開く」（84 ページ）を参照）。



*機種によってはない場合があります。

4 システム基板の内蔵 USB コネクタから、メディアカードリーダーの背面にある USB ケーブルを抜きます。

5 メディアカードリーダーの側面にあるタブを内側に押しながらカードリーダーをスライドさせて、アダプタから取り外します。

6 コンピュータカバーを閉じます（「コンピュータカバーを閉じる」（137 ページ）を参照）。

メディアカードリーダーの取り付け

警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。

注意：コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を逃がすことができます。

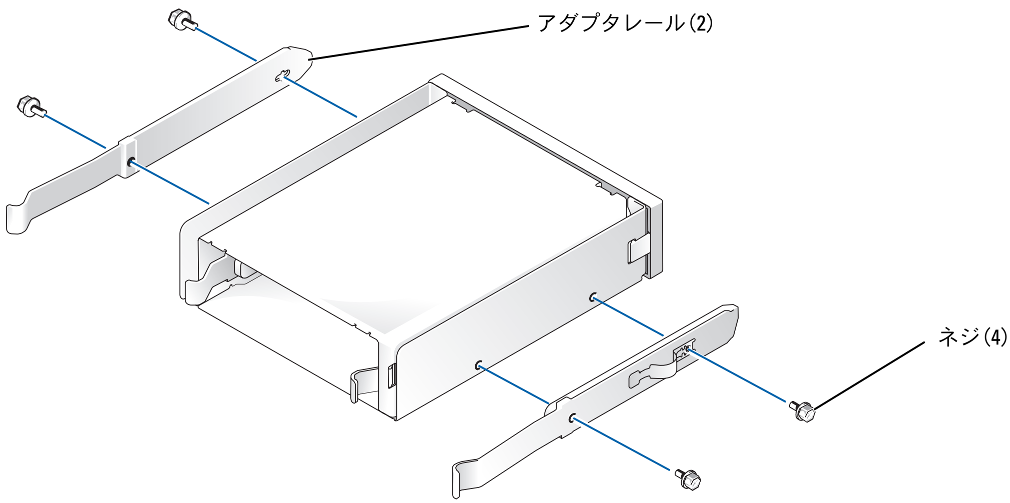
1 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従ってください。

2 コンピュータ内でシステム基板が下になるように、コンピュータを横に倒します。

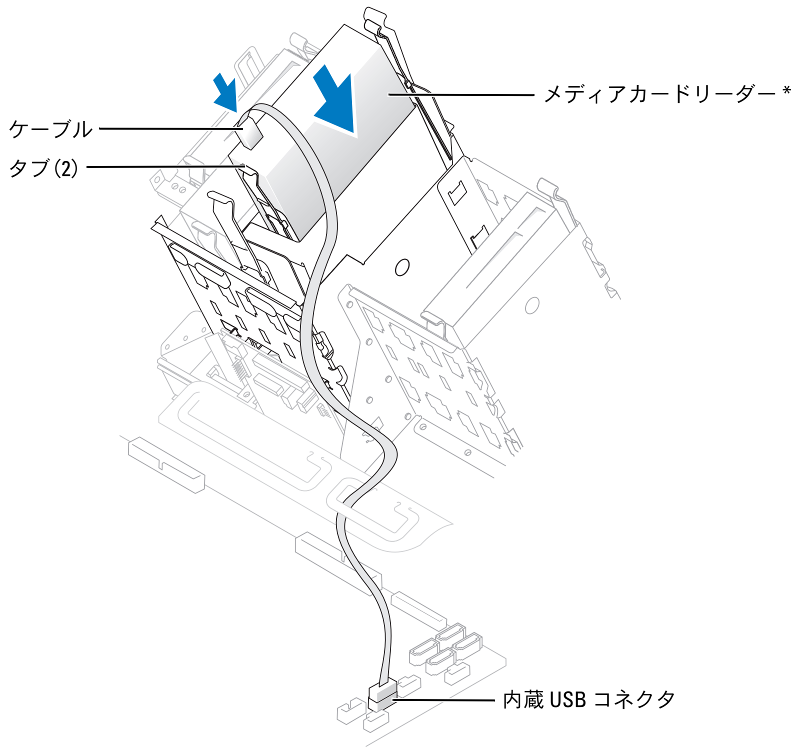
3 コンピュータカバーを開きます（「コンピュータカバーを開く」（84 ページ）を参照）。

4 パッケージからメディアカードリーダーとブラケットを取り出します。

5 アダプタレールを新しいドライブに取り付けます。アダプタのネジ穴にレールのネジ穴を合わせ、4 本のネジ（各レールに 2 本）すべてを差し込んで、しっかりと締めます。



6 レールのタブがカチッと所定の位置に収まるまでアダプタをスライドさせて、5.25 インチドライブベイにしっかりと取り付けます。



*機種によってはない場合があります。

7 レールのタブがカチッと所定の位置に収まるまでメディアカードリーダーをスライドさせて、アダプタにしっかりと取り付けます。

8 内蔵 USB ケーブルをメディアカードリーダーに接続します。

9 ケーブルルーティングクリップで USB ケーブルを配線します。

10 内蔵 USB ケーブルを、システム基板上の内蔵 USB コネクタに接続します。

11 コンピュータカバーを閉じます(「コンピュータカバーを閉じる」(137 ページ)を参照)。

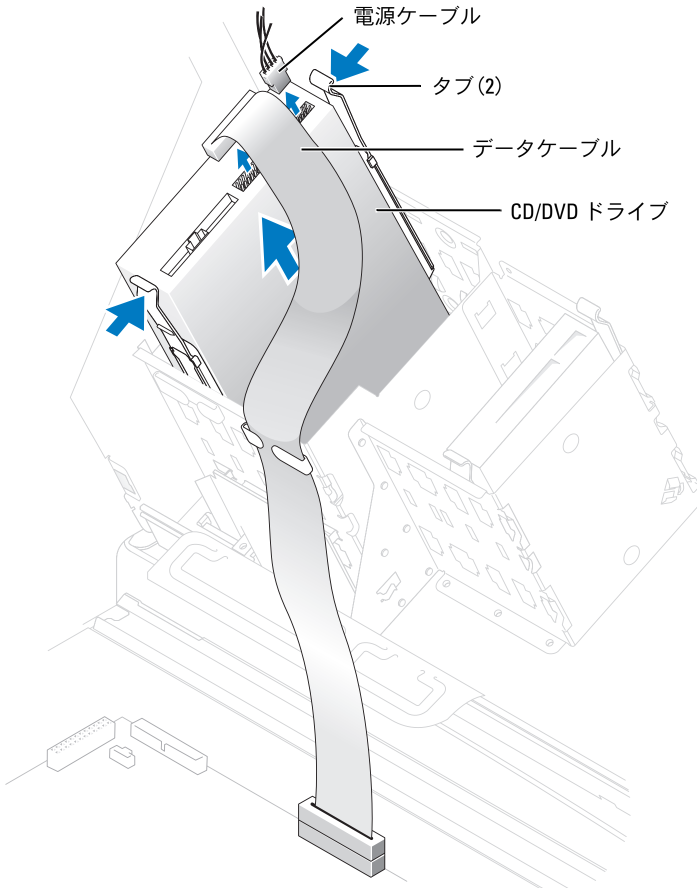
CD/DVD ドライブ

⚠ **警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。**

⚠ **警告：感電防止のため、カバーを開く前に必ず、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。**

CD/DVD ドライブの取り外し

1. 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従ってください。
2. ドライブの背面から、電源ケーブルとデータケーブルを取り外します。



3. ドライブの側面にある 2 個のタブを内側に押し、ドライブを上方向にスライドさせて、ドライブベイから取り外します。

CD/DVD ドライブの取り付け

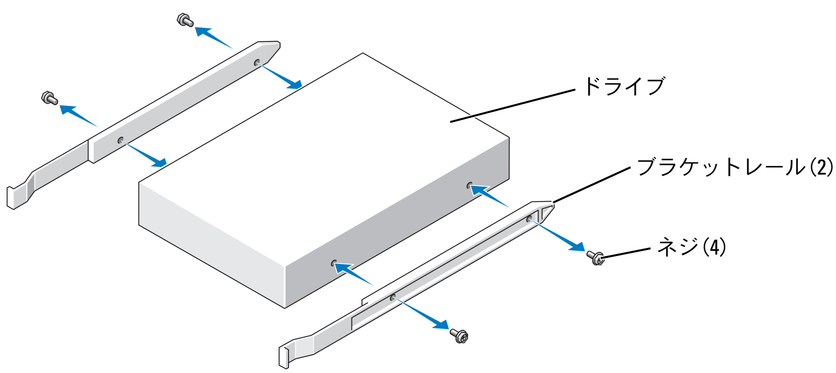
1 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従ってください。

2 新しいドライブを取り付ける場合は、ドライブを箱から取り出して取り付けの準備をします。

ドライブに付属のマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っていることを確認します。IDE ドライブを取り付ける場合は、ドライブを「cable select」に設定します。

3 新しいドライブを、カバー内側に固定されているレールに取り付けます。コンピュータカバーの内側にレールが取り付けられていない場合は、デルにお問い合わせください（「デルの連絡先」（153 ページ）を参照）。

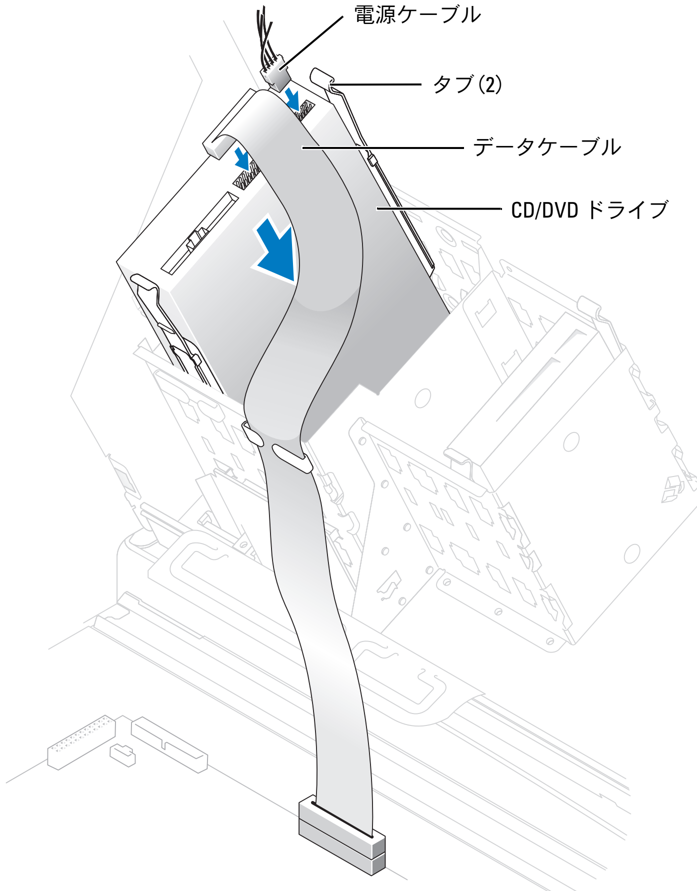
4 ドライブを交換する際に、新しいドライブにブラケットレールが付いていない場合、これまで使用していたドライブからレールを取り外します。レールはドライブの両側にそれぞれ 2 本のネジで固定されています。ブラケットレールを新しいドライブに取り付けます。新しいドライブのネジ穴にブラケットレールのネジ穴を合わせ、4 本のネジ（各レールに 2 本）すべてを差し込んで、しっかりと締めます。



5 タブがカチッと所定の位置に収まるまで静かにドライブをスライドさせて取り付けます。

6 電源ケーブルとデータケーブルをドライブに接続します。

オーディオケーブルが付属しているドライブを追加する場合は、オーディオケーブルをシステム基板上のオーディオコネクタに接続します。



7 すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないようにケーブルをまとめておきます。

8 コンピュータカバーを閉じます(「コンピュータカバーを閉じる」(137 ページ)を参照)。

注意：ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークポートまたはデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

9 コンピュータおよびデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

10 セットアップユーティリティを起動し（「セットアップユーティリティの起動」（144 ページ）を参照)、該当する **Drive**（ドライブ）オプションを選択します。

11 Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作することを確認します（「Dell Diagnostics（診断）プログラム」（63 ページ）を参照)。

プロセッサエアフローカバー

警告：『製品情報ガイド』に記載されている「安全にお使いいただくために」の注意事項に従い、この項の作業を始めてください。

警告：コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を逃がすことができます。

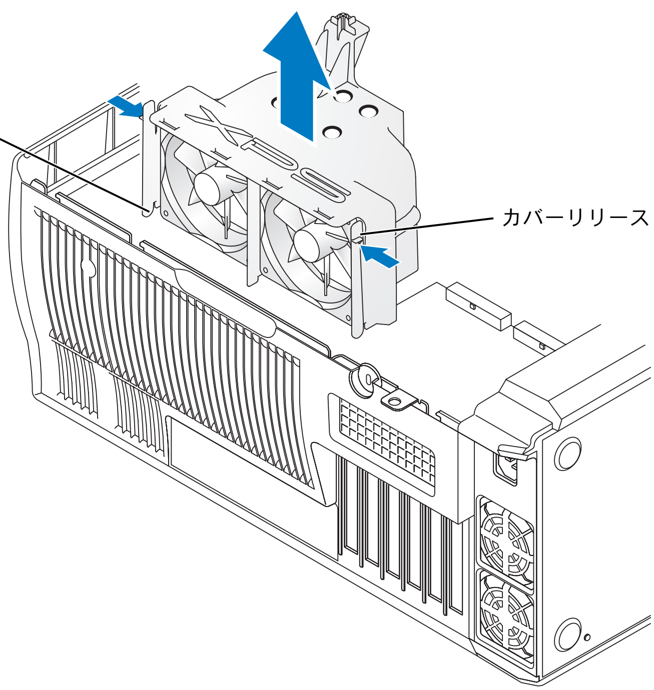
注意：電源ケーブルの損傷を防ぐため、カバーはゆっくりとスライドさせてください。

プロセッサエアフローカバーの取り外し

1 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従ってください。

2 2 つのカバーリリースレバーを押しながらカバーを引き上げ、アンカーを外します。

3 カバーがアンカーから外れたら、ファンケーブルコネクタのリリースタブを押しながらファンケーブルコネクタを引き上げて、ファンケーブルをシステム基板上のコネクタから取り外します。



プロセッサエアフローカバーの取り付け

1 両方のファン電源ケーブルをシステム基板上のコネクタに接続します。
2 アンカータブを固定スロットに合わせます。
3 アンカータブがカチッと所定の位置に収まるまで静かにカバーを押します。
4 コンピュータカバーを閉じます。

注意：ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークポートまたはデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

5 コンピュータおよびデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

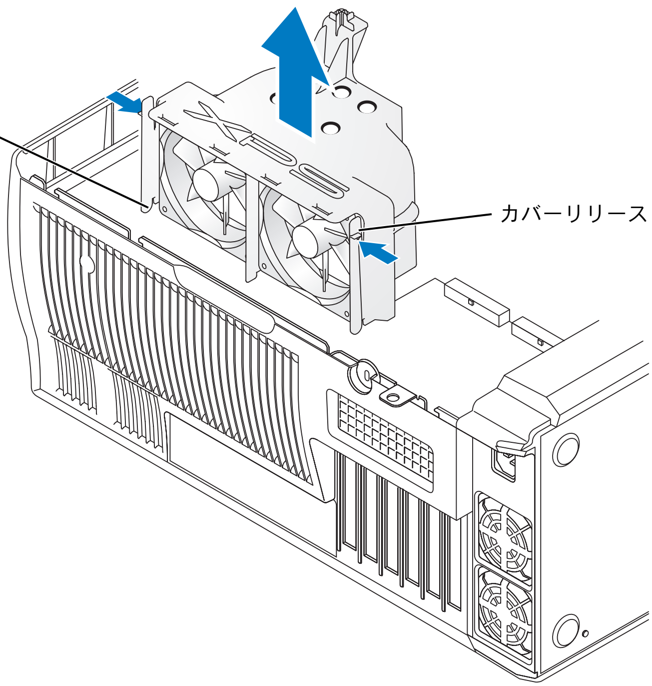
プロセッサ

注意：ハードウェアの取り外しと交換に慣れている方以外は、次の手順を実行しないことをお勧めします。これらの手順を誤って実行すると、システム基板に損傷を与えるおそれがあります。テクニカルサービスについては、「デルの連絡先」（153 ページ）を参照してください。

警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。

プロセッサの取り外し

1 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従ってください。
2 システム基板上の FANREAR および FANCPU コネクタ（「システム基板のコンポーネント」（86 ページ）を参照）から 2 本の冷却ファン電源ケーブルを取り外します。
3 システム基板上の POWER12V コネクタ（「システム基板のコンポーネント」（86 ページ）を参照してください）から電源ケーブルを取り外します。
4 エアフローカバーを取り外します。



警告：通常の操作中に、ヒートシンクは非常に高温になります。ヒートシンクに触れる前には十分に時間をかけ、ヒートシンクの温度が下がっていることを確認してください。

5 ヒートシンクを取り外します。

注意：ヒートシンクを取り外したら、底部のサーマルインタフェースが破損しないように、ヒートシンクは側面を下にして置きます。

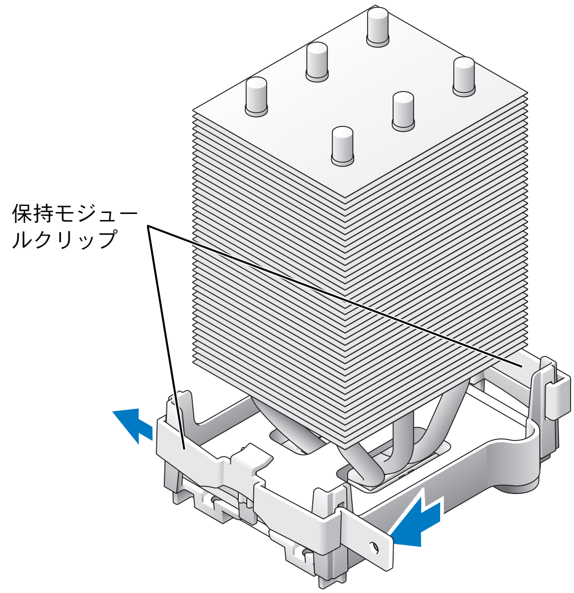
a 電源装置の反対側にある保持基盤の側面から保持モジュールクリップを取り外します。クリップの上のタブを保持基盤からまっすぐに引いて外します。

b 保持基盤上の電源装置の反対側にある保持タブの位置を確認します。次にヒートシンクが少し持ち上がるまで、タブを押してヒートシンクから外します。

c ヒートシンクを背面方向に回転させ、次にもう 1 つの保持タブの下から前方へずらし、保持基盤から持ち上げて取り外します。

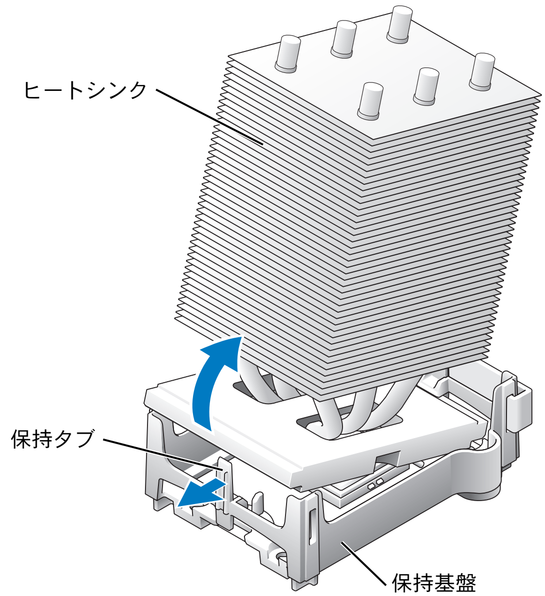
d 必要に応じて、もう 1 つの保持モジュールクリップを取り外します。

メモ：プロセッサを取り外す場合は、もう 1 つの保持モジュールクリップを取り外す必要はありません。

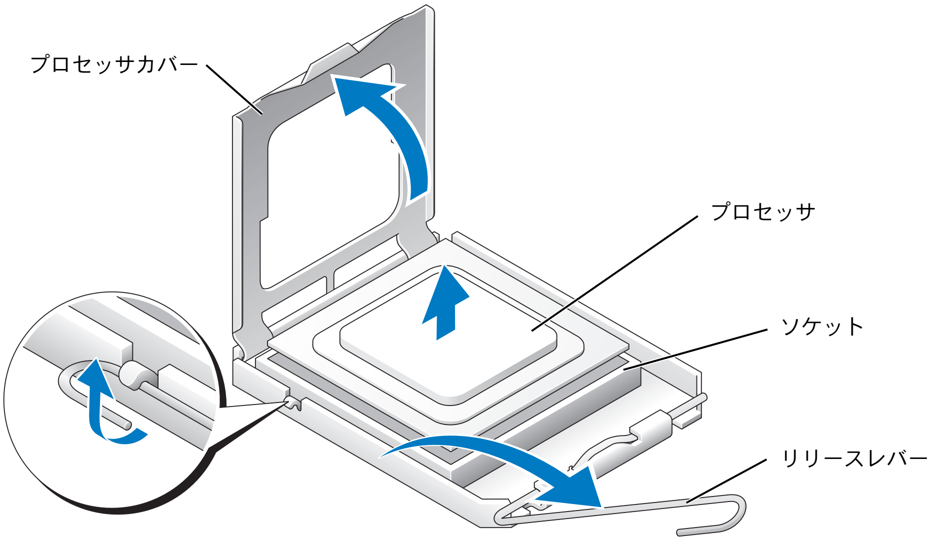


注意：デル製のプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、元のヒートシンクは廃棄してください。デル製以外のプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、新しいプロセッサを取り付ける際は、元のヒートシンクと送風装置を再利用してください。

6 ソケットリリースレバーを押し下げながら外します。



7 プロセッサカバーを開きます。



8 プロセッサをソケットから取り外します。

ソケットにすぐに新しいプロセッサを取り付けられるように、リリースレバーを外したままにしておきます。

プロセッサの取り付け

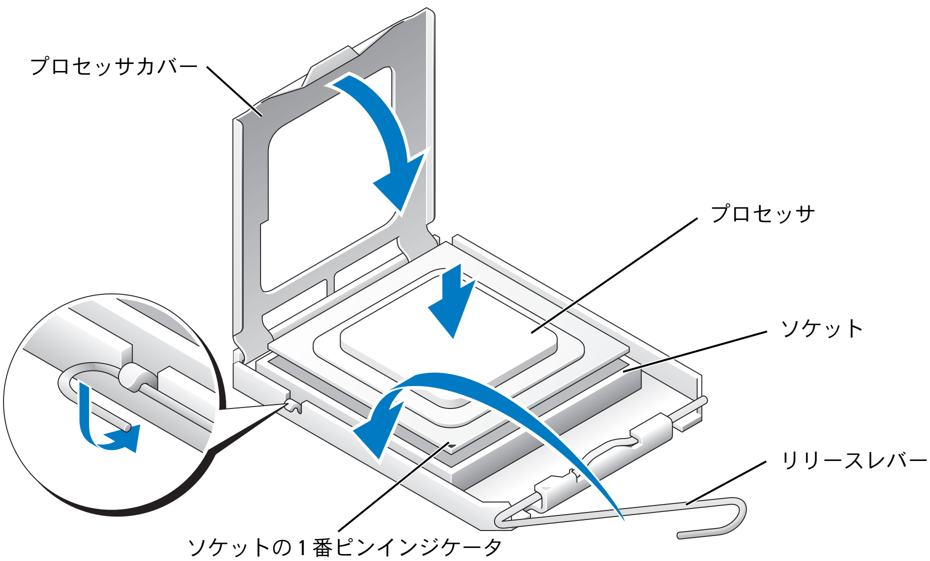
注意：コンピュータ背面の塗装されていない金属面に触れて、身体から静電気を逃がしてください。

1 新しいプロセッサをパッケージから取り出します。

注意：コンピュータの電源を入れる際にプロセッサとコンピュータに修復できない損傷を与えることを避けるため、プロセッサをソケットに正しく装着してください。

2 ソケット上のリリースレバーが完全に開いていない場合は、その位置まで動かします。

3　プロセッサとソケットの 1 番ピンの角を合わせます。



注意：ソケットピンは損傷しやすいものです。損傷を防ぐため、プロセッサをソケットに正しく合わせ、またプロセッサの取り付け時に力を入れすぎないようにします。システム基板上のピンに触れたり、ピンを曲げたりしないよう注意してください。

4　プロセッサをソケット上に静かにセットし、プロセッサがソケット上で水平であることを確認します。プロセッサが所定の位置に設定されていれば、軽く押すだけで自然とソケットに収まります。

5　プロセッサがソケットに完全に収まったら、プロセッサカバーを閉めます。

6　ソケットリリースレバーを回転させながらソケットの元の位置にはめ込み、プロセッサを固定します。

7　必要に応じて、プロセッサファンに最も近い側面に保持モジュールクリップを取り付けなおします。

注意：デル製以外のプロセッサアップグレードキットを取り付ける場合、プロセッサを交換する際は、元のヒートシンクアセンブリを再利用してください。

デルのプロセッサ交換キットを取り付けた場合、元のヒートシンクアセンブリとプロセッサを交換キットが送られてきたパッケージを使用して、デルに返却してください。

8　ヒートシンクを取り付けます。

a　ヒートシンクの一方の端をスライドさせながら保持タブと取り付けた保持モジュールクリップの下にはめ込みます。

b　もう一方の保持タブを引き出し、保持基盤にしっかりと収まるまでヒートシンクを下げます。

注意：ヒートシンクがしっかりと固定されたことを確認します。

9 もう 1 つの保持モジュールクリップを再び取り付けます。

10 エアフローカバーをヒートシンクに被せます。

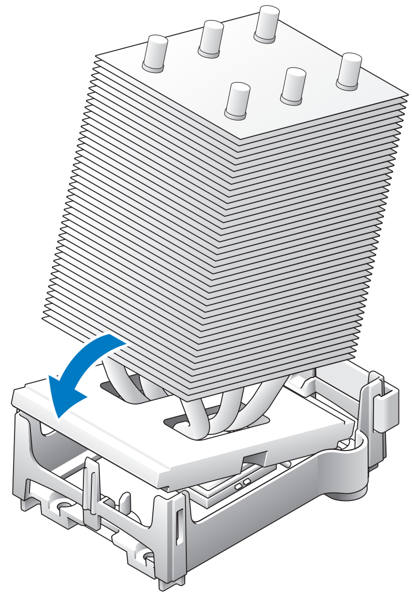
11 システム基板上の CPU FAN1 および CPU FAN2 コネクタ（「システム基板のコンポーネント」（86 ページ）を参照）に 2 本の冷却ファン電源ケーブルを再び取り付けます。

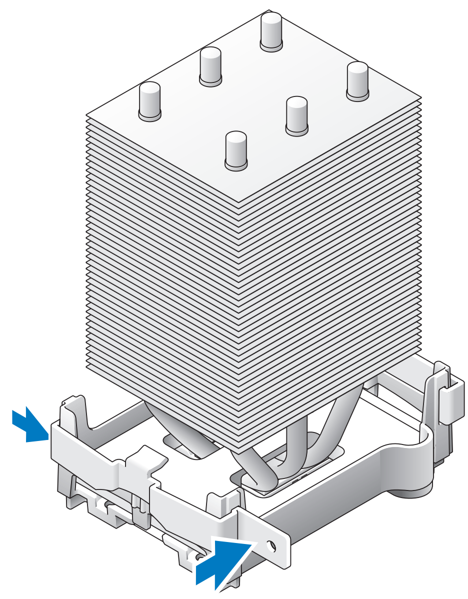
12 システム基板上の POWER12V コネクタ（「システム基板のコンポーネント」（86 ページ）を参照）に電源ケーブルを再び取り付けます。

13 コンピュータカバーを閉じます（「コンピュータカバーを閉じる」（137 ページ）を参照）。

注意：ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークポートまたはデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

14 コンピュータおよびデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。





正面パネル

⚠ **警告：コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を逃がすことができます。**

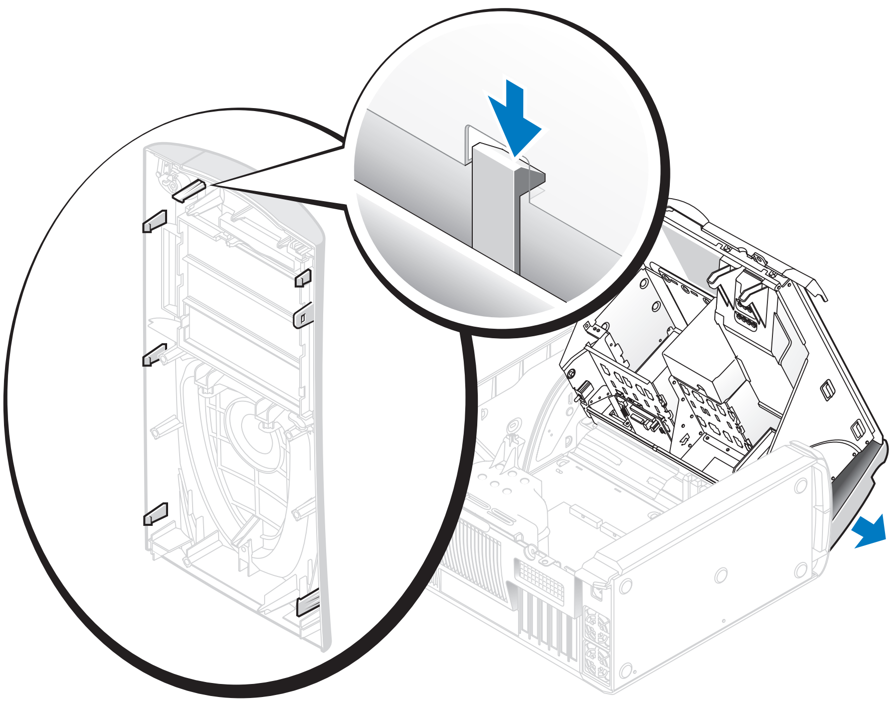
⚠ **警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。**

正面パネルの取り外し

1 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従ってください。

2 すべてのディスクドライブを取り外します（「ドライブ」（105 ページ）を参照）。

3 7 個の正面パネルリリースタブをそれぞれ押して、正面パネルを取り外します。



4 コンピュータカバーを半分まで閉じた状態で、正面パネルを引っ張ってコンピュータから取り外します。

正面パネルの取り付け

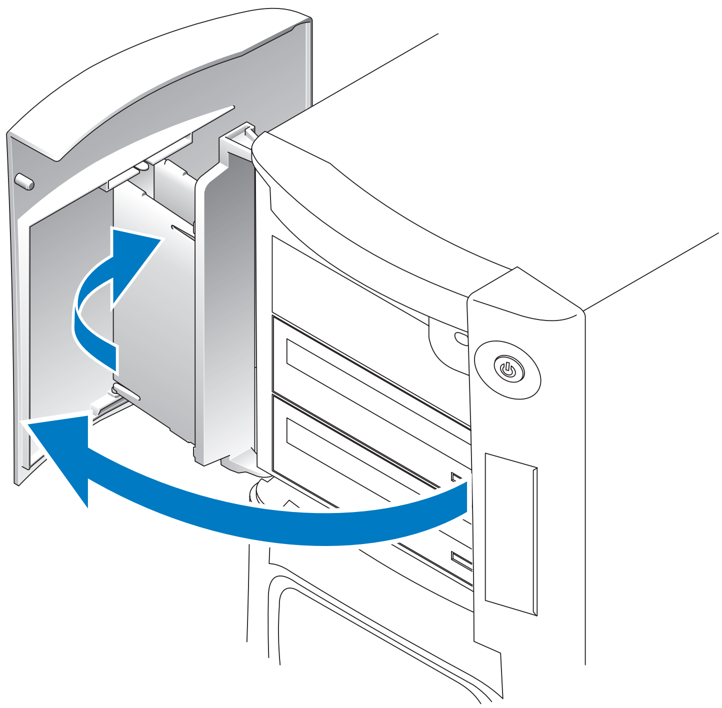
正面パネルを取り付けるには、取り外し手順 を逆の順序で実行します。

ドライブドア

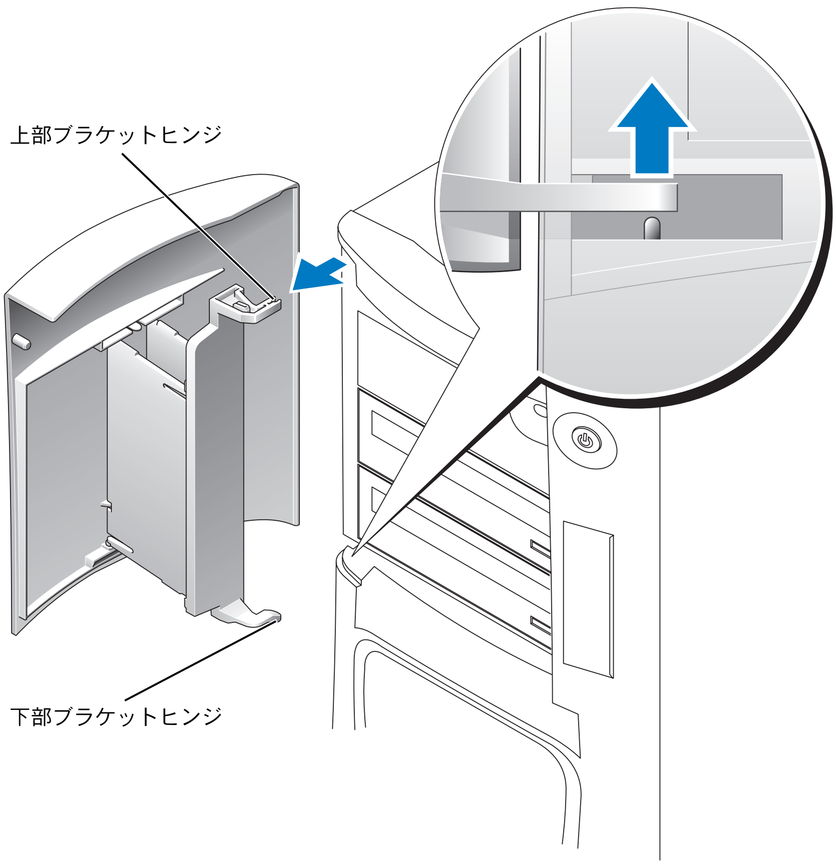
⚠ **警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。**

ドライブドアの取り外し

1 ドライブドアを開きます。



2 上部ブラケットヒンジを外し、ドライブドア上部を外側に引っ張ってコンピュータから外します。



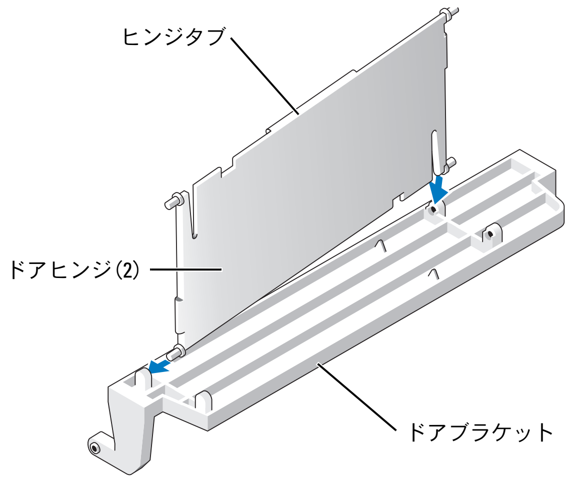
3 下部ブラケットヒンジを持ち上げてコンピュータから外します。

ドライブドアの取り付け

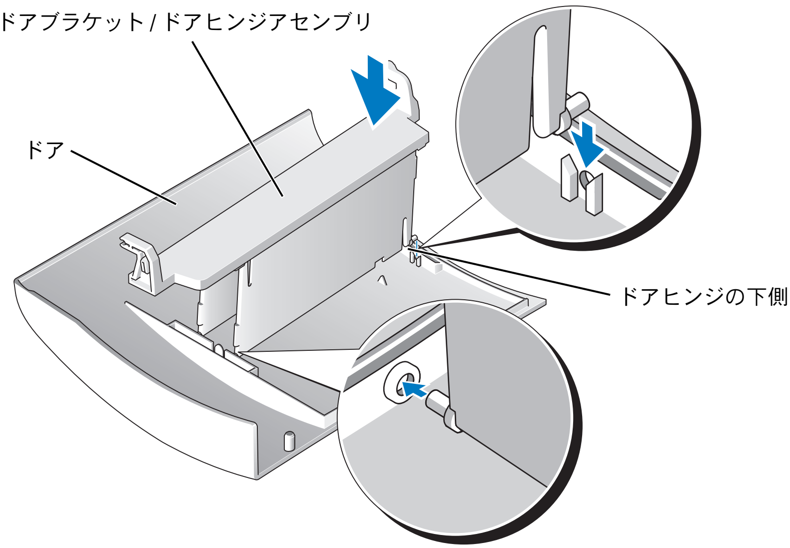
コンピュータの損傷を防ぐため、ドライブドアは開きすぎるとコンピュータから外れるように設計されています。ドライブドアがばらばらにならずに外れた場合は、取り外し手順を逆の順序で実行します。

ドライブドアが開いている状態からさらに開きすぎた場合、コンピュータからそのままの形で外れる代わりに、いくつかの小さい部品に分解されることがあります。ドライブドアが分解された場合は、次の手順を実行します。

1 必要に応じて、ドアヒンジをドアブラケットにはめ込みます。ヒンジタブがドアブラケットと逆側になるようにします。



2 ドアブラケット / ドアヒンジアセンブリを、各ドアヒンジの下側から先にはめ込んで、ドアに取り付けます。



3 ドライブドアを、下側のブラケットヒンジから先にはめ込んで、コンピュータに取り付けます。

バッテリー

警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。

注意：コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を逃がしてください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を逃がすことができます。

バッテリーの交換

コイン型バッテリーは、コンピュータの設定、日付、時刻の情報を保持します。バッテリーの寿命は数年です。

コンピュータの電源を入れた後、繰り返し時刻と日付の情報をリセットする必要がある場合は、バッテリーを交換します。

警告：新しいバッテリーは、正しく装着しないと破裂するおそれがあります。バッテリーは、必ず同一または同等の、製造元が推奨するタイプのものと交換してください。使用済みのバッテリーは、メーカーの指示に従って廃棄してください。

バッテリーを交換するには、次の手順を実行します。

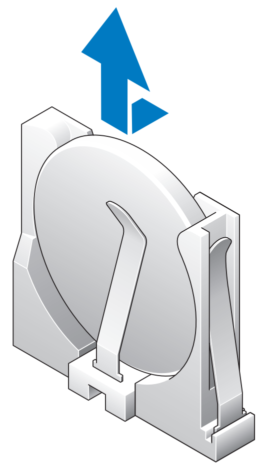
1 手順 8 で正しい設定に戻すことができるように、セットアップユーティリティ画面をすべて記録します（「セットアップユーティリティ」（143 ページ）を参照）。

2 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従います。

3 バッテリーソケットの位置を確認します（「システム基板のコンポーネント」（86 ページ）を参照）。

注意：先のとがっていない道具でバッテリーをソケットから取り出す場合は、その道具でシステム基板を触らないように注意してください。バッテリーを取り出す前に、道具がバッテリーとソケットの間に挿入されていることを確認してください。確認しないと、ソケットをこじ開けたり、システム基板の回路トレースを壊したりして、システム基板を損傷するおそれがあります。

4 指を使ってバッテリーをソケットから取り外します。



5 バッテリー（CR2032）の「+」側を金属製のクリップとは反対の側に向けてソケットに挿入し、新しいバッテリーを所定の位置にはめ込みます。

6 コンピュータカバーを閉じます。

注意：ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークポートまたはデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

7 コンピュータおよびデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

8 セットアップユーティリティを起動（「セットアップユーティリティ」（143 ページ）を参照）して、手順 1 で記録した設定に戻します。

9 古いバッテリーは適切に廃棄します。バッテリーの廃棄に関しては、『製品情報ガイド』を参照してください。

コンピュータカバーを閉じる

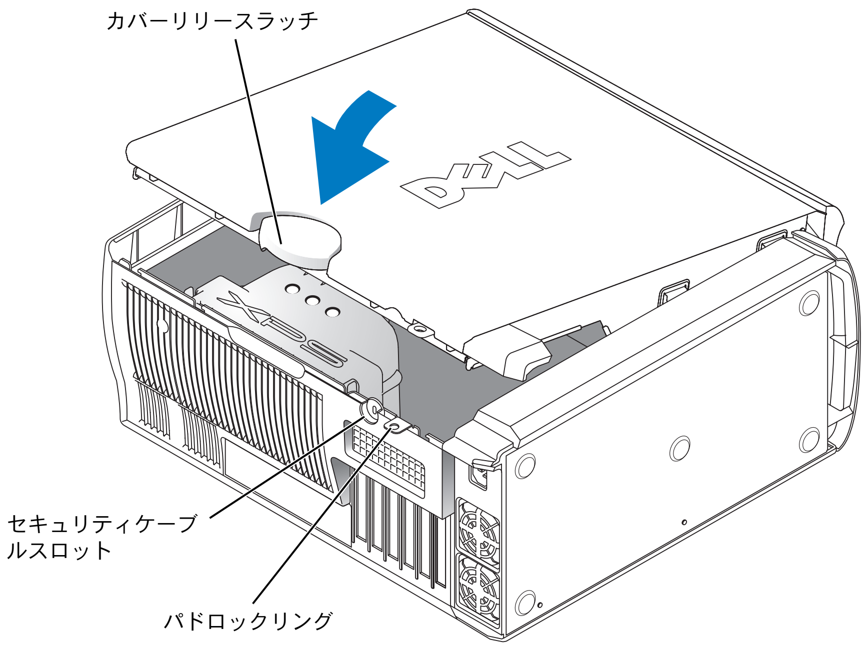
1 すべてのケーブルがしっかりと接続され、ケーブルが邪魔にならない場所に束ねられているか確認します。

2 コンピュータの内部に工具や余った部品が残っていないことを確認します。

3 カバーを回転させて所定の位置まで下ろします。

4 カバーを押して閉じます。

5 カバーを閉じたら、カチッと所定の位置に収まるまでリリースラッチを右方向にスライドさせます。



6 パドロックを使用してコンピュータを固定する場合は、パドロックを取り付けます。

注意：ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークポートまたはデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

7 コンピュータおよびデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

6

付録

仕様

プロセッサ	
プロセッサタイプ	HT テクノロジまたはデュアルコアプロセシング対応の Intel® Pentium® 4 Extreme Edition **メモ：**すべての Pentium 4 プロセッサが HT（ハイパースレッディング）テクノロジやデュアルコアプロセシングをサポートしているわけではありません。
キャッシュ	1 MB または 2 MB

メモリ	
タイプ	533 MHz および 667 MHz DDR2 アンバッファ SDRAM
メモリコネクタ	× 4
メモリ容量	256 MB、512 MB、1 GB、または 2 GB 非 ECC
最小メモリ	512 MB
最大搭載メモリ	2 GB または 8 GB **メモ：**オペレーティングシステムで利用可能なメモリのサイズを確認する方法については、「メモリアドレッシングとメモリ構成」（88 ページ）を参照してください。
BIOS アドレス	F0000h

コンピュータ情報	
チップセット	Nvidia nForce4 SLI X16 MCP
DMA チャネル	× 5
割り込みレベル	24
BIOS チップ (NVRAM)	4 Mb
NIC	10/100/1000 Mbps の通信が可能なオンボード NIC
システムクロック	800 または 1066 MHz データ転送速度 （プロセッサにより異なる）

ビデオ	
タイプ	PCI Express

オーディオ	
タイプ	AC97 7.1 チャネル

拡張バス	
バスのタイプ	PCI 32 ビット PCI Express x1 および x16
バス処理速度	PCI：33 MHz PCI Express：1 レーンあたり 2.5 Gb / 秒の raw 帯域幅（双方向）
バススループット	PCI Express： x1 スロット双方向速度 — 500 MB / 秒 x16 スロット双方向速度 — 8 GB / 秒
PCI	
コネクタ	× 3
コネクタのサイズ	120 ピン
コネクタのデータ幅（最大）	32 ビット
PCI Express	**メモ：** デュアルグラフィックス構成の各 PCI Express x16 カードスロットにグラフィックカードを取り付けている場合、PCI Express x1 カードスロットは利用できません。
コネクタ	× 1 × 1
コネクタのサイズ	36 ピン
コネクタのデータ幅（最大）	PCI Express レーン× 1
PCI Express	
コネクタ	× 2 × 16
コネクタのサイズ	164 ピン
コネクタのデータ幅（最大）	PCI Express レーン× 16

ドライブ	
外部アクセス可能	3.5 インチドライブベイ× 1
	5.25 インチドライブベイ× 3
利用可能なデバイス	シリアル ATA ドライブ、フロッピードライブ、メモリデバイス、CD ドライブ、CD-RW ドライブ、DVD ドライブ、DVD-RW ドライブ、および DVD / CD-RW コンボドライブ、メディアカードリーダー
内部アクセス可能	1 インチ高のハードドライブベイ× 3

コネクタ	
外付けコネクタ：	
IEEE 1394	正面および背面パネルの 6 ピンシリアルコネクタ
ネットワークアダプタ	RJ45 コネクタ
PS/2（キーボード / マウス）	6 ピンミニ DIN × 2
シリアル	9 ピンコネクタ
USB	USB 2.0 準拠コネクタ（正面パネル× 2、背面パネル× 6、内蔵× 2）
システム基板コネクタ：	
IDE ドライブ	40 ピンコネクタ× 1
シリアル ATA	7 ピンコネクタ× 4
フロッピードライブ	34 ピンコネクタ
ファン	5 ピンコネクタ× 4
PCI	120 ピンコネクタ× 3
PCI Express × 1	36 ピンコネクタ
PCI Express × 16	164 ピンコネクタ× 2

ボタンとライト	
電源ボタン	プッシュボタン
電源ライト	緑色のライト — 緑色の点滅はスリープ状態です。緑色の点灯は電源投入状態です。
	黄色のライト — 黄色の点滅は取り付けられているデバイスに問題が発生していることを示します。黄色の点灯は内部電源の問題を示します（「電源の問題」（51 ページ）を参照）。
ハードドライブライト	緑色

ボタンとライト （続き）	
リンク保全ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	緑色のライト — 10 Mbps のネットワークとコンピュータが正しく接続されていることを示します。
	橙色のライト — 100 Mbps のネットワークとコンピュータが正しく接続されていることを示します。
	黄色のライト — 1 GB（または 1000-Mbps）のネットワークとコンピュータが正しく接続されていることを示します。
	オフ（点灯なし）— ネットワークとの物理的な接続が検知されていません。
アクティビティライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	ネットワーク上にアクティビティが存在するときに黄色に点滅します。ネットワーク上にアクティビティが存在しない場合は、ライトは点灯しません。
診断ライト	正面パネルにライトが 4 つ（「診断ライト」（59 ページ）を参照）
スタンバイ電源ライト	システム基板上の AUXPWR
ケース背面ライト	色のオプション : オフ（点灯なし）、ルビー、エメラルド、サファイア（デフォルト）、アンバー、アメジスト、トパーズ、ダイヤモンド（「正面パネルのライト色の変更」（15 ページ）を参照）

電源	
650 W DC 電源装置 :	
ワット数	650 W
放熱	1000 BTU / 時（486 kJ / 時）
電圧（電圧設定に関する重要な情報については『製品情報ガイド』の「安全にお使いいただくために」を参照してください）	固定電圧電源 — 110 V、50 / 60 Hz
	手動選択および自動検出電源 — 50 / 60 Hz で 90 ～ 135 V、50 / 60Hz で 180 ～ 265 V、50 / 60 Hz で 100 V（日本国内向けコンピュータの場合）
バックアップバッテリー	3 V CR2032 コイン型リチウム電池

物理的仕様	
高さ	49.1 cm
幅	22.2 cm
奥行	48.8 cm
重量	19 kg

環境	
温度：	
動作時	10 ～ 35 ℃
保管時	-40 ～ 65 ℃
相対湿度	20% ～ 80% (結露しないこと)
最大振動：	
動作時	0.25 G（3 ～ 200 Hz、0.5 オクターブ / 分）
保管時	0.5 G（3 ～ 200 Hz、1 オクターブ / 分）
最大耐久衝撃：	
動作時	ボトムハーフサインパルス（50.8 cm / 秒の速度変化）
保管時	27 G フェアードスクエアウェーブ（508 cm / 秒の速度変化）
高度：	
動作時	-15.2 m ～ 3,048 m
保管時	-15.2 m ～ 10,668 m

セットアップユーティリティ

概要

セットアップユーティリティは次の場合に使用します。

- コンピュータに対してハードウェアの取り付け、変更、取り外しを行った後に、システム設定情報を変更する場合
- ユーザーパスワードなどの、ユーザーが選択可能なオプションを設定または変更する場合
- 現在のメモリの容量を調べたり、取り付けたハードドライブの種類を設定する場合

セットアップユーティリティを使用する前に、システム設定画面の情報を控えておくことをお勧めします。

注意：コンピュータの操作に詳しい方以外は、このプログラムの設定を変更しないことをお勧めします。変更内容によっては、コンピュータが正しく動作しないことがあります。

セットアップユーティリティの起動

1 コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。

2 青い DELL™ ロゴの画面が表示されたら、<F2> キーをすぐに押します。

キーを押すタイミングが遅れて、オペレーティングシステムのロゴが表示されてしまったら、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるまでそのまま待機します。デスクトップが表示されたら、コンピュータをシャットダウンして（「コンピュータの電源を切る」（77 ページ）を参照）、操作をやり直してください。

セットアップユーティリティ画面

セットアップユーティリティ画面には、お使いのコンピュータの現在の（または変更可能な）設定情報が表示されます。画面の情報は、オプションのリスト、アクティブなオプションのフィールド、キー操作という 3 つの領域に分割されています。

<table>
<tr>
<td rowspan="2">Options List（オプションリスト）— このフィールドは、セットアップユーティリティウィンドウの左側に表示されます。このフィールドは、スクロール付きのボックスで、お使いのコンピュータの設定（搭載しているハードウェア、省電力、およびセキュリティ機能など）を示す機能を一覧表示します。

上下の矢印キーで、リストを上下にスクロールしてください。オプションをハイライト表示すると、Option Field（オプションフィールド）にオプションの詳細、現在の設定、および利用可能な設定が表示されます。</td>
<td>Option Field（オプションフィールド）— このフィールドには、各オプションの説明が表示されます。このフィールドでは、現在の設定を表示したり設定を変更できます。

左右の矢印キーを使用して、オプションをハイライト表示します。選択をアクティブにするには、<Enter> を押します。</td>
</tr>
<tr>
<td>Key Functions（キー操作）— このフィールドは Option Field（オプションフィールド）の下に表示され、キーに割り当てられた機能をアクティブなセットアップユーティリティフィールド内に一覧表示します。</td>
</tr>
</table>

セットアップオプション

メモ：コンピュータや取り付けられているデバイスによっては、本項に一覧表示されている項目が表示されなかったり、記載どおりに表示されないことがあります。

System	
System Info	コンピュータ名、BIOS のバージョン番号と日付、システムタグ、その他のシステム固有情報などのシステム情報を表示します。
CPU Info	コンピュータのプロセッサがハイパースレッディングをサポートしているかどうかを識別し、プロセッサバス速度、プロセッサ ID、クロック速度、および L2 キャッシュを一覧表示します。
Memory Info	搭載メモリのサイズ、メモリ速度、チャネルモード（デュアルまたはシングル）、および搭載メモリのタイプを表示します。
PCI Info	拡張カードタイプをスロットの位置ごとに示します。
Date/Time	現在の日付と時刻の設定を表示します。
Boot Sequence	この一覧で指定されたデバイス順序に従って、コンピュータを起動します。 **メモ：**起動デバイスを挿入してコンピュータを再起動すると、このオプションがセットアップユーティリティメニューに表示されます。USB メモリデバイスから起動するには、USB デバイスを選択して、一覧の先頭に移動します。
Drives	
Diskette Drive	システム基板の DSKT コネクタに接続されたフロッピードライブを識別して定義します。定義の種類は、**Off（オフ）**、**USB**、**Internal（内蔵）**、または **Read Only（読み取り専用）**です。
SATA Drives 0 through 3	SATA ドライブの設定を識別して定義します。SATA ドライブは、**On**（オン）、**Off**（オフ）、または **RAID On**（RAID オン）のいずれかに設定できます。デフォルト設定は **On**（オン）です。
PATA Drives 0 through 1	システム基板の ATA コネクタに接続されたドライブを識別し、ハードドライブの容量を一覧表示します。
Smart Reporting	システムの起動時に内蔵ハードドライブのエラーを報告するかどうかを決定します。**Off**（オフ）に設定するとエラーを報告しません。**On**（オン）に設定するとエラーを報告します。
Onboard Devices	
Integrated NIC	オンボード NIC コントローラの有効 / 無効を切り替えます。**Off**（オフ）に設定するとコントローラは無効になります。**On**（オン）に設定するとコントローラは有効になります。 **メモ：**PXE と RPL は、このシステムのハードドライブ上のオペレーティングシステムから起動するのではなく、別のシステム上のオペレーティングシステムから起動する場合にのみ必要です。

Audio Controller	オンボードオーディオコントローラの有効 / 無効を切り替えます。
USB Controller	（デフォルトは **On（オン）**）内蔵 USB コントローラの有効 / 無効を切り替えます。**Off**（オフ）に設定するとコントローラは無効になります。**On**（オン）に設定するとコントローラは有効になります。**No Boot**（ブートなし）に設定するとコントローラは有効になりますが、USB デバイスからの起動はできません。
1394 Controller	IEEE 1394 コントローラの有効 / 無効を切り替えます。
Serial Port #1	シリアルポートのアドレスの無効 / 選択を切り替えます。オプションには、**Off**（オフ）、**Auto**（自動）（ポートが自動的に選択され、両方のアドレスが使用中の場合は無効になります）、**COM1**、および **COM3** があります。
PS/2 Mouse Port	オンボード PS/2 互換マウスコントローラの有効 / 無効を切り替えます。
Front LED Color	この設定を使用すると、正面パネルの背面ライトを、オフ、ルビー、エメラルド、アンバー、サファイア、アメジスト、トパーズ、およびダイヤモンドに変更することができます。
Video	
Primary Video	コンピュータ上に 2 つのビデオコントローラが存在する場合、どちらがプライマリになるかを指定します。
Performance	
Hyper-Threading	プロセッサがハイパースレッディングをサポートしている場合、**Options List**（オプションリスト）にこのオプションが表示されます。
Multiple CPU Core	有効なコアを複数にするかどうかを指定します。複数のコアを有効にするとパフォーマンスが向上するアプリケーションもあります。デフォルトは **On**（オン）で、2 番目のコアが有効です。
HDD Acoustic Mode	• **Bypass**（バイパス）— お使いのコンピュータは、現在のアコースティックモードの設定をテストまたは変更しません。 • **Quiet**（静粛）（デフォルト）— ハードドライブは最も静かな設定で動作します。 • **Suggested**（推奨）— ハードドライブは、ドライブ製造元が推奨する速度レベルで動作します。 • **Performance**（パフォーマンス）— ハードドライブは最大速度で動作します。 **メモ：**Performance（パフォーマンス）モードへ切り替えると、ドライブはより大きなノイズを発生する場合がありますが、動作に影響はありません。 **メモ：**アコースティック設定を変更しても、ハードドライブイメージは変わりません。

CPU Clock Speed	このオプションでは、プロセッサの動作周波数をプロセッサの製造元の設計仕様を上回る速度にすることが可能です。このオプションを使用すると保証が無効になる場合があります。 **注意：**デルでは、オーバークロック（動作周波数を上げること）をお勧めしません。オーバークロックを行うとプロセッサの寿命が縮むおそれがあります。デルでは、お使いのコンピュータが動作速度を上げた状態で安定する、または動作することを保証致しません。
Security	利用可能なシステムセキュリティオプションを表示します。
Admin Password	コンピュータのセットアップユーティリティへのアクセスを制限できます。これは、**System Password**（システムパスワード）オプションでシステムへのアクセスを制限するのと同様のオプションです。
System Password	システムのパスワードセキュリティ機能の現在のステータスを表示し、新しいシステムパスワードの設定と検証を可能にします。
Password Changes	セットアップパスワードを使用して、システムパスワードフィールドをロックします。フィールドをロックすると、コンピュータの起動時に <Ctrl><Enter> を押してもパスワードセキュリティを無効にできません。
DEP (Execute Disable)	• **Opt-In** （デフォルト）— NX 対応プロセッサを搭載したコンピュータ上ではデフォルトで DEP が有効になっています。このオプションでは、Windows システムバイナリのみが DEP の対象となります。アプリケーションについては、アプリケーション互換シムを作成しアプリケーションとともにそのシムをインストールすることで、DEP 保護を有効にできます。 • **Opt-Out** — DEP はすべてのプロセスに対して有効です。ユーザーは、システムのプロパティで特定のアプリケーションについての例外を手動で作成できます。または、IT 担当者や ISV は Application Compatibility Toolkit を使用して opt-out 設定を行うことができます。 • **Always On**（常時オン）— 例外なく完全に DEP を適用します。 • **Always Off**（常時オフ）— ユーザーモードでの DEP の適用を行いません。ドライバおよび Windows コアカーネルバイナリは DEP の対象ですが、その他のバイナリは対象アプリケーションのセットに含まれません。

Power Management	
AC Recovery	コンピュータに AC 電源が回復した場合にどうするかを設定します。
Auto Power On	コンピュータに自動的に電源を投入するよう設定します。選択可能なオプションは、**every day**（毎日）、または毎週 **Monday through Friday**（月～金）です。 デフォルト設定は **Off**（オフ）です。 この機能は、電源タップやサージプロテクタでコンピュータをシャットダウンした場合は動作しません。
Auto Power Time	コンピュータに自動的に電源を投入する時刻を設定します。 時刻は 24 時間形式（時：分）で表示されます。左右の矢印キーを押して数値を増減するか、日付と時刻のフィールドの両方に数値を入力して、起動する時刻を変更します。 この機能は、電源タップやサージプロテクタでコンピュータをシャットダウンした場合は動作しません。
Suspend Mode	選択可能なオプションは、**S1**（コンピュータが低電力モードで動作するサスペンド状態）と **S3**（ほとんどのコンポーネントへの供給電力を抑制または停止するスタンバイ状態）です。ただし、システムメモリはアクティブなままです。
Maintenance	
Load Defaults	コンピュータを工場出荷時のデフォルト設定に戻します。
Event Log	システムのイベントログを表示します。
POST Behavior	
Fastboot	**On**（オン）（デフォルト）に設定すると、一部の設定とテストがスキップされるため、コンピュータが高速に起動します。
Numlock Key	このオプションは、キーボードの一番右側にあるキーに関係します。**On**（オン）（デフォルト）に設定すると、各キートップに表示されている数字と演算記号が有効になります。**Off**（オフ）に設定すると、各キーの側面に表示されているカーソル制御機能が有効になります。
POST Hotkeys	このオプションを使用すると、コンピュータの起動時に表示されるファンクションキーを指定できます。
Keyboard Errors	このオプションを使用すると、コンピュータの起動時にキーボードエラーを報告するかどうかを指定できます。

Boot Sequence（起動順序）

この機能を使用すると、デバイスの起動順序を変更できます。

オプション設定

- **Diskette Drive**（ディスケットドライブ）— コンピュータがフロッピードライブからの起動を試みます。ドライブ内のフロッピーディスクが起動用でない場合、フロッピーディスクがドライブにない場合、またはコンピュータにフロッピードライブが取り付けられていない場合、コンピュータは起動順序内で次に起動可能なデバイスからの起動を試みます。
- **Hard Drive**（ハードドライブ）— コンピュータはプライマリハードドライブからの起動を試みます。そのドライブ上にオペレーティングシステムが存在しない場合は、コンピュータは起動順序内で次に起動可能なデバイスからの起動を試みます。
- **CD Drive**（CD ドライブ）— コンピュータは CD ドライブからの起動を試みます。そのドライブに CD が挿入されていない場合、または CD にオペレーティングシステムが含まれていない場合、コンピュータは起動順序内で次に起動可能なデバイスからの起動を試みます。
- **USB Flash Device**（USB フラッシュデバイス）— USB ポートにメモリデバイスを挿入し、コンピュータを再起動します。画面の右上隅に `F12 = Boot Menu` と表示されたら、<F12> を押します。BIOS がデバイスを認識し、USB flash オプションを起動メニューに追加します。

メモ：USB デバイスから起動するには、そのデバイスが起動可能デバイスである必要があります。デバイスのマニュアルを参照して、デバイスが起動可能かどうかを確認してください。

メモ：コンピュータが起動順序内のすべてのデバイスからの起動を試み、オペレーティングシステムが見つからなかった場合にのみ、エラーメッセージが生成されます。

現在の起動用の起動順序の変更

たとえば、この機能を使って、『Dell Dimension ResourceCD』から Dell Diagnostics（診断）を実行するために CD ドライブからコンピュータを起動するように、そして、診断テストが完了したらハードドライブから起動するように指定できます。また、フロッピードライブ、メモリキー、CD-RW ドライブなどの USB デバイスからコンピュータを再起動するときにもこの機能を使用できます。

メモ：USB フロッピードライブから起動する場合、まずセットアップユーティリティでフロッピードライブを OFF に設定する必要があります（「セットアップユーティリティ」（143 ページ）を参照）。

1. USB デバイスから起動するときは、USB デバイスを USB コネクタに接続します（「正面（ドアを開けた状態）」（80 ページ）を参照）。
2. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。

3 画面の右上隅に `F2 = Setup, F12 = Boot Menu` と表示されたら、<F12> を押します。

キーを押すタイミングが遅れて、オペレーティングシステムのロゴが表示されてしまったら、Microsoft Windows デスクトップが表示されるまでそのまま待機します。デスクトップが表示されたら、コンピュータをシャットダウンして（「コンピュータの電源を切る」（77 ページ）を参照）、操作をやり直してください。

使用可能な起動デバイスをすべて一覧表示した **Boot Device Menu（起動デバイスメニュー）** が表示されます。各デバイスには、横に番号が付いています。

4 メニューの一番下で、現在の起動のみに使用されているデバイスの番号を入力します。

たとえば、USB メモリキーから起動する場合は、**USB Flash Device（USB フラッシュデバイス）** をハイライト表示して <Enter> を押します。

メモ：USB デバイスから起動するには、そのデバイスが起動可能デバイスである必要があります。デバイスのマニュアルを参照して、デバイスが起動可能かどうかを確認してください。

将来の起動用の起動順序の変更

1 セットアップユーティリティを起動します（「セットアップユーティリティの起動」（144 ページ）を参照）。

2 矢印キーを使って **Boot Sequence**（起動順序）メニューオプションをハイライト表示し、<Enter> を押してポップアップメニューにアクセスします。

メモ：後で元に戻すこともできるよう、現在の起動順序を控えておきます。

3 デバイスの一覧内を移動するには、上下矢印キーを押します。

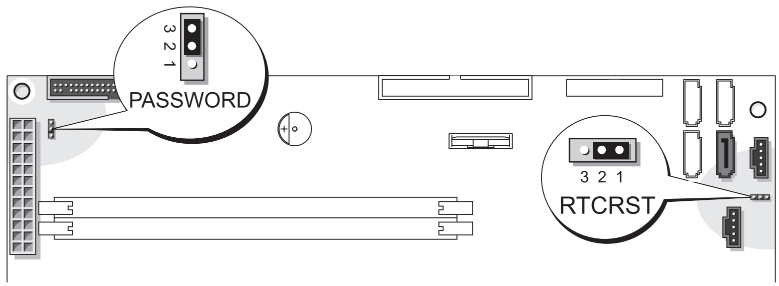
4 デバイスを有効または無効にするには、スペースバーを押します（有効にしたデバイスにはチェックマークが付いています）。

5 選択したデバイスをリストの上または下に移動するには、プラス（+）またはマイナス（–）を押します。

忘れたパスワードの取り消し

警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。

1 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従います。



2 システム基板上にある 3 ピンパスワードジャンパ（PASSWORD）を見つけ（「「システム基板のコンポーネント」（86 ページ）」を参照）、ジャンパプラグをピン 2 とピン 3 に取り付けて、パスワードをクリアします。

メモ：工場出荷時は、ジャンパプラグがピン 1 とピン 2 に取り付けられています。

3 コンピュータカバーを閉じます。

4 コンピュータおよびモニターをコンセントに接続して、電源を入れます。

5 Microsoft® Windows® デスクトップが表示されたら、コンピュータをシャットダウンします（「コンピュータの電源を切る」（77 ページ）を参照）。

6 モニターの電源を切ってコンセントから外します。

7 コンピュータの電源ケーブルをコンセントから外し、電源ボタンを押してシステム基板の静電気を逃がします。

8 コンピュータカバーを開きます（「コンピュータカバーを開く」（84 ページ）を参照）。

9 システム基板上にある 3 ピンパスワードジャンパを見つけ（「システム基板のコンポーネント」（86 ページ）を参照してください）、ジャンパプラグをピン 1 とピン 2 に取り付けて、パスワード機能を再度有効にします。

10 コンピュータカバーを取り付けます（「コンピュータカバーを閉じる」（137 ページ）を参照）。

注意：ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

11 コンピュータおよびデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

CMOS 設定の取り消し

警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。

1 「作業を開始する前に」（77 ページ）の手順に従ってください。

2 最新の CMOS 設定にリセットします。

a システム基板上の 3 ピン CMOS ジャンパ（RTCRST）を見つけます（「システム基板のコンポーネント」（86 ページ）を参照）。

b ピン 1 とピン 2 からジャンパプラグを取り外します。

c ジャンパプラグをピン 2 とピン 3 に取り付けて、約 5 秒待ちます。

d ジャンパプラグをピン 1 とピン 2 に再度取り付けます。

3 コンピュータカバーを閉じます（「コンピュータカバーを閉じる」（137 ページ）を参照）。

注意：ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

4 コンピュータおよびデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

コンピュータのクリーニング

警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意事項に従い、この項の手順を開始してください。

コンピュータ、キーボード、およびモニター

警告：コンピュータをクリーニングする前に、コンピュータの電源ケーブルをコンセントから抜きます。コンピュータのクリーニングには、水で湿らせた柔らかい布をお使いください。液体クリーナーやエアゾールクリーナーは使用しないでください。可燃性物質を含んでいる場合があります。

- ブラシの付いた掃除機を使って、コンピュータのスロット部分や開口部、およびキーとキーボードの間から慎重にほこりを取り除きます。

注意：モニター画面を石鹸またはアルコール溶液で拭かないでください。反射防止コーティングが損傷するおそれがあります。

- モニター画面をクリーニングするには、水で軽く湿らした柔らかくて清潔な布を使います。可能であれば、画面クリーニング専用ティッシュまたはモニターの静電気防止コーティング用の溶液をお使いください。

- キーボード、コンピュータ、およびモニターのプラスチック部分は、水と中性液体洗剤を 3 対 1 で混ぜ合わせた溶液で湿らした柔らかくて清潔なクリーニング布を使って拭きます。

  クリーニング布を浸さないでください。またコンピュータやキーボードの内部に水が入らないようにしてください。

マウス

画面のカーソルが飛んだり、異常な動きをする場合は、マウスをクリーニングします。
光学式でないマウスをクリーニングするには、次の手順を実行します。

1 マウスの底の保持リングを反時計回りに回して、ボールを取り外します。
2 清潔で糸くずの出ない布でボールを拭きます。
3 ボールケージを軽く吹いて、ほこりや糸くずを取り除きます。
4 ボールケージ内側のローラーに汚れが堆積している場合、イソプロピルアルコールを軽く含ませた綿棒で取り除きます。
5 ローラーが溝からずれてしまった場合は、中央になおします。綿棒の綿毛がローラーに残っていないか確認します。
6 ボールと保持リングを取り付けます。カチッと所定の位置に収まるまで、保持リングを時計回りに回します。

フロッピードライブ

注意：綿棒でドライブヘッドを拭かないでください。誤ってヘッドがずれてしまい、ドライブが動作しなくなる場合があります。

市販のクリーニングキットを使ってフロッピードライブをきれいにします。市販のキットには通常の動作中に付着した汚れを取り除くよう前処理されたフロッピーディスクが入っています。

CD および DVD

注意：CD / DVD ドライブのレンズの手入れには、必ず圧縮空気を使用して、圧縮空気に付属しているマニュアルの手順に従ってください。ドライブのレンズには絶対に触れないでください。

CD や DVD がスキップしたり、音質や画質の低下がみられる場合は、ディスクを掃除してみます。

1 ディスクの外側の縁を持ちます。中央の穴の縁に触れることもできます。

注意：円を描くようにディスクを拭くと、ディスク表面に傷をつけるおそれがあります。

2 糸くずの出ない柔らかな布で、ディスクの裏面（ラベルのない面）を中央から縁に向けて放射状にそっと拭きます。

   頑固な汚れには、水、または石鹸を薄めた水を使用します。ディスクの汚れを落とし、ほこりや指紋、ひっかき傷などからディスクを保護する市販のディスククリーナーもあります。CD 用のクリーニング製品は、DVD にも使用できます。

デルの連絡先

インターネット上でのデルへのアクセスには、次のアドレスをご利用ください。

- **www.dell.com/jp**
- **support.jp.dell.com**（テクニカルサポート）
- **premier.dell.co.jp/premier**（プレミア、プラチナ、ゴールドカスタマーを含む教育、政府、医療機関、中規模および大規模企業のカスタマー向けテクニカルサポート）

デルへお問い合わせになる場合、以下の表の電子アドレス、電話番号、およびコードをご利用ください。

メモ：フリーコールは、サービスを提供している国内でのみご利用になれます。

メモ：一部の国では、対象国ごとの電話番号一覧を参照して、Dell ™ XPS ポータブルコンピュータ専用のテクニカルサポートを受けることができます。ポータブル XPS コンピュータ専用の電話番号が一覧にない場合は、テクニカルサポート電話番号を通じてデルにお問い合わせいただければ、担当者におつなぎします。

デルへお問い合わせになる際には、次の表の電子アドレス、電話番号、およびコードをご利用ください。国際電話のかけ方については、国内または国際電話会社にお問い合わせください。

国（都市） 国際電話アクセスコード 国番号 市外局番	**部署名またはサービス内容、 ウェブサイトおよび電子メールアドレス**	**市外局番 市内番号、または フリーコール**
日本（川崎）	ウェブサイト：**support.jp.dell.com**	
国際電話アクセスコード：**001**	テクニカルサポート （Dimension および Inspiron）	フリーコール： 0120-198-226
国番号：**81**	テクニカルサポート（海外から） （Dimension および Inspiron）	81-44-520-1435
市外局番：**44**	テクニカルサポート（PDA、プロジェクタ、プリンタ、ルーター）	フリーコール： 0120-981-690
	テクニカルサポート（海外から） （PDA、プロジェクタ、プリンタ、ルーター）	81-44-556-3468
	ファックス情報サービス	044-556-3490
	24 時間納期案内電話サービス	044-556-3801
	カスタマーケア	044-556-4240
	ビジネスセールス本部（従業員数 400 人未満）	044-556-1465
	法人営業本部（従業員数 400 人以上）	044-556-3433
	エンタープライズ営業本部 （従業員数 3500 人以上）	044-556-3430
	官公庁 / 研究・教育機関 / 医療機関セールス	044-556-1469
	デルグローバルジャパン	044-556-3469
	個人のお客様	044-556-1760
	代表電話番号	044-556-4300

索引

ら